

保健師助産師看護師国家試験出題基準

令和5年版

厚生労働省医政局看護課

目 次

保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会 委員名簿	i
保健師助産師看護師国家試験出題基準 令和5年版 改定概要	iii
保健師助産師看護師国家試験出題基準とは	ix
保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用法	ix

【保健師国家試験出題基準】

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論	保-1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループへの支援）	保-4
公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域組織・地域への支援、事業化と施策化）	保-7
対象別公衆衛生看護活動論	保-10
学校保健・産業保健	保-15
健康危機管理	保-18
公衆衛生看護管理論	保-21
疫学	保-23
保健統計	保-26
保健医療福祉行政論	保-29

【助産師国家試験出題基準】

基礎助産学

基礎助産学Ⅰ	助-1
基礎助産学Ⅱ	助-6

助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	助-9
助産診断・技術学Ⅱ	助-11
地域母子保健	助-33
助産管理	助-36

【看護師国家試験出題基準】

必修問題	看-1
人体の構造と機能	看-11
疾病の成り立ちと回復の促進	看-16
健康支援と社会保障制度	看-24
基礎看護学	看-31
成人看護学	看-36
老年看護学	看-50
小児看護学	看-56
母性看護学	看-64
精神看護学	看-71
在宅看護論／地域・在宅看護論	看-77
看護の統合と実践	看-82

【参考】保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書（令和3年3月31日）

令和3年度 医道審議会保健師助産師看護師分科会
保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会 委員名簿

	氏名	所属
部会長	◎ 萱間 真美	聖路加国際大学大学院 看護学研究科
保健師	○ 鈴木 良美 岡 利香 亀崎 路子 佐伯 和子 高橋 郁子 都筑 千景 坪川 トモ子 原田 小織 横川 博英	東京医科大学 医学部 横浜市 神奈川福祉保健センター 杏林大学 保健学部 富山県立大学 看護学部 帝京平成大学 ヒューマンケア学部 大阪府立大学大学院 看護学研究科 新潟青陵大学 看護学部 専門学校 愛知保健看護大学校 順天堂大学 医学部
助産師	○ 山崎 圭子 秋田 浩子 浅見 恵梨子 五石 圭司 佐藤 陽子 佐山 理絵 永松 健 藤井 ひろみ 米山 万里枝	宮崎大学 医学部 専門学校 ベルランド看護助産大学校 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 国立国際医療研究センター 昭和大学病院 上智大学 総合人間科学部 東京大学医学部附属病院 大手前大学 国際看護学部 東京医療保健大学 医療保健学部
看護師 必修問題	○ 水戸 優子 栗田 美幸 佐居 由美	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 県立愛知看護専門学校 聖路加国際大学大学院 看護学研究科
人体の構造と機能	○ 深井 喜代子 橋本 尚詞 前田 ひとみ	東京慈恵会医科大学 東京慈恵会医科大学 熊本大学大学院 生命科学研究部
疾病の成り立ちと回復の促進	○ 縄 秀志 川井 真 長堀 隆一	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 東京慈恵会医科大学 東京慈恵会医科大学
健康支援と社会保障制度	○ 波川 京子 大橋 俊子	川崎医療福祉大学 保健看護学部 栃木県南健康福祉センター
基礎看護学	○ 習田 明裕 朝倉 京子 水方 智子	東京都立大学 人間健康科学研究科 東北大学大学院 医学系研究科 パナソニック健康保険組合立 松下看護専門学校
成人看護学	○ 鈴木 久美 平井 由児 山勢 善江 山田 緑	大阪医科薬科大学 看護学部 東京医科大学八王子医療センター 湘南医療大学 保健医療学部 共立女子大学 看護学部
老年看護学	○ 征矢野 あや子 倉田 貴子 横島 啓子	京都橘大学 看護学部 千葉県立野田看護専門学校 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部
小児看護学	○ 横山 由美 石井 由美 熊谷 秀規	自治医科大学 看護学部 千葉大学医学部附属病院 アレルギーセンター 自治医科大学 医学部
母性看護学	○ 服部 律子 松永 佳子 山本 智美	奈良学園大学 保健医療学部 東邦大学 看護学部 社会福祉法人聖母会 聖母病院
精神看護学	○ 森 真喜子 木戸 芳史 宮本 有紀	国立看護大学校 看護学部・研究課程部 浜松医科大学 医学部 東京大学大学院 医学系研究科
在宅看護論／地域・在宅看護論	○ 山田 雅子 河野 政子 小西 かおる	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 地域包括ケアコンサルティングあるす 大阪大学大学院 医学系研究科
看護の統合と実践	○ 宮本 千津子 冷水 陽子 渡辺 美保子	東京医療保健大学 千葉看護学部 鹿児島医療技術専門学校 公益財団法人星総合病院 教育研修センター

(◎：部会長、○：幹事委員)

(敬称略)

保健師助産師看護師国家試験出題基準 令和5年版 改定概要

I. はじめに

保健師助産師看護師国家試験の内容は、保健師、助産師及び看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、保健師助産師看護師国家試験出題基準（以下、「出題基準」という。）は、これらを具体的な項目によって示し、保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験の妥当な内容や範囲と適切な水準を確保する目的で作成されている。保健師及び助産師については平成10年、看護師については平成12年の国家試験から適用され、その後、社会の変化や看護を取り巻く状況を踏まえて、改定を重ねてきた。平成16年には看護師国家試験の必修問題の導入に伴い特に重要な基本的事項を出題基準として提示し、平成22年には必修問題の出題範囲を拡大するとともに、カリキュラム改正を踏まえ、新旧カリキュラムに対応可能となるよう項目を見直した。また、平成26年には実践能力の強化の観点から、各職種に求められる実践能力と卒業時の到達目標等を反映した内容とし、看護師国家試験では、「看護の統合と実践」の出題基準を新たに作成した。さらに、平成30年には「看護の統合と実践」において、複合的な事象に対して、より臨床実践に近い形で知識・技術を統合して判断する能力を問う出題内容となるよう、新たに項目を作成する等の見直しを行った。

令和3年3月に取りまとめられた「医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書」（以下、「制度改善検討部会報告書」という。）において、出題基準について、「看護基礎教育が修了した時点で備えているべき基本的な事項を問うために保健師助産師看護師のそれぞれの特徴を反映して出題されるよう、教育内容を踏まえ、改めて出題基準の体系や項目の見直しを行う」ことが提言された。また、小項目について、「中項目に関する内容をわかりやすくするために示したキーワードである」ことを踏まえて過度に限定的にならないよう抽象度を見直すこと、看護師国家試験の「看護の統合と実践」について、実際の試験問題の作成過程において難易度が上がりやすい等の課題があるため、「教育内容としての『看護の統合と実践』の導入の趣旨をふまえ、看護基礎教育を修了した時点で備えているべき基本的な事項として問う内容が明確となるよう項目を整理することが望ましい」ことが示された。

また、令和5年版の出題基準の適用に際して、「令和5年実施の保健師助産師看護師国家試験から数年間は改正前のカリキュラムで学んだ受験者と改正後のカリキュラムで学んだ受験者が混在することから、当該国家試験の受験に際して、両者ともに不利益を被ることがないように、特段の配慮が必要である」ことが留意点として挙げられた。

これらの提言を受け、令和3年8月より医道審議会保健師助産師看護師分科会のもとに保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会を設置し、ワーキンググループでの検討を含めて議論を重ね、出題基準の改定を行った。

II. 改定の概要

1. 全体的な事項

- 人口・疾病構造や社会背景などを踏まえつつ、近年の保健・医療・福祉の実情など看護を取り巻く状況の変化に伴い、より重要となる教育内容に関する項目の精選と充実を図った。
- 中項目が実際の「出題の範囲」であることから、具体的に示す内容や求める知識・能力が明確となるような表現の工夫を行った。また、出題基準は各学校養成所の教育で扱われる全ての内容を網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもないこと、加えて、小項目は「中項目に関する内容を分かりやすくするために示したキーワード」であることから、個々の記載事項に番号を振らない形式へと変更するとともに、過度に限定的にならないよう内容の精査を行った。
- 看護基礎教育におけるカリキュラムの改正経緯を踏まえ、各職種に求められる実践能力と卒業時の到達目標との整合性について留意しながら見直しを行った。一方で、令和5年版の出題基準は、改正前のカリキュラムで学んだ受験者と改正後のカリキュラムで学んだ受験者が混在する時期に使用されることから、双方のカリキュラムで学び得る内容となるよう配慮した。

2. 保健師国家試験出題基準

保健師国家試験においては、地域の多職種・多機関と連携・協働しながら事業化・施策化を含めた公衆衛生看護活動に関して、健康問題の多様化・複雑化や各分野における施策の動向等を踏まえ、保健師に求められる役割や能力に必要な知識について出題できるよう、目標の見直しや項目の整理・充実を行った。各科目における改定の概要は以下のとおり。

【公衆衛生看護学】

- 公衆衛生看護概論では、公衆衛生看護の概念・理念及び人々の健康に影響する背景・要因を基盤に、対象や活動の特性が決定されることから、目標の再構成を行った。加えて、公衆衛生看護の基本的な理念や背景について、時代の変化に応じて項目の充実を図った。
- 公衆衛生看護方法論Ⅰでは、公衆衛生看護活動における各支援の特徴・方法として、訪問に関する項目の充実を図った。公衆衛生看護方法論Ⅱでは、事業化及び施策化に係る具体的な展開方法について項目を整理した。
- 対象別看護活動論では、保健師の活動の実際や施策の動向を踏まえ、対象別の健康課題の特徴や保健師に求められる役割及び活動について明確になるよう項目を整理・追加した。
- 学校保健・産業保健では、学校保健及び産業保健の動向や、多様な健康課題に対して保健師が果たす役割やその活動実態を踏まえ、学校保健及び産業保健における主な健康課題とその支援及び保健活動に関する項目を整理・追加した。
- 健康危機管理では、感染症の集団発生に係る対応や予防のための保健活動について項目の充実を図った。
- 公衆衛生看護管理論では、組織管理、情報管理、業務管理に係る項目について、出題の範囲が明確となるよう大項目及び中項目の構造を見直した。

【疫学】

○疫学では、保健師に求められる役割を踏まえ、公衆衛生看護における疫学の活用の理解について目標を追加した。

【保健統計】

○保健統計では、保健師に求められる役割を踏まえ、地域の保健統計データの分析のための理解について目標を追加し、必要な統計分析に関する項目の充実を図った。

【保健医療福祉行政論】

○保健医療福祉行政論では、近年の行政や政策の動向を踏まえ項目を整理したほか、関係機関に係る項目の充実を図り、加えて、計画の策定・実施・評価や政策策定過程に係る項目の体系を整理した。

3. 助産師国家試験出題基準

助産師国家試験においては、助産師による支援を必要とする女性、妊婦・産婦・褥婦、新生児・乳幼児、家族の抱える課題及び背景の多様化、エビデンスや臨床実践の実態の変化を踏まえて、助産師に求められる助産診断・ケア能力に必要な知識について出題できるよう、項目の充実を図った。各科目における改定の概要は以下のとおり。

【基礎助産学】

○基礎助産学Ⅰでは、助産師国家試験で問う内容が明確となるよう、看護師国家試験との整合性に留意して項目を整理したほか、近年の社会背景と助産師に求められる役割を踏まえて性の多様性に関する項目の充実を図った。

○基礎助産学Ⅱでは、助産師基礎教育における教育実態やエビデンスを踏まえ、項目を追加した。

【助産診断・技術学】

○助産診断・技術学Ⅰでは、相談・教育の基盤となる理論や方法について項目の充実を図った。

○助産診断・技術学Ⅱでは、多様な背景を有する母子への支援の観点から、母子感染のリスクのある妊婦や精神疾患を合併する妊婦への支援、母体疾患・生活習慣に起因する新生児の問題への支援等について項目の充実を図った。加えて、近年の分娩の実態を踏まえて、分娩時の麻酔の管理と助産ケアに関する中項目を新設した。

【地域母子保健】

○地域母子保健では、近年の母子保健行政の動向を踏まえて、関連する法律や施策について整理・追加した。

【助産管理】

○助産管理では、助産師に関する関連法規や法的義務について体系の整理を行った。また、危機管理として災害への備えに関する項目の充実を図った。

4. 看護師国家試験出題基準

看護師国家試験においては、看護基礎教育におけるカリキュラムの改正経緯を踏まえ、看護の対象について地域における生活を含めて理解し、健康課題の多様化や看護の役割の拡大にあわせて、看護基礎教育を修了した時点で備えているべき必要な知識や能力を問うことができるよう、項目の充実を含めて見直しを行った。また、各領域における出題の範囲が明確となるよう、領域間の項目の調整や、中項目及び小項目の体系の整理や表現の見直しを行った。各科目における改定の概要は以下のとおり。

【必修問題】

○習熟度や難易度を考慮して、必修問題として問うべき内容の精査を行った。また、近年の教育現場及び臨床現場の実態を踏まえ、感染防止対策に関する項目の充実を図った。

【人体の構造と機能】

○人体の正常な構造及び機能に関して、疾病を理解するために必要な知識を問えるよう、目標及び各項目の見直しを行った。

○老化に関しては、老年看護学において支援とあわせて知識を問うことが適切なことから、項目を整理した。

【疾病の成り立ちと回復の促進】

○基礎医学における体系との整合性を踏まえ、全身の感染性疾患、皮膚機能に関する項目を新設したほか、看護基礎教育における基本的な知識として学ぶ疾患について項目を整理・追加した。

【健康支援と社会保障制度】

○目標との整合性を踏まえ、大項目及び中項目の体系を整理した。また、健康支援の基盤となる法・制度の近年の動向を反映し、全体的に項目を整理・追加した。

【基礎看護学】

○「必修問題」や「看護の統合と実践」との重複内容や整合性について全体的に整理し、出題の範囲やキーワードがより明確となるよう表現を見直すとともに、基礎看護学で問うべき内容を整理した。

【成人看護学】

○臨床現場における看護実践や看護基礎教育としての知識の必要性を踏まえて、各疾患や検査・処置・治療に関する患者及び家族への看護について、項目を整理・追加した。

【老年看護学】

○高齢者の生活や、高齢者に特有な症候・疾患・障害に関する看護について、老年看護学としての出題の範囲が明確となるよう、中項目及び小項目の体系と表現を全体的に見直した。

【小児看護学】

○子どもと家族への支援について、発達段階や課題を主眼として問うことができるよう、中項目及び小項目の体系を整理した。

【母性看護学】

○母性看護の基盤となる概念や、女性・母子を取り巻く環境について目標を統合し、項目を整理した。
○妊娠・分娩・産褥期及び早期新生児期における看護について、看護師国家試験としての出題範囲を考慮して項目を全体的に整理した。

【精神看護学】

○身体合併症のある患者への看護や、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築と社会資源の活用など、近年の精神看護における動向を踏まえて項目の充実を図った。

【在宅看護論／地域・在宅看護論】

○改正後のカリキュラムでは、「在宅看護論」が「地域・在宅看護論」に変更となり、科目の位置づけも変更となるが、改正前のカリキュラムの「在宅看護論」と改正後のカリキュラムの「地域・在宅看護論」の双方において適用する内容とするため、制度改善検討部会報告書における「看護師国家試験の試験科目を改正する省令（保健師助産師看護師法施行規則の一部を改正する省令）が施行されるまでの間、出題基準に『在宅看護論』を併記することが必要である」との指摘も踏まえ、表題を「在宅看護論／地域・在宅看護論」とし、位置づけは改正前のカリキュラムにそろえることとした。
○地域における多様な場における対象者や看護の役割の拡大を踏まえて項目の充実を図った。具体的には、地域・在宅看護の対象である在宅療養者及び家族の特徴と健康課題について、対象を取り巻く環境や地域での生活を含めた理解を問うとともに、地域における多様な場での看護の役割や多職種連携について、全体的な体系の再構成を含めて項目を整理・追加した。

【看護の統合と実践】

○制度改善検討部会報告書の提言を踏まえ、看護基礎教育を修了した時点で備えているべき基本的な事項として問う内容が明確となるよう、習熟度及び難易度も含めて検討し、全体的に項目を整理した。
○複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる判断能力を問う目標Ⅳについて、教育内容としての「看護の統合と実践」の導入の趣旨を踏まえ、切れ目のない支援を提供するための継続した看護、複合的な状況にある対象や看護を判断し危険を回避する取組み、安全確保のための総合的な判断・対応などに関する5つのテーマを提示し、これらのテーマをもとに、専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題することを明示した。

以上

保健師助産師看護師国家試験出題基準とは

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験（以下「保健師助産師看護師国家試験」という。）は、保健師助産師看護師法第 17 条に基づき、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識及び技能を評価するものである。

保健師助産師看護師国家試験の内容は、保健師、助産師及び看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、これらを具体的な項目によって示したものである。保健師助産師看護師試験委員（以下「試験委員」という。）は、保健師助産師看護師国家試験の妥当な内容や範囲及び適切な水準を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、保健師、助産師及び看護師学校養成所の教育で扱われる全ての内容を網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもない。

保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用法

利用者は以下の各項に留意し、利用すること。なお、各項目は、保健師助産師看護師国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点があるほか、各科目や項目間で内容が重複することがある。

1. 目標

目標は、保健師助産師看護師国家試験における出題のねらいを示している。この出題のねらいを踏まえ、大・中項目の記載内容によって、保健師、助産師及び看護師として少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能について出題する範囲が示されるものである。

2. 大・中・小項目の位置付け

1) 大項目

中項目を束ねる見出しである。なお、中項目の記載と併せて「出題の範囲」を示すことがある。

2) 中項目

保健師助産師看護師国家試験の「出題の範囲」となる事項である。

3) 小項目

中項目に関する内容を分かりやすくするために示したキーワードである。よって、小項目の表現や記載の有無に限らず、中項目で記載された内容が「出題の範囲」となることに留意する。

従って、「出題の範囲」は記載された事項に限定されず、標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容を含むものとする。

3. その他

1) 括弧書き

提示する同一事象に対し、異なる表現がある場合には、括弧書きで提示している。試験委員の判断により、括弧内・外の語を単独又は併記して使用できる。

なお、括弧は以下の規定により用いている。

< > : 直前の語の言い換え

- ① 正式名称と比しても略語の周知度や重要度が高い場合
- ② 和名と英名等によって同義語を記載する場合
- ③ 人名を冠した用語において原語を併記する場合

例 ; 世界保健機関<WHO> 権利擁護<アドボカシー> Apgar<アプガー>スコア など

() : 直前の語のさらに下位項目

- ① 直前の語の具体的な例示が必要な場合
- ② 特に重要な事項を示す場合

例 ; 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) 情報管理(個人情報の保護) など

2) 読点「、」及び中点「・」

関連する語を列記する際に、読点「、」及び中点「・」を以下の規定により用いている。ただし、検索の利便性を確保する観点から、索引には中点を使用せずに掲載している場合がある。

読点「、」 : 単純に列記する場合

例 ; 平均余命、平均寿命、健康寿命 大動脈瘤、大動脈解離 など

中点「・」 : 前後の語での重複を排して列記する場合、英熟語を使用する場合

例 ; 転倒・転落の防止 羊水の量・性状 インフォームド・コンセント など

保健師国家試験出題基準

保健師国家試験出題基準 目次

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論	保－1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループへの支援）	保－4
公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域組織・地域への支援、事業化と施策化）	保－7
対象別公衆衛生看護活動論	保－10
学校保健・産業保健	保－15
健康危機管理	保－18
公衆衛生看護管理論	保－21

疫学	保－23
----	------

保健統計	保－26
------	------

保健医療福祉行政論	保－29
-----------	------

索引	保－32
----	------

公衆衛生看護学

【公衆衛生看護学概論】

- 目標Ⅰ．公衆衛生看護の概念・理念について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．地域や社会の動向、人々の健康に影響する背景・要因と健康課題について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ．公衆衛生看護の対象や活動の特性について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 公衆衛生看護の基本	A. 公衆衛生看護の概念と変遷	公衆衛生看護の定義 諸外国の公衆衛生と公衆衛生看護 日本の公衆衛生と公衆衛生看護
	B. 公衆衛生看護の基本理念	公衆衛生の向上と増進 社会的公正 生存権の保障 プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション 持続可能な開発目標<SDGs> well-being 国際生活機能分類<ICF> ノーマライゼーション
2. 人々の健康に影響する背景・要因と健康課題	A. 人口の変化と健康課題	少子化に伴う課題 高齢化に伴う課題 人口の偏在・過疎・過密
	B. 疾病構造の変化と健康課題	生活習慣病 メンタルヘルス 新興感染症、再興感染症
	C. 社会構造・文化的背景の変化と健康課題	家族形態・機能の変化 近隣・人間関係の希薄化 労働・雇用形態の変化と多様化 社会格差、貧困 社会的不利による生活破綻 健康の社会的決定要因と健康格差 生活様式・文化・価値観の多様化 多文化との共生、ダイバーシティ、社会的包摂<ソーシャル・インクルージョン> グローバリゼーション

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 社会情勢、政治・経済・産業構造の変化	社会保障制度改革、医療制度改革 男女共同参画社会の推進 地方分権の推進 科学技術の発展 情報化、情報通信技術<ICT>の発展、デジタル技術の活用の推進 医療の高度化・複雑化
	E. 環境の変化と健康課題	地球環境の変化（温暖化、酸性雨） 環境汚染（大気、水質、土壌）、公害 生活環境の変化（住居、騒音、振動） 放射能による影響 地域の健康危機（自然災害、人為災害、感染症）
3. 公衆衛生看護における活動指針と倫理	A. 保健師業務の根拠と活動指針	保健師助産師看護師法 地域における保健師の保健活動について<保健師活動指針>
	B. 公衆衛生看護の責務	基本的人権の尊重 公的責任 権利擁護<アドボカシー>
	C. 保健師の職業倫理	社会的信用の保持 自己研鑽
4. 公衆衛生看護の対象	A. 地域社会を構成する単位と公衆衛生看護活動の対象	個人、家族 地区、小地域 組織（自治会、学校、企業、組合） 小集団、グループ コミュニティ、地域 ポピュレーション 上記小項目の間の相互作用への働きかけ
	B. 公衆衛生看護活動の場と機能	行政 学校 職域 医療・福祉施設 地区、自治体 中央官庁 国際機関
5. 公衆衛生看護活動の特性	A. 予防レベルと活動	一次予防、二次予防、三次予防 ポピュレーションアプローチ ハイリスクアプローチ

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 公衆衛生看護活動の特性	住民参加 パートナーシップ 公助、共助、互助、自助 ソーシャル・キャピタルの醸成と活用 社会的ネットワークの構築と活用 ソーシャルサポートの育成と活用 信頼関係の構築 PDCAサイクルとマネジメント アウトリーチ 調整、コーディネーション 多職種・多機関連携

公衆衛生看護学

【公衆衛生看護方法論 I】（個人・家族・グループへの支援）

目標 I. 地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防・発生・回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について基本的な理解を問う。
 目標 II. 「個人、家族」が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な支援技術の選択及び支援方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 対象の理解とアセスメントに基づく支援	A. 生活者としての個人の対象理解と健康課題への支援	発達段階、発達課題 生活習慣（栄養・食生活、活動・運動、休息・睡眠、飲酒、喫煙、歯・口腔） 生活環境・背景、社会的役割 価値観 健康レベル・健康状態に応じた支援 対象の把握と支援の優先順位の決定 顕在的・潜在的健康課題の明確化と予測
	B. 家族を単位とした対象理解と健康課題への支援	家族の発達段階・発達課題 家族の形態・機能・役割と変遷、ジェノグラム 家族と他者（近隣）との関係 家族の理解のための理論・モデル 顕在的・潜在的健康課題の明確化と予測
	C. グループの理解と健康課題への支援	グループの種類（地域集団＜コミュニティグループ＞、サポートグループ、セルフヘルプグループ、自主グループ、ピアグループ） グループの発達段階・発達課題 グループの理解のための理論・モデル 集団力動・集団心理の把握と支援の優先順位の決定 顕在的・潜在的健康課題の明確化と予測
2. 保健行動の理解とアセスメントに基づく支援	A. 保健行動に関する理論	変化の3段階理論 ヘルスビリーフモデル 変化ステージ理論 社会的認知理論 ヘルスリテラシー 自己効力感 ストレスコーピング
	B. 健康段階別保健行動	健康増進行動 予防的保健行動 病気回避行動 病気対処行動

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 目的別保健行動	セルフケア行動 コンプライアンス行動 ウェルネス行動
3. 公衆衛生看護活動における対人支援の基本	A. 対人支援の目的	動機付け、健康問題・課題への気付き 価値と規範 自己効力感の向上 セルフケア能力の向上、自立支援 エンパワメント 行動変容 QOLの維持・向上 自己決定への支援
	B. 対人支援の過程と特徴	対象者の把握と選定、優先順位の決定 情報収集、アセスメント、問題把握 ニーズに基づく支援計画の立案 実施、記録、モニタリング、評価 フォローアップ 関係機関・職種との連携・協働 地域活動への反映
	C. 対人支援の技術	傾聴、共感 カウンセリング、面接 アウトリーチ コーチング スモールステップ法 情報通信技術<ICT>の活用
4. 公衆衛生看護活動における各支援の特徴と方法	A. ケースマネジメントの特徴・方法	ケアコーディネーション、サービスの統合 ケアの継続性 ニーズの多様化への対応 フォーマルサービスとインフォーマルサービスの活用 新たなサービス・ケアの創造 ケースマネジメント会議
	B. 健康相談の特徴・方法	健康相談の契機、地域の健康特性を活かした企画 場面の設定、場の工夫や配慮 事後フォローアップ

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 訪問の特徴・方法	生活・環境・家族・社会的背景の把握と介入 訪問の場の種類、訪問の場に応じた支援 予防的訪問、危機的介入、訪問の緊急性 信頼関係・支援関係の構築、キーパーソンの活用 訪問拒否への対応 継続的支援（継続訪問） 居住家屋の見取り図の活用 グループや社会資源の紹介 ネットワーク構築への支援
	D. 健康教育・健康学習の特徴	KAPモデル ヘルスビリーフモデル プリシード・プロシードモデル 社会学習理論 個別健康教育、集団健康教育 対象に応じた参加勧奨・効果的な媒体の工夫 対象の組織化への支援 グループワーク、課題の共有
	E. 健康診査・検診の特徴・方法	スクリーニング 対象に応じた参加勧奨の工夫 要精査者のフォローアップと体制づくり 未受診者の把握とフォローアップ スクリーニングの要件や結果の評価、事業化
	F. グループ支援の特徴・方法	主体性の確立、自己洞察の深まり 参加者の自立支援・組織化 仲間づくり グループダイナミクス ファシリテーション技術 治療的・予防的アプローチ 相互作用アプローチ
5. 公衆衛生看護活動における各支援の展開と実際	A. ケースマネジメント	※A～Fの共通の小項目 ニーズの把握や対象の選定 対象・目的に合った方法の選択 計画、実施、評価 フォローアップ 地区活動への反映、事業化、施策化
	B. 健康相談	
	C. 訪問	
	D. 健康教育	
	E. グループ支援	
	F. 健康診査、検診	

【公衆衛生看護方法論Ⅱ】（地域組織・地域への支援、事業化と施策化）

目標Ⅰ．地域アセスメント<地域診断>に基づき地域の健康課題を明確化する方法についての基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．地域組織の育成・支援に関わる活動の展開方法について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ．地区・小地域活動の展開方法と事業化について基本的な理解を問う。
 目標Ⅳ．施策化および地域ケアシステムの構築について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 地域保健活動の基本	A. 地域における活動の意義と対象	地域への責任と公平性 安心できる生活環境の確保、健康なまちづくり 住民・組織の自立支援・協働 生活基盤としてのコミュニティ・地域への支援
2. 地域アセスメント<地域診断>	A. 地域アセスメント<地域診断>の目的	地域の全体像の把握、対象のニーズの把握 理論・モデルに基づく地域アセスメント<地域診断> 地域特性にあった保健活動 効果的・効率的な施策や事業の実施と評価 施策・事業・サービスの監査・点検・改善
	B. 地域アセスメント<地域診断>のプロセス	対象となる地域・グループ・組織の特定 多面的な情報収集 多角的・系統的なアセスメント 顕在・潜在するニーズの把握と分析 健康課題の特定・予測 社会資源および関係機関・職種の把握 地域の健康に影響する背景・要因の把握 健康課題の解決のための強みと弱みの把握 健康課題の優先度の判断
	C. 地域アセスメント<地域診断>の方法	既存の統計資料の分析 実態調査 地区視診 エスノグラフィ 疫学を活用した方法（記述疫学、分析疫学） 住民・関係者・関係機関と協働した検討
3. 地域組織(住民組織、地区組織を含む)の育成・支援	A. 地域組織の育成・支援の定義と対象	地域組織の構造と特徴 住民参加、コミュニティ・エンパワメント 住民組織（自治会組織、地縁組織） 行政委託型組織 当事者組織 特定非営利活動法人<NPO>、ボランティア組織

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 地域組織の育成・支援の目的と方法	住民の自助・互助を基盤とする活動 構成員に共通する健康課題の解決 仲間づくりを意図した育成・支援 発展段階・課題や力量を踏まえた育成・支援 地域における組織化のニーズの把握 構成員および地域組織の主体性を高める支援 地域組織の活動の安定化や活性化を図る支援 スーパーバイズ、コンサルテーション ボランティア人材の育成 地域組織のネットワーク化 地域組織の活動による健康課題の解決の評価 地域組織の変化の評価
4. 地区・小地域活動	A. 地区・小地域の定義と活動の範囲	行政区域、日常生活圏域 自治会単位、校区単位
	B. 地区・小地域活動の目的と展開方法	地域ケアシステムの構築と運営 コミュニティ・エンパワメント ソーシャル・キャピタルの醸成と活用 住民・関係者とのパートナーシップの醸成・合意形成 住民・関係者・関係機関との協働による体制づくり 地域特性にあった保健活動・生活や文化に配慮した保健活動の計画策定と方法の選定 各支援方法を組み合わせた活動の展開 モニタリング、評価と次年度の活動計画への反映 評価に基づく施策化・事業化
5. 事業化	A. 事業化の目的	サービスの公平性 利用可能なサービスの創設 社会資源の開発・拡充
	B. 事業化のプロセスに応じた展開方法	法的根拠、事業の位置付けの明確化 既存事業の評価・分析 予算の確保、マンパワーの確保と調整 事業計画の策定、プレゼンテーション 事業の周知・広報 事業の実施、事業委託、アウトソーシング モニタリング、進行管理 事業の継続・中止

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 事業の評価	4つの観点からの評価（ストラクチャー＜構造＞評価、プロセス＜過程＞評価、アウトプット＜事業実施量＞評価、アウトカム＜結果＞評価）
6. 施策化と地域ケアシステムの構築	A. 施策化の目的と展開方法	公助 自治体における基本計画との整合性 施策化のプロセス 中・長期的な目標設定と計画 施策の公表と周知 進行管理と評価結果の公表
	B. 地域ケアのシステム化	地域ケアシステムの概念 地域ケアシステムの構築 地域ケアシステムの発展過程 ケアの連続性と継続性 共通認識・合意の形成と目標の設定 連携する関係者・機関の役割と機能
	C. ネットワークの形成とケアコーディネーション	関係者・機関との連携・協働、パートナーシップ 連携のための会議の企画・運営
	D. 地域ケアシステムの評価	ネットワークによる実践・評価の体制づくり

【対象別公衆衛生看護活動論】

目標Ⅰ．対象や発達段階に応じた生活や健康課題及び支援の特徴についての基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．人々が主体的に課題を解決できるよう、施策及び地域の社会資源を活用して保健活動を展開することについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 母子保健活動、女性の健康支援	A. 母子保健医療福祉の動向	母子保健の理念と変遷 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ジェンダーと性<セクシュアリティ>の多様性 性と生殖に関する医療と生命倫理 少子化と次世代育成支援施策 健やか親子21 (第2次)
	B. 母子および親子の健康課題と支援	妊産婦健康診査、切れ目ない妊産婦・乳幼児への支援の展開、妊娠・出産包括支援事業 周産期のメンタルヘルス支援 関係者・機関との連携・協働、地域ケアシステムの構築 共通の課題をもつ小集団への支援 親育て、子育てにおけるエンパワメント
	C. 子どもの健康課題と支援	乳幼児の成長・発達の評価 乳幼児健康診査による課題の早期発見・フォローアップ 基本的な生活習慣の確立と保健指導 疾病予防と予防接種 子どものメンタルヘルス支援 事故予防、リスクアセスメント 思春期の性 情報化による子どもの健康課題への支援
	D. 女性のライフサイクル各期の健康課題と支援	早発思春期 月経異常、不妊、不育 合併症がある妊産褥婦 女性と労働、ワーク・ライフ・バランス 成人期以降の女性のライフサイクルに特徴的な健康課題への支援 (更年期障害、乳癌・子宮癌、骨粗鬆症、排尿障害)

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	E. 支援のニーズが高い対象と家族の健康課題と支援	未熟児、低出生体重児、多胎児 医療的ケア児（先天性疾患、心身障害、慢性疾患） 成長発達に支援の必要な児 ひとり親、血縁関係のない親子 特定妊婦 在留外国人、在外日本人、帰国日本人 貧困、ドメスティック・バイオレンス<DV> ヤングケアラー
	F. 虐待防止における保健師の役割と支援	虐待防止と早期発見 虐待を受けた児と家族の健康課題 地域における継続した支援 要保護児童対策地域協議会
2. 成人保健活動、生活習慣病対策	A. 成人保健医療福祉の動向	成人保健の理念と変遷 健康日本21(第二次) 成人保健医療福祉施策
	B. 成人保健における健康課題と支援	地域・集団の特性に応じた地域ケアシステム 青年期・壮年期・向老期に特徴的な健康課題への支援 レセプト情報・特定健診等情報データベース<NDB>・国保データベース<KDB>の活用 保険者・医療提供施設との連携 生活困窮者の健康支援 健康課題の共有とグループ支援
	C. 生活習慣病やがんへの予防と支援	生活習慣病予防と特定健康診査・特定保健指導 成人期に発症する疾患（心血管疾患、糖尿病、慢性腎臓病）の重症化予防 がん対策
3. 高齢者保健医療福祉活動	A. 高齢者の保健医療福祉の動向	高齢者保健の理念と変遷 高齢者の保健医療福祉施策
	B. 高齢者の健康課題と支援	複数の疾患を抱える高齢者 独居、高齢者のみ世帯 認知症高齢者と家族 エンド・オブ・ライフ<end-of-life>期にある高齢者と家族 高齢者虐待、社会的孤立の状態にある高齢者の把握と支援 自立した生活を維持するための生活支援

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 介護予防と支援	介護予防、フレイル予防 要支援・要介護高齢者と家族への支援 保険者・介護保険事業者・地域支援事業者との連携、地域ケアシステムの構築
4. 精神保健医療福祉活動	A. 精神保健医療福祉の動向	精神保健の理念と変遷 精神保健医療福祉施策 人権擁護
	B. 精神保健に係る健康課題と支援	早期発見・早期治療・早期退院による経過の短縮化 生活のしづらさの理解と困難さに対応した支援 日常生活における自立支援 社会復帰・地域生活支援 二次障害の予防 社会資源・サービスの活用と調整、地域のサポートシステム 関係者・機関との連携、地域ケアシステムの構築 共通の課題をもつ小集団への支援 地域社会との関係から派生する課題（地域の理解、偏見、社会的排除）と支援
	C. 地域に暮らす精神疾患をもつ人々への支援の特徴	症状性を含む器質性精神障害 精神作用物質使用による精神・行動の障害 統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害 気分＜感情＞障害 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 パーソナリティ障害 習慣・衝動の障害 知的障害＜精神遅滞＞ 心理的発達の障害 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害
	D. 心の健康づくりの課題と支援	心の健康づくり対策の動向 心の健康づくりと保健指導、健康増進計画 思春期における心の健康課題（ひきこもり、不登校、家庭内暴力） 社会生活における健康課題（依存、うつ、自殺）への支援 トラウマに起因する健康課題（心的外傷後ストレス障害＜PTSD＞、複雑性PTSD）への支援 自殺企図者・自死遺族への支援

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 障害者（児）保健医療福祉活動	A. 障害者（児）の保健医療福祉の動向	障害者（児）保健の理念と変遷 障害者（児）の保健医療福祉施策 共生社会の形成 人権擁護、虐待予防
	B. 障害者（児）の健康課題と支援	国際生活機能分類<ICF>による日常生活・地域生活における健康状態の評価と支援 二次障害・合併症の予防 障害福祉サービスの活用調整 住環境・地域環境の整備 重複障害者（児）と家族 合併症を持つ障害者（児）と家族 福祉施設・地域生活支援事業所との連携、地域ケアシステムの構築 共通の課題を持つ小集団への支援
6. 難病保健医療福祉活動	A. 難病に関する保健医療福祉の動向	難病保健の理念と変遷 難病に関する保健医療福祉対策
	B. 難病患者の健康課題と支援	国際生活機能分類<ICF>による日常生活・地域生活における健康状態の評価と支援 疾患の特徴に応じた支援 二次障害・合併症の予防 医療依存度の高い難病患者、合併症を持つ難病患者 在宅療養難病患者と家族 小児慢性特定疾病児の成人移行 医療機関・難病相談支援センターとの連携、地域ケアシステムの構築 共通の課題を持つ小集団への支援 支援体制が確立していない疾患をもつ者（児）への支援
7. 感染症の保健活動	A. 感染症対策の動向	感染症保健活動の理念と変遷 世界保健機関<WHO>や各国の感染症対策 検疫所・防疫所・医療機関との連携
	B. 疾病管理と平常時・発生時の対応	感染症発生動向調査 感染症予防 感染症発生時の対応 薬剤耐性<AMR>対策 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法> 肝炎対策基本法

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 感染症の予防と感染症に罹患した人々や接触者の健康への支援の特徴	結核（結核患者への直接服薬確認＜DOTS＞を含む） ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞感染症、後天性免疫不全症候群＜AIDS＞ 性感染症＜STI＞ 新興・再興感染症 ウイルス性肝炎 食中毒原因病原体による経口感染症 呼吸器感染症
	D. 予防接種	予防接種に関する基本的な計画 定期の予防接種 臨時の予防接種
8. 歯科口腔保健活動	A. 歯科口腔保健の動向	歯科口腔保健の理念と変遷 歯科保健統計 ライフサイクル・健康レベルに応じた歯科保健対策
	B. 歯科口腔の健康の保持と歯科保健活動	う蝕の予防 歯周疾患予防 口腔機能・嚥下機能の低下の予防 在宅療養者（障害者（児）、難病患者）の口腔疾患の予防

公衆衛生看護学

【学校保健・産業保健】

目標Ⅰ. 学校保健の制度と仕組み、及び対象の健康課題の把握と適切な支援方法について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. 産業保健の制度と仕組み、及び対象の健康課題の把握と適切な支援方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 学校保健の基本	A. 学校保健の目的、学校と養護教諭の役割・機能	学校保健の目的と構造 学校教育の動向と関係法規 「チームとしての学校」のあり方 インクルーシブ教育の推進 学校保健に関する教職員と養護教諭の役割・機能
	B. 学校保健の動向	社会的背景と学校保健の動向 学校保健統計の動向 養護教諭の動向
	C. 学校保健・安全の制度と仕組み	学校保健・学校安全の関係法規 学校保健計画と保健教育、保健管理、組織活動 学校安全計画と安全教育、安全管理、組織活動 学校環境の管理
2. 学校保健における対象の健康課題への対策と支援	A. 発達段階別にみる対象の特徴と健康課題への対策と支援	幼児期 学童期 思春期 青年期
	B. 対象の主な健康課題への対策と支援	いじめ、暴力、不登校、保健室登校 喫煙、飲酒、薬物乱用 性感染症<STI>、性に関する指導 メンタルヘルス 事件・事故及び災害、急性ストレス障害<ASD>、心的外傷後ストレス障害<PTSD> 児童虐待 生活習慣病予防、がん教育、食育 感染症予防
	C. 特別な支援を必要とする子どもへの対策と支援	視覚・聴覚・知的・運動障害がある子ども 医療的ケア児 発達障害がある子ども 慢性疾患がある子ども アレルギー疾患がある子ども 社会的養護を必要とする子ども

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 学校保健活動の展開	学校保健情報の把握と活用 学校保健計画・学校安全計画の作成と評価 救急処置 健康診断 健康観察 疾病の管理と予防 学校環境衛生 保健教育 健康相談及び保健指導 養護教諭の活動及び保健室経営の理解 保健組織活動（教職員・家庭・地域との連携、学校保健委員会）
3. 産業保健の基本	A. 産業保健の目的、保健師の役割・機能	産業保健の定義と目的 産業保健・組織の機能 保健師・第一種衛生管理者の役割・機能 職場の危険と労働衛生
	B. 社会的背景と産業保健の変遷	労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律<労働施策総合推進法> 労働・雇用の多様化（非正規雇用、派遣労働、外国人労働者） 労働者の健康の動向 健康経営 労働災害及び業務上疾病の動向 中小規模事業場における産業保健の動向
	C. 産業保健の制度と仕組み	労働安全衛生に関する法規 労働安全衛生行政の体系 労働安全衛生に関する組織と人材 労働衛生管理（総括管理、健康管理、作業環境管理、作業管理、労働衛生教育） 事業場における労働衛生管理体制 職場巡視 労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント ストレスチェック制度 事業場における労働者の健康保持増進のための指針 労働者の心の健康の保持増進のための指針 労災制度、労働者災害補償保険法 労働災害防止計画

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 産業保健における対象の健康課題への対策と支援	A. 労働災害と安全管理	職業性疾病（化学物質、粉じん、石綿、物理的因子、作業様態、業務上の負傷） 作業関連疾患 情報機器作業に関連した健康障害 生活習慣病、がん 心身症、メンタルヘルスの不調 過重労働 ハラスメント
	B. 労働者の特性に応じた健康課題と支援	妊娠・育児期にある労働者 障害がある労働者 高齢労働者 疾患がある労働者 外国人労働者 性的多様性を踏まえた支援 疾病管理と両立支援 退職者、職場復帰への支援
	C. 産業保健活動の展開	産業保健情報の把握と活用 労働者の健康情報の取扱い 産業保健計画・心の健康づくり計画の立案・実施・評価・見直しのプロセス（PDCAサイクル） 安全衛生委員会、職制・ラインを活用した産業保健活動の推進
	D. 保健師・第一種衛生管理者の活動の実際	一般健康診断と事後措置・健康保健増進対策 特殊健康診断と事後措置・健康確保対策 トータル・ヘルス・プロモーションプラン<THP>、心身両面にわたる健康の保持増進対策の推進 快適職場づくり ワーク・ライフ・バランスの推進 ストレスチェックの活用（集団分析、面接指導） ハラスメント対策 過重労働対策 職場における受動喫煙防止対策 職場における感染症対策 健康保険組合との連携（特定健康診査・特定保健指導、データヘルス計画、コラボヘルス） 地域・職域連携活動

【健康危機管理】

- 目標Ⅰ．健康危機管理の理念と目的、対策の決定過程について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．災害時サイクル各期の保健活動について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ．感染症の集団発生時と集団発生予防の保健活動について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 健康危機管理の基本	A. 健康危機管理の理念と目的	健康危機管理の定義・分類 健康危機管理の目的
	B. 様々な要因による健康上の危機的影響	災害（自然災害、人為災害） 感染症 食中毒（食品、飲料水） 化学物質、放射性物質 事故 ドメスティック・バイオレンス<DV> 虐待
	C. リスクマネジメントの過程と保健師の役割の基本	リスクアセスメント、リスク分析 リスクへの対応とその評価 リスクコミュニケーション 事業継続計画<BCP: Business Continuity Plan>
2. 災害に対応した保健活動	A. 災害による被害と生活への影響	災害（自然災害、大規模人為災害）による被害と生活への影響
	B. 災害保健活動の基本	情報収集・分析 健康課題の把握・集約 計画策定・評価 関係職種・機関との連携・協働 住民への防災・減災教育 被災者及び支援者の健康課題への支援 対策と活動の評価 防災・減災対策の計画策定・評価 広報、マスコミ対策
	C. 災害支援制度とシステム	災害支援の関係法規 災害支援の制度 災害時健康危機支援システム<DHEAT>

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 災害予防と事前対策	A. 平常時の保健活動と減災・防災対策	災害を想定した地域アセスメント<地域診断> ガイドライン・マニュアルの作成 関係機関の役割と連携 健康危機のレベルに応じた対策の検討・決定 ガイドラインに基づく訓練 地域住民への健康教育
	B. 要支援者への対策	要支援者の把握・アセスメント 要支援者の支援計画の作成 対策マニュアルと訓練 防災・減災教育、普及啓発 支援ネットワークの構築
4. 発災直後から応急対策期(フェーズ0～2)の保健活動	A. 発災直後の保健活動	発災直後の初動対応 被害状況に関する情報収集・情報集約 健康課題の分析 受援体制・支援体制のマネジメント
	B. 応急対策期の保健活動	救護所・避難所・在宅での健康課題の把握 健康課題に対応した保健活動 避難所・地域の環境モニタリングと対策 健康回復へ向けた支援 二次的健康障害(心的外傷後ストレス障害<PTSD>、 廃用症候群(生活不活発病))の予防と対策
5. 災害復旧・復興対策期(フェーズ3～5)の保健活動	A. 災害復旧期の保健活動	被災者の健康課題 保健活動計画の策定・実施・評価・見直し 二次的健康障害(心的外傷後ストレス障害<PTSD>、 廃用症候群(生活不活発病)、孤独死)の予防と対応、 こころの健康 職員及び支援者の心身の健康管理
	B. 復興対策期の保健活動	コミュニティの再構築への支援 中長期的な健康課題の明確化 復興期における保健計画の再評価・見直し
6. 感染症集団発生時の保健活動	A. 感染症調査の基本	積極的疫学調査 患者調査、接触者調査、環境調査 疫学解析
	B. 感染症集団発生時の対応	初動対応 発生時の患者・接触者・関係者への保健指導
	C. 感染拡大防止	臨時予防接種 集団・施設の種類に応じた対策(保育園、高齢者施設、 障害者施設、医療機関、学校、事業所)

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 圏域や都道府県を越えた広域的な感染症集団発生への対応	臨時的対応組織の編成、関係課との連携・協働 関係機関との連携・調整 相談体制の構築、受診支援 正しい知識の普及啓発
7. 感染症の集団発生予防のための保健活動	A. 平時における感染症予防対策	感染経路別の予防対策 施設の種類に応じた予防対策指導（保育所、高齢者施設、障害者施設、医療機関、学校、事業所） 正しい知識の普及啓発 感染症流行状況の把握

【公衆衛生看護管理論】

目標 I. 公衆衛生看護管理の目的と機能、専門的自律と人材育成について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 公衆衛生看護管理の目的と特徴	A. 公衆衛生看護管理の目的	組織・地域の健康水準の向上 職員や住民の権利の保障と環境の確保 効果的・効率的な公衆衛生看護活動の実践
	B. 公衆衛生看護管理の基本的な管理機能と特徴	新任期から担う実務的管理機能 マネジメント 組織とチームにおけるリーダーシップ・メンバーシップ 組織体系と管理機能 統括的役割を担う保健師の役割と機能
2. 公衆衛生看護の組織に関する管理	A. 組織体制管理の基本	組織の理念・目標の明確化と共有 組織体制の整備、必要な人員の確保 職務・権限・責任の明確化
	B. 組織運営の基本	組織の意思決定、指揮命令系統、職場内コミュニケーション、組織文化 他部門との連携・協働、情報の共有 リスクマネジメント（組織、個人）、クライシスマネジメント、苦情対応
	C. 人事・労務管理の基本	ジョブローテーション、キャリアパス、キャリアラダー 人事評価 労務管理 ワーク・ライフ・バランス
	D. 予算管理の基本	予算編成のプロセス、予算確保の方法 予算の執行管理・評価
3. 組織における情報管理	A. 個別支援に伴う個人情報保護の基本	情報管理に関する法制度（個人情報保護法等） 情報公開、情報開示
	B. 活動に関する情報の管理	デジタルデータ（健診データ、活動データ）の蓄積と安全な保管 看護活動に関する地域情報の収集・保管・活用・発信
4. 公衆衛生看護業務に関する管理	A. 業務管理の基本	必要量と稼働量（組織、個人） 業務計画の作成・進行管理・評価

公衆衛生看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 事例管理の基本	地区活動における支援の優先性 サービスの総合調整 関係者との目的の共有や役割分担 事例支援の基準
	C. 事業管理の基本	進行管理 業務委託とその管理
5. 専門的自律と人材育成	A. 公衆衛生看護の人材育成	継続教育の目的と方法 人材育成方針・計画の策定 (OJT、OFF-JT)
	B. 専門的自律	保健活動の科学的評価方法 (妥当性・信頼性・真実性のある評価方法) の習得 事業の成果および評価の蓄積 研究成果の活用、根拠のある実践

疫 学

【疫学】

目標Ⅰ．公衆衛生看護の基盤となる疫学概念と方法について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ．公衆衛生看護における疫学の活用について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 疫学概念	A. 疫学の定義と分類	疫学の定義 記述疫学と分析疫学 人、場所、時間
	B. 曝露と疾病発生	危険因子 診断基準
	C. 因果関係	時間的關係 関連の特異性と整合性、量反応関連
	D. 疫学研究における倫理	人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
2. 疾病頻度の指標	A. 割合	有病率 累積罹患率 致命率<致死率> 相対頻度
	B. 率	罹患率 死亡率
3. 曝露効果の指標	A. 相対危険	罹患率比、死亡率比 累積罹患率比<リスク比> オッズ比
	B. 寄与危険	寄与危険割合 人口<集団>寄与危険 人口<集団>寄与危険割合
4. 疫学調査法	A. 対象集団の選定	母集団と対象集団 標本抽出 無作為抽出
	B. 調査方法(研究デザイン)	生態学的研究 横断研究 コホート研究 症例対照研究 介入研究
	C. 誤差	偶然誤差と精度 系統誤差と妥当性
	D. 偏り<バイアス>	選択の偏り<バイアス> 情報の偏り<バイアス>

疫 学

大 項 目	中 項 目 (出題範囲)	小 項 目 (キーワード)
	E. 交絡とその制御方法	交絡因子 無作為化 (割付) 制限 マッチング 層化
	F. 年齢調整	直接法 間接法
5. スクリーニング	A. スクリーニングの目的	疾病の早期発見 (二次予防) 集団の特性の把握
	B. スクリーニングの要件	健康に及ぼす影響 有病率 疾病の検査・診断・治療法の確立 目的の明確化、有効性の科学的根拠、信頼性の確保 十分な情報提供と選択、公平なアクセスの推進 有害事象を上回る有益性
	C. スクリーニングの評価	感度と特異度 陽性反応的中度と陰性反応的中度 偽陽性率と偽陰性率
6. 疾病登録	A. 疾病登録の意義	がん登録 脳卒中登録 疾病対策の基礎となるデータ (罹患率、生存率) の分析 疾病対策や医療計画への活用 評価に基づく効果的な検診の実施
7. 生活習慣の疫学	A. 栄養・食生活	※ A～Fの共通の小項目 生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布 危険因子
	B. 活動・運動	
	C. 休息・睡眠	
	D. 飲酒	
	E. 喫煙	
	F. 歯・口腔	

疫 学

大 項 目	中 項 目 (出題範囲)	小 項 目 (キーワード)
8. 主な疾患の疫学	A. 母性関連疾患	※ A～Kの共通の小項目 頻度と分布 危険因子 年次推移
	B. 小児疾患	
	C. がん	
	D. 心血管疾患（高血圧を含む）	
	E. 脳血管疾患	
	F. 糖尿病	
	G. 難病	
	H. 精神疾患	
	I. 感染症	
	J. 事故	
	K. 環境要因による疾患	
9. エビデンスに基づく公衆衛生看護に関連する疫学	A. 社会疫学	健康の社会的決定要因 健康格差
	B. 政策疫学	政策の方針決定への疫学の関わり 危険因子に対する予防対策
	C. 臨床疫学	治療効果の評価 システマティックレビュー、メタアナリシス

疫

学

保健統計

【保健統計】

目標Ⅰ．公衆衛生看護の基盤となる統計学の基礎、統計情報と活用方法について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．地域の保健統計データの分析のための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 統計学の基礎	A. データの種類と分布	カテゴリーデータ 順序データ 数量データ ヒストグラム
	B. 測定と尺度	健康評価尺度 心理発達尺度 活動・行動・社会尺度
	C. 主な確率分布	正規分布 二項分布
	D. 代表値と散布度	平均（算術平均） 幾何平均 中央値 最頻値<モード> 分散と標準偏差 四分位数とパーセンタイル値 範囲
	E. 関連の指標	相関・散布図 回帰 クロス集計
	F. 統計分析	点推定と区間推定 帰無仮説と統計学的有意性 分散分析 割合に関する検定（ χ^2 <カイ二乗>検定） 平均に関する検定（t検定） 相関係数に関する検定 多変量解析 パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定 2つの非正規分布の母集団の検定（Mann-Whitney <マン・ホイットニー>のU検定）
	G. 適切な図表の作成と活用	データに合わせた図表の選択 図表の作成 図表の活用

保健統計

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
2. 人口統計	A. 人口静態統計の基本と動向	日本の人口 年齢別人口 世界の人口
	B. 人口動態統計の基本と動向	死亡 出生と人口再生産 死産、周産期死亡 婚姻と離婚
	C. 主な健康指標と動向	平均寿命 健康寿命 合計特殊出生率 年齢調整死亡率 標準化死亡率<SMR>
3. 保健統計調査	A. 基幹統計の基本と動向	国勢調査 国民生活基礎調査 患者調査 医療施設調査 学校保健統計調査 社会生活基本調査
	B. A以外の基礎的な統計調査の基本と動向	感染症発生動向調査 食中毒統計調査 国民健康・栄養調査 地域保健・健康増進事業報告 身体障害児・者等実態調査 介護保険事業状況報告 衛生行政報告例 福祉行政報告例
	C. 医療経済統計の基本と動向	国民医療費 介護サービス施設・事業所調査
	D. 疾病・障害の定義と分類	国際疾病分類<ICD> 国際生活機能分類<ICF>
	E. 活用可能なデータベースの基本	レセプト情報・特定健診等情報データベース<NDB> 国保データベース<KDB>システム
4. 情報処理	A. 情報処理の基礎	データの電子化 情報セキュリティ データベース レコードリンケージ

保健統計

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 文献検索の方法と結果・ データの活用	一次情報、二次情報 文献検索方法

保健医療福祉行政論

【保健医療福祉行政論】

目標Ⅰ．保健医療福祉行政の基本および行政・財政の仕組みについて基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ．保健医療福祉における各分野の制度の仕組みと機能、対策の実際や動向について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ．保健医療福祉行政の施策への住民参加と、計画策定・実施・評価のサイクルについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 保健医療福祉行政の基本	A. 社会保障の理念と背景	日本国憲法における国民の権利及び義務 人権保障、権利擁護<アドボカシー> 社会保障と税の一体改革 健康格差に対する社会保障 少子高齢化社会と人口減少への対応
	B. 公衆衛生政策の理念と背景	プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション(オタワ憲章、バンコク憲章) 持続可能な保健医療福祉の仕組み 社会保障制度 戦後の公衆衛生政策の基盤形成 近年の公衆衛生政策の発展 諸外国における公衆衛生政策の変遷
2. 保健医療福祉の行政・財政の理念と仕組み	A. 保健医療福祉における行政の理念と仕組み	国と地方公共団体における行政の仕組み 保健医療福祉行政における保健師の役割 地方自治の目的と仕組み 地方分権 地域医療ビジョン、地域包括ケアシステム 地域共生社会の推進
	B. 保健医療福祉における財政の理念と仕組み	国と地方公共団体における財政の仕組み 社会保障の給付と財源 地方財政の歳入と歳出の構造 地方財政の予算の原則と予算編成
3. 保健医療福祉行政の分野と制度の基本	A. 地域保健の体系と各機関の機能・役割	地域保健法、健康増進法 保健所、市町村保健センター 精神保健福祉センター 市町村と都道府県の役割分担と体制整備 各機関における保健師の役割

保健医療福祉行政論

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 関係機関の機能・役割と連携	地域包括支援センター 児童相談所 地域・職域連携の推進
	C. 公衆衛生行政の分野の制度と概要	医事薬事行政 労働衛生行政、産業保健行政 学校保健行政 環境保健行政
	D. 国際的な公衆衛生活動と日本の国際協力活動	国際機関の種類と役割、国際協力の仕組み 国際交流と国際協力（二国間、多国間） 経済協力と政府開発援助<ODA> 持続可能な開発目標<SDGs> ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ<UHC>
4. 社会保障制度・社会福祉制度と政策	A. 社会保障制度の仕組みと機能	生活安定・向上、所得再分配、経済安定 社会保障制度の体系（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生） 社会保険（医療保険、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、介護保険） 公的扶助（生活保護） 措置制度と給付制度
	B. 社会福祉制度の概要と機能	児童福祉支援制度、次世代育成支援制度、少子化対策 障害者（児）支援制度、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法> 高齢者介護支援制度 権利擁護制度
	C. 介護保険制度の概要と機能	理念と基本的な仕組み サービスの種類と考え方、ケアマネジメント 地域包括ケアシステムにおける自治体の役割、地域ケア会議 生活支援・介護予防の推進、地域支援事業による在宅医療・介護の連携 費用・介護報酬支払い制度の仕組み
	D. 医療・介護・福祉の包括的な連携の基本的な考え方	地域における医療・介護制度改革 連携推進における保健師の役割と住民参加 医療の機能分化・連携と地域包括ケア 病床機能報告制度と地域医療構想 在宅医療の推進、保健医療福祉の連携

保健医療福祉行政論

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 医療制度と政策	A. 医療制度と仕組み	医療費・診療報酬支払い制度の仕組み 医療保険制度 医療費助成制度および医療費公費負担制度
	B. 医療体制の管理と整備	医療関係法規 医療安全対策（立入検査、医療安全支援センター） 医療提供体制、医療施設の整備、病床機能分化 医療関係者の現況、医療従事者の確保
6. 保健医療福祉計画の策定・実施・評価	A. 保健医療福祉計画の種類と目的	行政計画と基本構想 基本構想と保健医療福祉計画の関連 都道府県計画と市町村計画 医療計画、地域医療構想
	B. 行政計画の策定・推進・管理・評価	事業化、施策化 計画策定のプロセス 評価指標、計画目標値・評価指標値の設定 計画の管理・評価の推進体制 政策評価、経済的評価
7. 保健医療福祉計画への住民参加	A. 政策策定過程における住民参加	協議会・審議会等への住民参加 情報公開とアカウンタビリティ パブリックコメント ソーシャル・キャピタルを活用した健康的な地域づくりの推進
8. 保健医療福祉分野における政策と動向	A. 母子保健対策	※A～Mの共通の小項目 基盤となる法規と概念の変遷 近年の政策の動向
	B. 児童虐待防止対策	
	C. 成人保健対策、生活習慣病対策	
	D. 高齢者保健医療福祉対策	
	E. 認知症対策	
	F. 障害者（児）保健医療福祉対策	
	G. 精神保健医療福祉対策	
	H. 自殺対策	
	I. がん対策	
	J. 難病対策	
	K. 感染症対策	
	L. 歯科口腔保健対策	
M. 災害対策		

保健師国家試験出題基準・索引

A

AIDS 14

AMR 13

ASD 15

B

BCP : Business Continuity Plan
..... 18

D

DHEAT 18

DOTS 14

H

HIV感染症 14

I

ICD 27

ICF 1, 13, 27

ICT 2, 5

K

KAPモデル 6

KDB 11, 27

M

Mann-Whitney検定 26

N

NDB 11, 27

O

ODA 30

P

PDCAサイクル 3, 17

PTSD 12, 15, 19

S

SDGs 1, 30

SMR 27

STI 14, 15

T

THP 17

t検定 26

U

UHC 30

U検定 26

W

WHO 13

X

χ^2 検定 26

あ

アウトカム<結果>評価 9

アウトソーシング 8

アウトプット<事業実施量>評価
..... 9

アウトリーチ 3, 5

アカウントビリティ 31

アドボカシー 2, 29

アレルギー疾患 15

安全管理 15, 17

い

いじめ 15

石綿 17

依存 12

一次予防 2

一般健康診断 17

医療安全 31

医療計画 31

医療制度改革 2

医療的ケア児 11, 15

医療費 31

医療保険 30, 31

因果関係 23

飲酒 15, 24

陰性反応的中度 24

インフォーマルサービス 5

う

ウイルス性肝炎 14

う蝕 14

うつ 12

え

衛生行政報告例 27

疫学 23

エスノグラフィ 7

エンパワメント 5, 10

お

横断研究 23

オッズ比 23

か

介護保険 30

介護予防 12

カイ二乗検定 26

介入研究 23

化学物質 17, 18

確率分布 26

過重労働 17

偏り 23

学校安全計画 15, 16

学校保健 15

学校保健委員会 16

学校保健活動 16

学校保健計画 15, 16

学校保健統計 15

家庭内暴力 12

カテゴリーデータ 26

がん 11, 17, 25

肝炎対策基本法 13

がん教育 15

患者調査 27

感染症 13, 15, 17, 18, 19, 20

感染症集団発生 19, 20

感染症の予防及び感染症の患者に
対する医療に関する法律<感染
症法> 13

感染症発生動向調査 13, 27

感度 24

がん登録..... 24

き

キーパーソン..... 6

偽陰性率..... 24

危険因子..... 24

帰国日本人..... 11

器質性精神障害..... 12

喫煙..... 15, 24

気分<感情>障害..... 12

帰無仮説..... 26

虐待..... 11, 18

虐待防止..... 11

虐待予防..... 13

救急処置..... 16

急性ストレス障害<ASD>... 15

共助..... 3

共生社会..... 13

偽陽性率..... 24

業務上疾病..... 16

寄与危険..... 23

く

クライシスマネジメント..... 21

グループダイナミクス..... 6

グローバリゼーション..... 1

け

ケアコーディネーション..... 9

ケアマネジメント..... 30

経済協力..... 30

継続教育..... 22

ケースマネジメント..... 5, 6

ケースマネジメント会議..... 5

結核..... 14

月経異常..... 10

検疫所..... 13

健康格差..... 25, 29

健康危機管理..... 18

健康教育..... 6

健康経営..... 16

健康寿命..... 27

健康診査..... 6

健康診断..... 16

健康増進法..... 29

健康相談..... 5

健康段階別保健行動..... 4

健康日本21（第二次）..... 11

健康保険組合..... 17

顕在的・潜在的健康課題..... 4

検診..... 6

権利擁護<アドボカシー> 2, 29

こ

合計特殊出生率..... 27

高血圧..... 25

公衆衛生看護..... 1

公衆衛生看護活動..... 2, 21

公衆衛生看護管理..... 21

公衆衛生政策..... 29

公助..... 3, 9

公的扶助..... 30

後天性免疫不全症候群<AIDS>14

行動変容..... 5

更年期障害..... 10

交絡..... 24

高齢者保健..... 11

コーチング..... 5

呼吸器感染症..... 14

国際疾病分類<ICD>..... 27

国際生活機能分類<ICF> 1, 13,

27

国勢調査..... 27

国保データベース<KDB> 11, 27

国民医療費..... 27

国民生活基礎調査..... 27

心の健康づくり..... 12

心の健康づくり計画..... 17

誤差..... 23

互助..... 3, 8

個人情報保護..... 21

個人情報保護法..... 21

骨粗鬆症..... 10

孤独死..... 19

コホート研究..... 23

コミュニティ・エンパワメント7,

8

さ

災害..... 18

災害支援..... 18

災害時健康危機支援システム

<DHEAT>..... 18

在外日本人..... 11

災害保健活動..... 18

災害予防..... 19

再興感染症..... 1, 14

最頻値..... 26

在留外国人..... 11

サポートグループ..... 4

産業保健..... 16

産業保健活動..... 17

産業保健計画..... 17

三次予防..... 2

し

ジェノグラム..... 4

歯科口腔保健..... 14

事業化..... 6, 8

事業継続計画..... 18

自己効力感..... 4, 5

施策化..... 6, 8, 9

自殺..... 12

歯周疾患..... 14

自主グループ..... 4

自助..... 3, 8

システムティックレビュー... 25

次世代育成支援施策..... 10

持続可能な開発目標<SDGs> 1,

30

自治会..... 2

疾病登録..... 24

児童虐待..... 15

児童相談所..... 30

死亡率..... 23

社会格差..... 1

社会的包摂<ソーシャル・インク

ルーション>..... 1

社会的養護..... 15

社会復帰支援..... 12

社会保障..... 29

社会保障制度..... 30

社会保障制度改革..... 2

尺度..... 26

住民参加..... 3, 7, 30, 31

住民組織..... 7

受動喫煙..... 17

障害者（児）保健..... 13

障害者総合支援法..... 30

少子化..... 10

少子高齢化社会..... 29

小集団..... 2

小地域..... 2

小児慢性特定疾病児..... 13

情報公開	31
情報通信技術<ICT>	2, 5
症例対照研究	23
職業性疾病	17
食中毒	18
食中毒原因病原体	14
職場巡視	16
神経症性障害	12
心血管疾患	11, 25
人権擁護	12, 13
新興感染症	1, 14
人口静態統計	27
人口動態統計	27
人材育成	22
心的外傷後ストレス障害<PTSD>	12, 15, 19
診療報酬	31

す

スクリーニング	6, 24
健やか親子21 (第2次)	10
ストラクチャー<構造>評価	9
ストレス関連障害	12
ストレスコーピング	4
ストレスチェック	16, 17

せ

生活困窮者	11
生活習慣病	1, 11, 15, 17
生活保護	30
性感染症<STI>	14, 15
精神作用物質	12
精神保健	12
成人保健	11
性的多様性	17
政府開発援助<ODA>	30
世界保健機関<WHO>	13
積極的疫学調査	19
セルフケア能力	5
セルフヘルプグループ	4
専門的自律	22

そ

相対危険	23
相対頻度	23
ソーシャル・キャピタル3, 8, 31	
ソーシャルサポート	3
組織化	8

た

第一種衛生管理者	16, 17
対象集団	23
ダイバーシティ	1
多胎児	11
多変量解析	26
男女共同参画社会	2

ち

地域アセスメント<地域診断>	7, 19
地域医療構想	30, 31
地域共生社会	29
地域ケア会議	30
地域ケアシステム	8, 9, 10, 11, 12, 13
地域集団<コミュニティグループ>	4
地域診断	7, 19
地域生活支援事業所	13
地域組織	7, 8
地域包括ケアシステム	29, 30
地域包括支援センター	30
地域保健活動	7
地域保健法	29
地区	2
地区活動	6, 22
地区視診	7
地区・小地域	8
地区・小地域活動	8
地区組織	7
知的障害<精神遅滞>	12
地方財政	29
地方分権	2, 29
致命率	23
中央値	26
直接服薬確認<DOTS>	14

て

低出生体重児	11
データヘルス計画	17

と

統括的役割を担う保健師	21
統計学的有意性	26
統合失調症	12
糖尿病	11, 25

トータル・ヘルス・プロモーション プラン<THP>	17
特異度	24
特殊健康診断	17
特定健康診査	11, 17
特定妊婦	11
特定保健指導	11, 17
独居	11
ドメスティック・バイオレンス <DV>	11, 18

な

仲間づくり	8
難病相談支援センター	13
難病保健	13

に

二次障害	12, 13
二次予防	2
乳癌・子宮癌	10
乳幼児健康診査	10
妊産婦健康診査	10
妊娠・出産包括支援事業	10
認知症	11

ね

年金保険	30
年齢調整	24
年齢調整死亡率	27

の

脳血管疾患	25
ノンパラメトリック検定	26

は

パーソナリティ障害	12
パートナーシップ	3, 8, 9
バイアス	23
排尿障害	10
廃用症候群	19
ハイリスクアプローチ	2
曝露	23
発達課題	4
発達障害	15
発達段階	4
パブリックコメント	31
ハラスメント	17

パラメトリック検定..... 26

ひ

ピアグループ..... 4

ひきこもり..... 12

被災者..... 18

ヒストグラム..... 26

ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感
染症..... 14

ひとり親..... 11

標準化死亡比<SMR>..... 27

標準偏差..... 26

病床機能報告制度..... 30

貧困..... 1, 11

頻度..... 24

ふ

不育..... 10

フォーマルサービス..... 5

複雑性PTSD..... 12

不登校..... 12, 15

不妊..... 10

プライマリヘルスケア..... 1, 29

プリシード・プロシードモデル 6

フレイル予防..... 12

プロセス<過程>評価..... 9

分散..... 26

分散分析..... 26

粉じん..... 17

分布..... 24

へ

平均..... 26

平均寿命..... 27

ヘルスビリーフモデル..... 4, 6

ヘルスプロモーション..... 1, 29

ヘルスリテラシー..... 4

ほ

防災・減災..... 18, 19

放射性物質..... 18

訪問拒否..... 6

保健教育..... 16

保健行動..... 4

保健師活動指針..... 2

保健師助産師看護師法..... 2

保健室経営..... 16

保健組織活動..... 16

母子保健..... 10

母集団..... 23

ポピュレーション..... 2

ポピュレーションアプローチ ..2

ま

マネジメント..... 21

慢性腎臓病..... 11

マン・ホイットニー検定 26

み

未熟児..... 11

見取り図..... 6

む

無作為化..... 24

無作為抽出..... 23

め

メタアナリシス..... 25

メンタルヘルス .. 1, 10, 15, 17

も

目的別保健行動..... 5

モニタリング..... 8

や

薬剤耐性<AMR>対策..... 13

薬物乱用..... 15

ヤングケアラー..... 11

ゆ

有病率..... 23, 24

ユニバーサル・ヘルス・カバレッ
ジ<UHC>..... 30

よ

要介護高齢者..... 12

養護教諭..... 15, 16

要支援高齢者..... 12

要支援者..... 19

陽性反応の中度..... 24

予算管理..... 21

予防接種..... 10, 14, 19

り

罹患率..... 23

リスクアセスメント. 10, 16, 18

リスクコミュニケーション... 18

リスク比..... 23

リスクマネジメント..... 18, 21

リプロダクティブ・ヘルス/ライ
ツ..... 10

る

累積罹患率..... 23

れ

レセプト情報・特定健診等情報
データベース<NDB>.. 11, 27

ろ

労働安全衛生..... 16

労働衛生..... 16

労働衛生管理..... 16

労働災害..... 16, 17

労働施策総合推進法..... 16

わ

ワーク・ライフ・バランス.. 10,
17, 21

助産師国家試験出題基準

助産師国家試験出題基準 目次

基礎助産学

基礎助産学Ⅰ	助-1
基礎助産学Ⅱ	助-6

助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	助-9
助産診断・技術学Ⅱ	助-11

地域母子保健	助-33
--------	------

助産管理	助-36
------	------

索引	助-39
----	------

【基礎助産学 I】

目標 I. 助産の基本となる概念と変遷、基本姿勢について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 助産の基本	A. 助産・助産師の定義	保健師助産師看護師法 世界保健機関<WHO> 国際助産師連盟<ICM>
	B. 助産師の役割と責務	保健師助産師看護師法に基づく義務 医療法に基づく業務 助産師に求められる能力 (コア・コンピテンシー) 守秘義務 助産師の業務範囲と臨時応急の手当て
	C. 助産における倫理	性と生殖に関する生命倫理 助産師の倫理綱領、対象の権利の尊重
	D. 助産における基本的な概念	女性を中心としたケア<Women-centered care> 家族を中心としたケア<Family-centered care> セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ エビデンスに基づいた助産活動
	E. 助産・助産師の変遷	日本における助産・助産師の変遷 助産師教育 母子健康手帳

基礎助産学

目標Ⅱ. 女性の健康に関する支援のための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
2. 女性のライフサイクルと健康課題	A. 思春期・成熟期女性に特有な健康課題	性器の奇形・異常 やせ、肥満 初経（早発月経、遅発月経） 月経周期の異常（月経不順、稀発月経、無月経） 体重減少性無月経 月経困難症 月経前症候群＜PMS＞、月経前不快気分障害＜PMDD＞ 過多月経、過少月経 多嚢胞性卵巣症候群＜PCOS＞ プレコンセプションケア
	B. 更年期・老年期女性に特有な健康課題	閉経、更年期障害 脂質異常症、糖尿病 萎縮性膣炎 排尿障害、尿失禁、過活動膀胱 骨盤臓器脱 骨粗鬆症 抑うつ
	C. 就業女性に特有な健康課題	ライフプランを考慮した健康 ワーク・ライフ・バランス
	D. 女性への暴力と健康課題	ドメスティック・バイオレンス＜DV＞ 性暴力 セクシュアル・ハラスメント
3. 女性の健康に影響を及ぼす因子	A. 遺伝	染色体・遺伝子とその異常 遺伝性疾患の遺伝形式
	B. 食事と栄養	食生活指針、食生活の習慣 栄養所要量 栄養状態の評価法 エネルギー不足 有害物質の摂取
	C. 物理・化学的環境	放射線、電磁波 大気汚染 環境汚染物質

基礎助産学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 嗜好、薬物	喫煙 飲酒、アルコール依存 薬物 (薬物乱用、薬物依存)
	E. 運動	運動不足 過活動
4. 性と生殖に関する解剖と生理	A. 内性器、外性器	内性器・外性器の構造と機能 神経の構造 血管の構造
	B. 骨盤、骨盤内臓器	骨盤の構造 骨盤内臓器と支持組織 骨盤内臓器の神経・血管支配
	C. 生殖の生理機能、性周期	制御するホルモン 生殖器の変化 心身に与える影響 卵巣機能と妊孕性
5. 性の機能と行動	A. 性の分化と発達	性分化の仕組み ジェンダー・アイデンティティの発達 セクシュアリティの発達
	B. 性行動	性反応 性機能と障害
	C. 性の多様性	性的指向・性自認の多様性
6. 女性生殖器と乳房の疾患	A. 女性生殖器の疾患	子宮腫瘍 (がん、肉腫、子宮筋腫、子宮腺筋症、ポリープ) 卵巣腫瘍、良性卵巣疾患 子宮内膜症
	B. 乳房疾患	乳癌 良性乳腺疾患
	C. 検査法	基本的な診察 (視診、触診、腔鏡診、内診) 子宮頸部細胞診 (パップスメアテスト) 腔分泌物等を用いた検査 (鏡検、培養) 超音波断層法 MRI マンモグラフィー

基礎助産学

目標Ⅲ. リプロダクティブ・ヘルスに関する支援のための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
7. 家族計画と受胎調節法	A. 家族計画に関する基礎的知識	目的と必要性 生活状況に応じた方法の選択 産後の回復過程に応じた方法の選択 パートナーを含めた教育 母体保護法 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律<医薬品医療機器等法>
	※各小項目の共通の中項目 B. 各受胎調節法の特徴や効果 C. 指導における留意点	基礎体温法 コンドーム 経口避妊薬、緊急避妊薬 子宮内避妊具<IUD> 子宮内黄体ホルモン放出システム<IUS : Intrauterine Contraceptive System> 不妊手術 ペッサリー
8. 婦人科の炎症性疾患	※各小項目の共通の中項目 A. 病態 B. 診断 C. 治療 D. 予防	尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎 子宮頸管炎、子宮内膜炎・筋層炎 外陰炎 膣炎 骨盤腹膜炎
9. 性感染症<STI>	※各小項目の共通の中項目 A. 病態 B. 診断 C. 治療 D. 予防	性器ヘルペス 尖圭コンジローマ ヒト免疫不全ウイルス<HIV>、後天性免疫不全症候群<AIDS> クラミジア感染症 淋菌感染症 梅毒 ヒトパピローマウイルス<HPV>感染症 カンジダ症 トリコモナス膣炎 疥癬

基礎助産学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
10. 不妊症、不育症	A. 女性側の要因の病態・診断・治療	排卵障害 卵管の障害 子宮の障害 性交障害 卵子のエイジング 抗リン脂質抗体症候群 染色体異常
	B. 男性側の要因の病態・診断・治療	精子形成障害 精管通過障害 性交障害
	C. 不妊症・不育症の女性への支援	社会的支援 精神的支援 不妊治療 生殖補助医療と合併症（多胎妊娠、卵巣過剰刺激症候群） 卵巣・配偶子の凍結保存 第三者の関わる治療（配偶子・胚の提供、代理懐胎） 養子縁組
11. 出生前診断	A. 出生前診断に関する基礎	出生前診断の概念・目的 出生前診断における倫理
	B. 出生前検査の方法	羊水検査 絨毛検査 母体血清マーカー検査 母体血胎児染色体検査 < NIPT : non-invasive prenatal test > 超音波検査 着床前遺伝学的検査

基礎助産学

【基礎助産学Ⅱ】

目標Ⅰ．妊娠による女性の変化や正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び正常な新生児の経過や乳幼児の成長・発達における特徴について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 妊娠	A. 妊娠の成立	卵胞発育と排卵 子宮内膜（増殖期、分泌期）と機能 造精機能と射精 精子・卵子形成 受精 着床の機序
	B. 妊娠の維持機構	妊娠の維持とホルモン 免疫機能
2. 妊娠による母体の変化	A. 生殖器の変化	子宮 子宮付属器 膣、外陰部 乳房
	B. 全身の変化	神経系 感覚器系 循環器系 呼吸器系 消化器系 内分泌系、代謝系 泌尿器系 運動器系
	C. 免疫能の特性	胎児の免疫学的機能 母体－胎児間の免疫
3. 妊娠中の栄養	A. 母体の健康、胎児の発育	妊娠中の栄養所要量 ビタミン・鉄・葉酸・カルシウムの過不足 低栄養 栄養過剰摂取 非妊時の体格（やせ、肥満） 喫煙 飲酒 嗜好品

基礎助産学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 妊娠合併症と母体の栄養	妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠 妊娠高血圧症候群 切迫早産 母体栄養状態と胎児への影響（成人病胎児期発症説 <DOHaD>）
4. 胎児	A. 胎児の発育	受精卵<胚>、胎芽、胎児 胎児の形態と発育
	B. 臓器の成熟と器官形成期	神経・運動器系 感覚器系 循環器系 血液・造血器系 免疫系 呼吸器系 消化器系 内分泌系、代謝系 泌尿器系、生殖器系
5. 胎児付属物	A. 卵膜の構造と機能	羊膜、絨毛膜、脱落膜 母体由来、胎児由来
	B. 羊水の生成と機能	羊水の生成過程・成分 羊水の機能
	C. 臍帯の構造と機能	臍帯血管、臍帯血 臍帯の形状
	D. 胎盤の構造と機能	胎盤の形成と構造 胎盤の発育 胎児－胎盤系循環 物質の胎盤通過性
6. 分娩の基礎	A. 分娩に関する主な概念・定義	分娩開始、陣痛周期 分娩第1期から第4期の定義 妊娠期間による分娩の法的・産科学的定義 分娩様式、分娩体位 分娩誘発、分娩促進 無痛分娩
	B. 分娩の三要素	胎児と胎児付属物 産道 娩出力

基礎助産学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
7. 新生児の特徴	A. 身体的特徴	身体的発育 成熟徴候
	B. 生理的特徴	神経・運動器系 感覚器系 循環器系 血液・造血器系 免疫系 呼吸器系 消化器系 内分泌系、代謝系 泌尿器系 体温調節 皮膚、臍帯（臍帯の脱落を含む）
	C. 行動上の特徴	睡眠と覚醒 哺乳 母子の相互作用
8. 乳幼児の特徴	A. 身体的特徴	身体的発育
	B. 生理的特徴	神経・運動器系 感覚器系 循環器系 免疫系 呼吸器系 消化器系 内分泌系、代謝系 泌尿器系
	C. 心理・社会的特徴と行動上の特徴	精神発達 生活習慣・行動 食事と栄養 予防接種
9. 妊娠・分娩・産褥と薬物	A. 薬物の作用と母子への影響	頸管熟化薬、子宮収縮薬 子宮収縮抑制薬 麻酔薬 薬物の催奇形性 薬物の胎盤通過性
	B. 授乳期の薬物摂取と母子への影響	薬物の母乳移行 乳汁分泌に影響する薬物

助産診断・技術学

【助産診断・技術学Ⅰ】

目標Ⅰ. 女性や家族の健康課題の解決、健康の保持・増進に必要となる相談・教育について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 相談・教育活動の基本	A. 相談・教育の基礎	対象理解 成人教育における留意点 問題解決プロセス 女性を中心としたケア<Woman-centered care> セルフケア エンパワメント 意思決定支援 ヘルスビリーフモデル、プリシード・プロシードモデル
	B. 相談・教育活動の過程	計画立案 実施評価 教材・媒体の工夫
	C. 相談・教育活動の技術	コミュニケーション カウンセリング
	D. 相談・教育の方法	個別相談 集団教育 家庭訪問 電話相談 仲間づくり ピアサポート 討議法、グループワーク 双方向教育 多職種との連携 情報通信技術<ICT>を用いた相談・教育方法

助産診断・技術学

目標Ⅱ. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
2. 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動の実際	A. 思春期女性への相談・教育	月経に関する教育・相談（月経異常、月経随伴症状） 性教育（いのちの教育、生命誕生）
	B. 成人期女性への相談・教育	ライフプランを考慮した健康 家族計画、性生活 子宮頸がん検診、乳がん検診 性感染症<STI> 不妊症、不育症 人工妊娠中絶 高年初産婦
	C. 周産期にある女性や家族への相談・教育	出産準備教育（母親学級、両親学級） 祖父母向け教育（孫育て教室） 周産期・育児期にある女性や家族への相談・教育 家庭訪問（妊婦訪問、新生児訪問） 産後の生活、家族計画 産後ケア（訪問、デイケア、宿泊ケア）
	D. 更年期・老年期女性への相談・教育	更年期障害、更年期症状 骨粗鬆症 骨盤臓器脱、尿失禁

助産診断・技術学

【助産診断・技術学Ⅱ】

目標Ⅰ．助産に必要な助産診断・技術について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 助産診断	A. 助産診断・助産ケアの過程	情報収集 助産診断 計画立案 実施 評価 記録
	B. 助産診断に関わる諸理論	適応理論 発達理論 家族理論 親子理論 愛着理論
2. 助産技術	A. 妊娠経過の診断および妊婦健康診査に必要な技術	医療面接（問診）、情報収集、インフォームド・コンセント 視診 触診（乳房、腹部、Leopold<レオポルド>触診法） 計測診（身体計測、骨盤外計測、腹囲、子宮底長） 内診、双合診、膣鏡診 間欠的胎児心拍数聴取 超音波検査 ノンストレステスト<NST>
	B. 分娩経過の診断・ケアに必要な技術	医療面接（問診）、インフォームド・コンセント 視診 聴診（Doppler<ドプラ>法） 触診（Seitz<ザイツ>法、頤部法） 内診 間欠的胎児心拍数聴取 分娩監視装置による連続モニタリング

助産診断・技術学

目標Ⅱ．妊娠期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 妊娠期の助産診断	A. 妊娠の診断	医療面接（問診）、情報収集 性器に現れる妊娠徴候 性器外に現れる妊娠徴候 内診 免疫学的妊娠反応検査 超音波検査 分娩予定日の決定
	B. 妊娠経過の診断	身体所見 体格指数<BMI>、体重増加量 内診 血圧 血液検査 尿検査 マイナートラブル 既往歴、家族歴 妊娠・分娩歴、産科病歴、合併症
	C. 胎児の発育・健康状態の診断	胎児推定体重 子宮底長、腹囲 胎位、胎向、胎勢 胎児心拍数の評価（間欠的胎児心拍数聴取、連続的胎児心拍数モニタリング） 胎盤付着部位 胎児胎盤機能検査 羊水量の変化と羊水量の測定 母体栄養と胎児の発育
	D. 日常生活行動の診断	食事と栄養 睡眠、休息 活動、運動、生活リズム 排泄 清潔行動 性生活

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	E. 妊婦と家族の心理・社会的側面の診断	年齢 経済状態 婚姻形態 (パートナーとの関係) 家族関係 (家族の意識と役割) 文化的背景 (母性意識、母親役割、ソーシャルサポート) 妊娠の受容 親と児の愛着形成の促進、親役割の獲得 情緒の変化 不安や問題への対処行動 ボディイメージの変化 日常生活行動の変化 過去の出産体験 精神疾患の合併 メンタルヘルス、スクリーニング
4. 正常な経過にある妊婦への支援	A. 妊娠期の生活に適応するための支援	食事と栄養 排泄 活動と運動 休息と睡眠 清潔と衣生活 定期健康診査受診の推奨 マイナートラブルへの対処 嗜好品 性生活
	B. 就労女性への支援	母性健康管理指導事項連絡カード 就業規則、労働時間 産前産後休業、育児休業、育児時間 勤労妊婦の支援に関わる関連法規
	C. 心理・社会的支援	妊婦の妊娠の受容 出産に対する不安 出産・育児準備 家族関係の形成 胎児に対する愛着形成 妊婦に対する家族の理解 社会資源の活用

助産診断・技術学

目標Ⅲ. 正常な妊娠経過からの逸脱及びハイリスク状態にある妊婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 正常な妊娠経過からの逸脱・産科合併症のある妊婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態 B. 診断と治療 C. 助産診断 D. 助産ケア（健康教育、胎児管理、薬物治療の管理、早期発見、予防を含む）	妊娠悪阻 切迫流産、切迫早産 異所性妊娠 妊娠貧血 妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠中の明らかな糖尿病< overt diabetes in pregnancy > 甲状腺機能異常 子宮頸管無力症 妊娠高血圧症候群、妊娠高血圧腎症 羊水量の異常 絨毛膜羊膜炎 胎児発育不全< FGR > 骨盤位 前期破水 常位胎盤早期剝離 子宮内胎児死亡 過期妊娠 多胎妊娠 血液型不適合妊娠 胎盤の位置異常（前置胎盤）

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
6. 母子感染のリスクのある妊婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態 B. 診断と治療 C. 助産診断 D. 助産ケア（早期発見、予防）を含む E. ワクチン接種の情報提供	サイトメガロウイルス ヒトパルボウイルスB19 B型肝炎ウイルス C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス<HIV> 成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1> 単純ヘルペスウイルス 水痘ウイルス クラミジア トキソプラズマ 梅毒トレポネーマ B群溶連菌 カンジダ ヒトパピローマウイルス<HPV> 風疹ウイルス インフルエンザウイルス
	F. 新興感染症、再興感染症	新興感染症・再興感染症の病態・診断・治療
7. ハイリスク状態にある妊婦と家族への支援	A. ハイリスク妊婦における心理的支援・愛着形成への支援	若年妊娠 高年妊娠 未受診妊婦 予期せぬ妊娠、妊娠の受容が困難な妊婦 胎児との愛着形成困難 被虐待経験者
	B. 喪失体験への支援	流産・胎内死亡を経験した女性 帝王切開既往妊婦
	C. 精神疾患を合併する妊婦への支援	支援体制 助産師の役割 多職種連携

助産診断・技術学

目標IV. 分娩期の助産診断及び正常な経過にある産婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
8. 分娩期の助産診断	A. 分娩開始の予知の診断	自覚症状 子宮頸管熟化度 子宮収縮（前駆陣痛）
	B. 分娩開始の診断	陣痛発来 子宮頸管の変化、子宮口の開大
	C. 破水の診断	自覚症状 検査法 腔鏡診、内診 羊水の性状
	D. 分娩経過の診断	陣痛、腹圧 骨盤の大きさと形態 子宮頸管 膣・会陰の伸展性 胎児の大きさ 胎位、胎向、胎勢、回旋 胎児の下降度 胎児と骨盤の関係 パルトグラムによる評価(Friedman<フリードマン>曲線) 児娩出時刻 分娩所要時間（第1期、第2期、第3期） 胎盤剝離徴候 児娩出後の出血 胎盤・卵膜の娩出 軟産道の裂傷 出血量
	E. 胎児の健康状態の診断	胎児推定体重の算出 胎児の発育評価 胎児心拍数陣痛図 羊水の量・性状 胎盤・胎児の循環動態の評価 biophysical profile score<BPS>
	F. 産婦の日常生活行動の診断	食事と栄養、排泄 休息と睡眠、活動

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	G. 産婦と家族の心理・社会的側面の診断	産婦の情動 産痛への対処行動 家族の支援状況
9. 正常な経過にある産婦への支援	A. 分娩第1期の助産ケア	基本的欲求の充足 出産環境への配慮 家族とのコミュニケーション 産痛緩和 リラクゼーション、呼吸法 分娩進行の促進 家族への支援
	B. 分娩第2期・分娩第3期の助産ケア	基本的欲求の充足 リラクゼーション、呼吸法 必要時の努責の誘導 出血量に応じた体位の調整
	C. 分娩後2時間までの助産ケア	出血・子宮復古状態の観察 基本的欲求の充足 早期母子接触と実施時の留意点 母子と家族との対面
10. 分娩の介助	A. 分娩介助の原理と基本	分娩時の姿勢による分娩介助 分娩体位による特徴 分娩機転 呼吸法、リラクゼーション 努責の誘導 産婦の主体性を尊重したケア
	B. 分娩介助時の技術	肛門圧迫・保護 会陰保護 児頭娩出 肩甲娩出 軀幹娩出 胎盤娩出 臍帯切断、臍処置
	C. 胎盤・胎児付属物の検査	観察項目と実施方法

助産診断・技術学

目標Ⅴ. 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
11. 正常な分娩経過からの逸脱、異常分娩時の産婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断と治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	娩出力の異常（分娩誘発・促進時の管理） 産道の異常 胎位・胎勢の異常 進入・回旋の異常 前期破水 遷延分娩 肩甲難産 弛緩出血 子宮破裂 子宮内反症、頸管・膣・会陰裂傷 子癇 羊水塞栓 播種性血管内凝固症候群<DIC>、産科DIC
12. 胎児及び胎児付属物異常がある産婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断と治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	胎児機能不全 胎児付属物の異常 多胎 形態異常
13. 産科手術および産科的医療処置が必要な産婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 産科手術と産科的医療処置 B. 助産ケアと支援	会陰切開術 会陰縫合術 腹式帝王切開術 分娩誘発・促進 子宮底圧迫法 骨盤位牽出術 吸引遂娩術 鉗子遂娩術 胎盤圧出法、用手剥離 子宮摘出術 子宮腔内バルーン留置・タンポナーデ 動脈塞栓術による止血<IVR：Interventional radiology>

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 分娩時の麻酔の管理と助産ケア	分娩時の麻酔法（硬膜外麻酔法、脊髄くも膜下麻酔、陰部神経ブロック） 適応 合併症 麻酔管理 分娩経過に応じた助産ケア

助産診断・技術学

目標VI. 助産に必要な緊急時・搬送時の対応について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
14. 緊急時・搬送時の支援	A. 応急処置	使用物品と薬剤 止血法 膣および外陰の血腫・産道裂傷の処置 母体の蘇生法 出血性ショック時の処置 非出血性ショック時の処置 自動体外式除細動器<AED> 異常出血に対する処置（妊娠前半期、妊娠後半期、分娩時、播種性血管内凝固症候群<DIC>、産科DIC、産科危機的出血の診断）
	B. 緊急時の対応	妊産褥婦への説明と同意 妊産褥婦の心理的支援 家族への心理的支援
	C. 搬送時の対応	母体搬送の適応と対応 新生児搬送の適応と対応 多職種・多機関の協働・連携

助産診断・技術学

目標Ⅶ. 産褥期の助産診断及び支援についての基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
15. 産褥期の助産診断	A. 産褥経過の診断	身体所見 子宮と付属器 膣、外陰、肛門 血液検査 尿検査 不快症状 妊娠・分娩歴、産科病歴、合併症
	B. 日常生活行動の診断	栄養と食事 睡眠、休息 活動、運動 排泄 清潔行動 日常生活への適応 性生活
	C. 褥婦と家族の心理・社会的側面の診断	年齢 経済状態 婚姻形態 家族関係 文化的背景 出産体験の受容 母性、父性、親性の発達過程 親役割の獲得 家族機能の変化、家族の役割獲得 居住地域の育児環境 マタニティーブルーズ 産後の精神疾患（産後うつ病、産褥精神障害）
	D. 育児能力の診断	育児行動の文化的背景 褥婦の心理に影響を及ぼす要因 児の受容 子への愛着形成 育児技術の習得 育児不安と対処行動

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	E. 母乳育児に関する診断	乳房の変化 乳汁分泌量の変化 児の哺乳行動、哺乳サイン、吸着、吸啜 授乳技術とセルフケア能力
16. 正常経過にある褥婦と家族への支援	A. 産褥期の生活への適応および退行性変化促進への支援	栄養と食生活 排泄 睡眠、休息、生活リズム 活動、運動、産褥体操、日常生活の行動拡大 身体の清潔、外陰部の清潔 子宮底輪状マッサージ法 性生活
	B. 母乳育児への支援	母乳育児に関する意識 母乳分泌促進法・抑制法 哺乳の評価 乳房のセルフケア 乳房トラブルの予防と対処法 母乳育児のための社会資源 母乳代用品の安全性
	C. 育児行動獲得への支援	母親・パートナー（配偶者）の役割獲得 愛着形成促進 育児技術の取得 育児環境の調整 家族関係の調整
	D. 褥婦と家族への心理・社会的支援	産婦・家族の分娩体験の想起 出生に関わる届出の支援 職場復帰への支援 活用できる社会資源に関する支援

助産診断・技術学

目標Ⅷ. 正常な産褥経過からの逸脱及びハイリスク状態にある褥婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
17. 不快症状の緩和への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	後陣痛 会陰部疼痛 脱肛、痔核 排尿・排便障害
18. 正常な産褥経過からの逸脱・産科的異常のある褥婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	産褥早期出血 産褥晚期出血 子宮復古不全 産褥熱 恥骨結合離開 静脈瘤、血栓性静脈炎 深部静脈血栓症、肺塞栓症 感染症 妊娠高血圧症候群後遺症
19. 乳房の異常がある褥婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	乳頭損傷 乳腺炎（乳腺炎重症化予防ケアを含む）
20. 特別な母乳育児支援を必要とする褥婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 対象の理解 B. 助産ケア	医学的適応により人工乳の補足が必要な児 乳癌の合併 成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>キャリア
21. 特別な育児支援を必要とする褥婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 対象の理解 B. 助産ケア	多胎出産 不妊治療後の出産 障害児 予後不良児 在留外国人家庭 ひとり親家庭
22. メンタルヘルスの危機的状況や心理的リスクのある褥婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	産後うつ病 産褥精神障害 帝王切開術後 流産・早産・死産経験

助産診断・技術学

目標IX. 妊娠期から産褥期における合併症がある妊産褥婦への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
23. 合併症がある妊産褥婦への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	心疾患 腎疾患 甲状腺疾患 糖尿病 子宮・付属器疾患、悪性腫瘍

助産診断・技術学

目標 X. 新生児期の助産診断及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
24. 出生後24時間以内の 新生児の助産診断	※ 各小項目の共通の中項目 A. 胎外環境への適応と成長 ・成熟 B. 正常からの逸脱の診断	Apgar<アプガー>スコア 全身の状態 呼吸・循環の確立 バイタルサイン 身体計測値 成熟度の判定 睡眠・覚醒レベル 血糖の調整(糖代謝) 体温の調整 胎内環境・分娩の影響の評価
25. 出生後24時間以降の 新生児の助産診断	※ 各小項目の共通の中項目 A. 胎外環境への適応と成長 ・成熟 B. 正常からの逸脱の診断	胎外環境への適応状態 分娩侵襲からの回復 哺乳 消化と排泄 生理的体重減少 神経学的所見(原始反射を含む) 臍帯の脱落、臍部の観察
26. 出生後24時間以内の 新生児への支援	A. 胎外環境への適応への支援	新生児蘇生法 胎外環境への適応の促進 保温
	B. 成長・発達への支援	母子接触 哺乳 排泄
	C. 予防の支援	感染予防 点眼 安全確保 与薬(ビタミンK ₂ シロップ)
27. 出生後24時間以降の 新生児への支援	A. 成長・発達への支援	栄養と授乳 保温と環境温度の調整
	B. 清潔への支援	保清、沐浴 感染予防 臍処置

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 親子の愛着形成への支援	母子同室中のケア 親子の愛着形成促進のためのケア
	D. 疾患スクリーニングへの支援	新生児マススクリーニング検査 新生児聴覚スクリーニング検査

助産診断・技術学

目標XI. 新生児の正常からの逸脱及び異常な症状・状態・疾患がある新生児と家族への支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
28. 新生児の正常からの逸脱、および異常な症状・状態への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア（早期発見、予防を含む）	呼吸障害 無呼吸発作 チアノーゼ 消化器症状（嘔吐、腹部膨満、吐血、下血） 神経学的異常所見（けいれん、麻痺） 体温異常（発熱、低体温） 黄疸 便色異常 頭血腫 帽状腱膜下出血 心雑音、不整脈 なんとなく元気がない<not doing well>
29. 治療を必要とする新生児と家族への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 適応、準備と方法 B. 助産ケア	呼吸補助療法（酸素療法、人工呼吸療法） 光線療法 経管栄養 輸液管理 新生児蘇生法 低体温療法
30. 疾患がある新生児と家族への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア	新生児低血糖症 新生児一過性多呼吸<TTN> 胎便吸引症候群<MAS> 気胸、縦隔気腫 高ビリルビン血症 新生児ビタミンK欠乏症 新生児皮膚疾患（中毒疹、おむつ皮膚炎） 新生児眼疾患（鼻涙管狭窄） 外表奇形 分娩外傷（鎖骨骨折、上腕神経叢麻痺） 感染症 新生児仮死 新生児の痛み 多血症、貧血

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
31. 母体疾患・生活習慣に起因する新生児の問題への支援	※ 各小項目の共通の中項目 A. 病態、診断、治療 B. 助産ケア	母子感染のリスクのある感染症 自己免疫疾患 甲状腺疾患 糖尿病 精神・神経疾患 喫煙、飲酒

助産診断・技術学

目標Ⅶ. 乳幼児の正常発達・発育経過を判断し、それらを促進する支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
32. 正常な経過にある乳幼児への支援	A. 乳幼児の助産診断	身体所見、発育の評価 発達診断学的診察 視覚検査
	B. 乳幼児の発達を促進する支援	栄養 遊び 生活習慣・生活リズムの確立 情緒の発達
	C. 乳幼児の社会性を促進する支援	家庭環境との関連 社会生活のマナー 自立を促す支援 人間関係の形成
	D. 乳幼児に起こりやすい事故の予防と対策	窒息（誤嚥、添い寝中の圧迫を含む） 溺水 誤飲 交通事故 転落
	E. 乳幼児の疾病予防への支援	予防接種 歯・口腔の衛生

助産診断・技術学

目標Ⅷ. 乳幼児に起こる主な疾患及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
33. 乳幼児に生じる問題と支援	A. 乳幼児によくみられる感染症の病態・診断・治療と支援	突発性発疹 百日咳、水痘、流行性耳下腺炎 RSウイルス感染症（細気管支炎） カンジダ症、鵝口瘡 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群<SSSS> 乳幼児下痢症（ロタウイルス、ノロウイルス） 肺炎 尿路感染症
	B. 乳幼児の発達上の問題	染色体異常（21トリソミー） 脳性麻痺 発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害） 被虐待児症候群
	C. 乳幼児突然死症候群<SIDS>	リスク因子 予防法と指導
	D. 虐待	心理的虐待 身体的虐待（揺さぶられっこ症候群）

助産診断・技術学

目標Ⅳ. 低出生体重児・早産児の特徴や疾患及び支援について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
34. 低出生体重児・早産児の特徴と疾患	A. 低出生体重児・早産児の分類	出生体重による分類 在胎週数による分類 在胎週数と出生体重による分類
	B. 低出生体重児・早産児の特徴	外観 循環器系 血液 免疫系 呼吸器系 消化器系、代謝系 泌尿器系 ビリルビン代謝 体温調節
	C. 低出生体重児・早産児の疾患の病態・診断	呼吸窮迫症候群<RDS> 無呼吸発作 未熟児動脈管開存症 未熟児網膜症 脳室内出血 脳室周囲白質軟化症 核黄疸 壊死性腸炎 敗血症、髄膜炎 未熟児貧血 未熟児骨減少症<未熟児くる病> 低血糖症 低カルシウム血症 低体温症
	D. 低出生体重児・早産児の予後・経過	死亡率 成長・発達 後遺症
35. 低出生体重児・早産児への支援	A. 異常の早期発見、予防・治療のための支援	体温管理と保育器管理 呼吸管理 皮膚のケア 水分・電解質・血糖管理 栄養管理と授乳 感染予防

助産診断・技術学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 発達のための支援 (ディベロップメンタルケア)	ディベロップメンタルケアの目的と対象 ディベロップメンタルケアの内容(ポジショニング、ハンドリング、早期母子接触、タッチケア) 家族への支援 (哺乳支援、ファミリーケア)

地域母子保健

【地域母子保健】

目標 I. 母子保健の動向について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 地域母子保健の基本	A. 母子保健の概念	母子保健の変遷 地域の特性と母子保健 地域母子保健の意義 ヘルスプロモーション
	B. 母子の健康に関わる因子	社会環境、生活環境、住環境 生活行動、生活様式 家族、地域
2. 母子保健の動向と課題	A. 統計にみる母子保健の動向	出生 合計特殊出生率 妊産婦死亡、後発妊産婦死亡 自然流産、人工流産、死産 周産期死亡 新生児死亡 乳児死亡、幼児死亡 女性の就業率 人工妊娠中絶
	B. 母子保健に関する課題	少子化 育児支援の必要性 経済格差、医療の地域格差 不妊・不育の支援 家族形態の多様化
	C. 国際母子保健に関する課題	国籍・宗教・文化を考慮した母子支援 妊産婦死亡・乳児死亡の国際比較 持続可能な開発目標<SDGs>

地域母子保健

目標Ⅱ．母子保健活動及び助産業務を行う上で必要な母子保健行政と母子保健制度・施策について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 母子保健行政の体系	A. 母子保健行政の仕組み	母子保健行政の動向 母子保健行政における国・都道府県・市町村の役割 母子保健行政の財源
	B. 母子保健に関わる法律	母子保健法 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律<成育基本法> 地域保健法 児童虐待の防止等に関する法律 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法> 母子及び父子並びに寡婦福祉法
	C. 母子保健に関わる制度	健康診査 保健指導 療養援護 医療対策 母子健康手帳 予防接種
	D. 主な母子保健施策	健やか親子21（第2次） 次世代育成支援対策 少子化対策 妊産婦のための食生活指針 妊娠高血圧症候群等療養援護 母子感染予防（B型肝炎ウイルス、成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>） 妊娠期から子育て期にわたる包括支援（産前・産後サポート、産婦健康診査、産後ケア事業） 特定不妊治療費助成事業 母子自立支援、貧困対策、ひとり親家庭等日常生活支援事業

地域母子保健

目標Ⅲ. 助産師が行う地域母子保健活動の実際について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 地域母子保健活動の 実際	A. 地域の様々な場における 助産師の役割	助産所 診療所・病院 周産期医療センター 市町村保健センター 保健所 子育て世代包括支援センター<母子健康包括支援センター>
	B. 地域における助産師の活 動と留意点	プレコンセプションケア 性教育 予期せぬ妊娠をした女性へのケア 出産準備教育 妊産褥婦の訪問 産前・産後サポート、産後ケア事業 育児支援（電話相談、ベビーマッサージ） 新生児訪問指導 メンタルヘルスケア 児童虐待予防
	C. 母子保健活動における連 携・協働	多職種連携と調整 地域包括ケアシステム ソーシャル・キャピタル 民間組織・自助グループ<セルフヘルプグループ> との連携

助産管理

【助産管理】

目標Ⅰ．助産管理の基本、助産業務管理、助産所の管理・運営、周産期医療とその安全について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 助産管理の基本と助産業務管理	A. 助産管理の基本	助産業務管理の特性 組織における助産師の役割と助産管理体制 助産の質の管理と保証
	B. 助産業務管理の過程	管理目標の設定 業務の分析 業務計画の策定 業務の評価
	C. 助産業務管理の実際	人事・物品・経済・情報・時間の管理 継続教育 文書・記録の管理と開示 診療情報提供 他部門・他機関との連携・協働 地域との連携 業務の質の管理
	D. 場に応じた助産業務管理の特徴	周産期棟、混合病棟の管理 外来の管理 院内助産・助産師外来の管理 助産所の管理
	E. 助産業務管理と医療経済	医療保険制度 診療報酬 分娩費用、健康診査に係わる費用 出産育児一時金
2. 助産師及び助産師の業務に関わる法と責任	A. 助産師の業務に関わる関係法規	保健師助産師看護師法 医療法 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律<医薬品医療機器等法>（処方せん医薬品等取り扱い） 母子保健法 母体保護法 児童福祉法 地域保健法 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律<成育基本法>

助産管理

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 助産師の法的義務・届出に関わる関係法規	<p>戸籍法（出生届、婚姻届）</p> <p>刑法（秘密漏示の禁止、堕胎の禁止、虚偽私文書作成の禁止）</p> <p>保健師助産師看護師法（応招義務、出生証明書、死産証書、死胎検案書、異常死産児の届出、助産録の記載と保存）</p>
	C. 女性の支援に関わる関係法規	<p>配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法></p> <p>育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法></p> <p>性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律</p> <p>母子及び父子並びに寡婦福祉法</p> <p>健康保険法、国民健康保険法（出産育児一時金の支給）</p> <p>労働基準法</p> <p>雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法></p> <p>男女共同参画社会基本法</p> <p>生活保護法（出産扶助）</p>
	D. 子どもの支援に関わる関係法規	<p>児童虐待の防止等に関する法律</p> <p>少子化社会対策基本法</p> <p>障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法></p> <p>医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律<医療的ケア児支援法></p>
3. 助産所の管理・運営	A. 関係法規に基づく管理	<p>助産所の定義</p> <p>助産所の開設者と管理者</p> <p>助産所の管理者の義務</p> <p>助産所の構造と設備</p> <p>助産所の広告</p>
	B. 助産所の管理・運営	<p>嘱託医および嘱託医療機関との連携・協働</p> <p>救急時の搬送と搬送基準</p> <p>環境・設備・備品の整備</p> <p>地域医療・行政との連携・協働</p> <p>助産所での分娩の適応基準</p> <p>自宅分娩の適応と可否の判断</p>

助産管理

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 周産期医療における連携・協働	A. チーム医療における連携	周産期医療体制 周産期医療におけるチーム医療、多職種の連携・協働 地域との連携 オープンシステム、セミオープンシステム
5. 助産師が行う医療安全と危機管理	A. 安全対策	リスクマネジメント 感染予防・管理、院内感染、薬剤耐性<AMR> 傷害等の対応と損害賠償保険 産科医療補償制度
	B. 医療事故防止対策	医療事故防止対策 医療事故の原因 救急体制 法的責務
	C. 災害への備え、災害対策・支援活動	訓練 物品の備え 妊産婦・母子・女性への災害に対する教育 発災時の初期対応 被災した妊産婦・母子・女性の特徴と支援

助産師国家試験出題基準・索引

2
21トリソミー 30

A
AED 20
AIDS 4
AMR 38
Apgar<アプガー>スコア 25

B
biophysical profile score
 <BPS> 16
BMI 12
BPS 16
B型肝炎ウイルス 15, 34
B群溶連菌 15

C
C型肝炎ウイルス 15

D
DIC 18, 20
DOHaD 7
Doppler<ドプラ>法 11
DV 2
DV防止法 37

F
Family-centered care 1
Friedman<フリードマン>曲線16

H
HIV 4, 15
HPV 4, 15
HTLV-1 15, 23, 34

I
ICT 9
IUD 4
IUS : Intrauterine
 Contraceptive System 4
IVR : Interventional radiology
 18

L
Leopold<レオポルド>触診法 11

M
MAS 27
MRI 3

N
NIPT : non-invasive prenatal
 test 5
not doing well 27
NST 11

O
overt diabetes in pregnancy 14

P
PCOS 2
PMDD 2
PMS 2

R
RDS 31
RSウイルス感染症 30

S
SDGs 33
Seitz<ザイツ>法 11
SIDS 30
SSSS 30
STI 4, 10

T
TTN 27

W
WHO 1
Women-centered care 1, 9

あ
愛着形成 ... 13, 15, 21, 22, 26
悪性腫瘍 24
アルコール依存 3

い
育児・介護休業法 34, 37
育児技術 21, 22
育児休業 13
育児不安 21
意思決定支援 9
萎縮性膀胱 2
異常出血 20
遺伝 2
医薬品医療機器等法 4, 36
医療事故 38
医療法 1, 36
医療面接 11, 12
飲酒 3, 6, 28
院内助産 36
インフォームド・コンセント . 11
陰部神経ブロック 19

え
栄養12, 13, 16, 21, 22, 25, 29
栄養所要量 2, 6
会陰切開術 18
会陰縫合術 18
会陰保護 17
会陰裂傷 18
炎症性疾患 4
エンパワメント 9

お
応急処置 20
応招義務 37
黄疸 27
嘔吐 27
オープンシステム 38
親役割 13, 21

か
外性器 3
回旋 18
外表奇形 27
カウンセリング 9
核黄疸 31
家族計画 4, 10

家族を中心としたケア<Family-centered care> 1
 家庭訪問 9, 10
 間欠の胎児心拍数聴取 ... 11, 12
 鉗子遂娩術 18
 カンジダ 15
 カンジダ症 4, 30

き

基礎体温法 4
 喫煙 3, 6, 28
 虐待 15, 30, 34, 35
 吸引遂娩術 18
 吸啜 22
 緊急避妊薬 4

く

クラミジア 15
 クラミジア感染症 4

け

経管栄養 27
 頸管熟化薬 8
 経口避妊薬 4
 継続教育 36
 血液型不適合妊娠 14
 月経 10
 月経異常 10
 月経困難症 2
 月経不順 2
 月経前症候群<PMS> 2
 月経前不快気分障害<PMDD> .. 2
 血腫 20
 血糖 25
 肩甲難産 18
 原始反射 25

こ

合計特殊出生率 33
 甲状腺機能異常 14
 甲状腺疾患 24, 28
 後陣痛 23
 光線療法 27
 後天性免疫不全症候群<AIDS> 4
 更年期 2, 10
 更年期障害 2, 10
 高ビリルビン血症 27

硬膜外麻酔法 19
 肛門圧迫 17
 肛門保護 17
 抗リン脂質抗体症候群 5
 呼吸窮迫症候群<RDS> 31
 呼吸法 17
 呼吸補助療法 27
 国際助産師連盟<ICM> 1
 子育て世代包括支援センター . 35
 骨粗鬆症 10
 骨盤 3, 16
 骨盤位 14
 骨盤位牽出術 18
 骨盤臓器脱 2, 10
 骨盤内臓器 3
 コンドーム 4

か

災害 38
 臍処置 25
 臍帯 7, 8, 17, 25
 臍帯血 7
 在胎週数 31
 サイトメガロウイルス 15
 在留外国人 23
 産科DIC 18, 20
 産科医療補償制度 38
 産科合併症 14
 産科危機的出血 20
 産科手術 18
 産後うつ病 21, 23
 産後ケア 10, 34, 35
 産褥精神障害 21, 23
 産褥体操 22
 産褥熱 23
 産前産後休業 13
 産痛 17
 産道 7
 産道裂傷 20

し

ジェンダー・アイデンティティ 3
 子癩 18
 弛緩出血 18
 子宮筋腫 3
 子宮頸管 16
 子宮頸がん検診 10
 子宮頸管熟化度 16

子宮頸管無力症 14
 子宮頸部細胞診 3
 子宮口 16
 子宮腔内タンポナーデ 18
 子宮腔内バルーン留置 18
 子宮収縮薬 8
 子宮収縮抑制薬 8
 子宮腫瘍 3
 子宮腺筋症 3
 子宮底圧迫法 18
 子宮底長 11, 12
 子宮底輪状マッサージ法 22
 子宮内黄体ホルモン放出システム
 4
 子宮内胎児死亡 14
 子宮内反症 18
 子宮内避妊具<IUD> 4
 子宮内膜 6
 子宮内膜症 3
 子宮破裂 18
 子宮復古 17
 子宮復古不全 23
 止血法 20
 嗜好品 13
 自己免疫疾患 28
 死産 23, 33
 死産証書 37
 思春期 2, 10
 持続可能な開発目標<SDGs> . 33
 自宅分娩 37
 自動体外式除細動器<AED> .. 20
 児童福祉法 36
 自閉症スペクトラム障害 30
 若年妊娠 15
 就業女性 2
 周産期医療 38
 周産期医療センター 35
 周産期死亡 33
 絨毛検査 5
 絨毛膜 7
 絨毛膜羊膜炎 14
 就労女性 13
 受精 6
 受精卵 7
 受精調節法 4
 出血性ショック 20
 出産育児一時金 36, 37
 出産準備教育 10

出産体験	21
出生証明書	37
出生前検査	5
出生前診断	5
出生体重	31
出生届	37
授乳	8, 25, 31
授乳技術	22
守秘義務	1
常位胎盤早期剥離	14
少子化	33
少子化対策	34
情報通信技術<ICT>	9
静脈瘤	23
食生活	2
嘱託医	37
嘱託医療機関	37
職場復帰	22
初経	2
助産業務管理	36
助産師外来	36
助産所	35, 36, 37
助産診断	14
助産録	37
女性を中心としたケア<Women-centered care>	1, 9
人工乳	23
人工妊娠中絶	10, 33
心雑音	27
新生児	8, 25, 27
新生児一過性多呼吸<TTN>	27
新生児仮死	27
新生児死亡	33
新生児蘇生法	25, 27
新生児聴覚スクリーニング検査	26
新生児低血糖症	27
新生児搬送	20
新生児ビタミンK欠乏症	27
新生児訪問	10, 35
新生児マスキング検査	26
陣痛	16
陣痛周期	7
陣痛発来	16
深部静脈血栓症	23

す

水痘	30
スクリーニング	13, 26

健やか親子21 (第2次)	34
---------------	----

せ

成育基本法	34, 36
性感染症<STI>	4, 10
性器	2
性器ヘルペス	4
性教育	10, 35
性行動	3
精子	6
成熟期	2
成熟度	25
生殖器	3, 6
生殖補助医療	5
成人T細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>	15, 23, 34
成人期	10
精神疾患	13, 15, 21
成人病胎児期発症説<DOHaD>	7
性生活	10, 12, 13, 21, 22
性の多様性	3
性分化	3
性暴力	2
生理的体重減少	25
世界保健機関<WHO>	1
セクシュアリティ	3
セクシュアル・ハラスメント	2
セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1
切迫早産	7, 14
切迫流産	14
セルフケア	9, 22
遷延分娩	18
前期破水	14, 18
前駆陣痛	16
尖圭コンジローマ	4
染色体異常	5, 30
前置胎盤	14

そ

早期母子接触	17, 32
早産	23
早産児	31
ソーシャル・キャピタル	35

た

胎位	12, 16, 18
体温調節	31

胎外環境	25
体格指数<BMI>	12
退行性変化	22
胎児機能不全	18
胎児心拍数	12
胎児心拍数陣痛図	16
胎児推定体重	12, 16
胎児発育不全<FGR>	14
胎児付属物	7, 17, 18
胎内環境	25
胎盤	7, 12, 14, 16, 17
胎盤圧出法	18
胎盤通過性	7, 8
胎盤剥離徴候	16
胎便吸引症候群<MAS>	27
多職種連携	15, 35, 38
多胎	18
多胎出産	23
多胎妊娠	5, 14
多嚢胞性卵巣症候群<PCOS>	2
単純ヘルペスウイルス	15
男女雇用機会均等法	34, 37

ち

チアノーゼ	27
地域包括ケアシステム	35
地域保健法	34, 36
チーム医療	38
膣炎	4
膣鏡診	11, 16
窒息	29
膣分泌物	3
乳房	22
着床	6
中毒疹	27
超音波検査	11, 12
超音波断層法	3

て

低栄養	6
帝王切開	15
帝王切開術	23
低血糖症	31
低出生体重児	31
低体温	27
低体温症	31
低体温療法	27
ディバロップメンタルケア	32

電話相談 9

と

頭血腫 27
 糖代謝 25
 糖尿病 24, 28
 糖尿病合併妊娠 7, 14
 動脈塞栓術 18
 トキソプラズマ 15
 努責 17
 突発性発疹 30
 届出 22, 37
 ドメスティック・バイオレンス
 <DV> 2

な

内診 11, 12, 16
 内性器 3
 軟産道 16
 なんとなく元気がない<not
 doing well> 27

に

乳癌 3, 23
 乳がん検診 10
 乳汁分泌量 22
 乳腺炎 23
 乳幼児 8, 29, 30
 乳幼児突然死症候群<SIDS> . 30
 尿失禁 10
 妊産婦死亡 33
 妊産婦のための食生活指針 ... 34
 妊娠悪阻 14
 妊娠合併症 7
 妊娠高血圧症候群 7, 14, 23, 34
 妊娠中の明らかな糖尿病 14
 妊娠徴候 12
 妊娠糖尿病 7, 14
 妊娠の受容 13, 15
 妊娠貧血 14
 妊婦健康診査 11

の

脳性麻痺 30
 ノンストレステスト<NST> .. 11

は

パートナー 4, 13, 22
 敗血症 31
 肺塞栓症 23
 バイタルサイン 25
 排尿障害 2
 排卵 6
 排卵障害 5
 ハイリスク妊婦 15
 播種性血管内凝固症候群<DIC>
 18, 20
 破水 16
 パップスメアテスト 3
 バルトグラム 16

ひ

ピアサポート 9
 被虐待児症候群 30
 ビタミンK₂シロップ 25
 ヒトパピローマウイルス<HPV>
 15
 ヒトパピローマウイルス<HPV>
 感染症 4
 ヒトパルボウイルスB19 15
 ヒト免疫不全ウイルス<HIV> 4,
 15
 ひとり親 23
 肥満 6
 ビリルビン代謝 31

ふ

不育 33
 不育症 5, 10
 風疹ウイルス 15
 腹囲 11, 12
 腹式帝王切開術 18
 腹部膨満 27
 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
 <SSSS> 30
 不妊 33
 不妊症 5, 10
 不妊治療 5, 23, 34
 プリシード・プロシードモデル 9
 プレコンセプションケア 35
 分娩開始 7, 16
 分娩介助 17
 分娩外傷 27

分娩監視装置 11
 分娩機転 17
 分娩促進 7, 18
 分娩体位 7, 17
 分娩体験 22
 分娩の三要素 7
 分娩誘発 7, 18
 分娩様式 7
 分娩予定日 12

へ

閉経 2
 ヘルスピーリーフモデル 9
 ヘルスプロモーション 33
 娩出力 7, 18
 便色異常 27

ほ

保育器 31
 帽状腱膜下出血 27
 法的義務 37
 保健師助産師看護師法 1, 36, 37
 母子及び父子並びに寡婦福祉法
 34, 37
 母子感染 15, 28, 34
 母子健康手帳 34
 母子健康包括支援センター ... 35
 ポジショニング 32
 母子接触 25
 母子保健 33, 34
 母子保健法 34, 36
 母性健康管理指導事項連絡カード
 13
 母体血胎児染色体検査 5
 母体搬送 20
 母体保護法 4, 36
 ボディイメージ 13
 哺乳 8, 22, 25, 32
 母乳育児 22, 23
 哺乳行動 22
 母乳代用品 22

ま

マイナートラブル 12, 13
 麻酔 8, 19
 マタニティーブルーズ 21
 マンモグラフィー 3

み	
未熟児動脈管開存症	31
未熟児網膜症	31
未受診妊婦	15

む	
無月経	2
無呼吸発作	27, 31
無痛分娩	7

め	
免疫学的妊娠反応検査	12
メンタルヘルス	13, 23
メンタルヘルスケア	35

や	
薬剤耐性<AMR>	38
薬物	3
やせ	6

ゆ	
揺さぶられっこ症候群	30

よ	
用手剥離	18
羊水	7, 16
羊水検査	5
羊水塞栓	18
羊水量	12, 14
羊膜	7
予防接種	8, 29, 34

ら	
ライフサイクル	10
卵子	5, 6
卵巣	3
卵巣腫瘍	3
卵膜	7, 16

り	
リスクマネジメント	38
流行性耳下腺炎	30
流産	15, 23, 33
療養援護	34
リラクセーション	17

れ	
連続的胎児心拍数モニタリング	12

ろ	
老年期	2, 10

わ	
ワーク・ライフ・バランス	2
ワクチン接種	15

看護師国家試験出題基準

看護師国家試験出題基準 目次

必修問題	看-1
人体の構造と機能	看-11
疾病の成り立ちと回復の促進	看-16
健康支援と社会保障制度	看-24
基礎看護学	看-31
成人看護学	看-36
老年看護学	看-50
小児看護学	看-56
母性看護学	看-64
精神看護学	看-71
在宅看護論／地域・在宅看護論	看-77
看護の統合と実践	看-82
索引	看-86

必修問題

【必修】

目標 I. 健康および看護における社会的・倫理的側面について基本的な知識を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 健康の定義と理解	A. 健康の定義	世界保健機関<WHO>の定義 ウェルネスの概念
	B. 健康に関する指標	総人口 年齢別人口 労働人口 将来推計人口 世帯数 婚姻、家族形態 出生と死亡の動向 死因の概要 平均余命、平均寿命、健康寿命
	C. 受療状況	有訴者の状況 有病率、罹患率、受療率 外来受診の状況 入院期間
2. 健康に影響する要因	A. 生活行動・習慣	食事と栄養 排泄 活動と運動、レクリエーション 休息と睡眠 清潔と衣生活 ライフスタイル ストレス 喫煙、嗜好品
	B. 生活環境	水質、大気、土壌 食品衛生 住環境
	C. 社会環境	職業と健康障害 労働環境 ワーク・ライフ・バランス
3. 看護で活用する社会保障	A. 医療保険制度の基本保障	医療保険の種類 国民医療費 高齢者医療制度 給付の内容

必修問題

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 介護保険制度の基本	保険者 被保険者 給付の内容 要介護・要支援の認定 地域支援事業
4. 看護における倫理	A. 基本的人権の擁護	個人の尊厳 患者の権利 自己決定権と患者の意思 インフォームド・コンセント ノーマライゼーション 情報管理（個人情報保護）
	B. 倫理原則	自律尊重 善行 公正、正義 誠実、忠誠 無危害
	C. 看護師等の役割	説明責任＜アカウンタビリティ＞ 倫理的配慮 権利擁護＜アドボカシー＞
5. 看護に関わる基本的法律	A. 保健師助産師看護師法	保健師・助産師・看護師の定義 保健師・助産師・看護師の業務 保健師・助産師・看護師の義務（守秘義務、業務従事者届出の義務、臨床研修等を受ける努力義務） 養成制度
	B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	目的、基本方針 ナースセンター

必修問題

目標Ⅱ．看護の対象および看護活動の場と看護の機能について基本的な知識を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
6. 人間の特性	A. 人間と欲求	基本的欲求 社会的欲求
	B. 対象の特性	QOL 健康や疾病に対する意識 疾病・障害・死の受容
7. 人間のライフサイクル各期の特徴と生活	A. 胎児期	形態的発達と異常
	B. 新生児・乳児期	発達の原則 身体の発育 運動能力の発達 栄養 親子関係
	C. 幼児期	身体の発育 運動能力の発達 言語の発達 社会性の発達 基本的生活習慣の確立
	D. 学童期	運動能力の発達、体力の特徴 社会性の発達 学習に基づく行動
	E. 思春期	第二次性徴 アイデンティティの確立 親からの自立 異性への関心
	F. 成人期	社会的責任と役割 生殖機能の成熟と衰退 基礎代謝の変化
	G. 老年期	身体的機能の変化 認知能力の変化 心理社会的変化
8. 看護の対象としての患者と家族	A. 家族の機能	家族関係 家族構成員 疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響
	B. 家族形態の変化	家族の多様性 構成員の変化

必修問題

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
9. 主な看護活動の場と看護の機能	A. 看護活動の場と機能・役割	病院、診療所 助産所 訪問看護ステーション 介護保険施設 地域包括支援センター 市町村、保健所 学校 企業 チーム医療 退院調整

必修問題

目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復について基本的な知識を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
10. 人体の構造と機能	A. 人体の基本的な構造と正常な機能	内部環境の恒常性 神経系 運動系 感覚器系 循環器系 血液、体液 免疫系 呼吸器系 消化器系 栄養と代謝系 泌尿器系 体温調節 内分泌系 性と生殖器系 妊娠・分娩・産褥の経過 遺伝
	B. 人間の死	死の三徴候 死亡判定 脳死

必修問題

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
11. 徴候と疾患	A. 主要な症状と徴候	意識障害 嚥下障害 言語障害 ショック 高体温、低体温 脱水 黄疸 頭痛 咳嗽、喀痰 吐血、喀血 チアノーゼ 呼吸困難 胸痛 不整脈 腹痛、腹部膨満 悪心、嘔吐 下痢 便秘 下血 乏尿、無尿、頻尿、多尿 浮腫 貧血 睡眠障害 感覚過敏・鈍麻 運動麻痺 けいれん
	B. 主要な疾患による健康障害	生活習慣病 がん 感染症 精神疾患 小児の疾患 高齢者の疾患
	C. 基本的な臨床検査値の評価	血液学検査 血液生化学検査 免疫血清学検査 尿検査

必修問題

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
12. 薬物の作用とその管理	A. 主な薬物の効果と副作用 (有害事象)	抗感染症薬 抗がん薬 強心薬、抗不整脈薬 狭心症治療薬 抗血栓薬 降圧薬、昇圧薬 利尿薬 消化性潰瘍治療薬 下剤、止痢薬 抗アレルギー薬 免疫療法薬 副腎皮質ステロイド薬 糖尿病治療薬 中枢神経作用薬 麻薬 消炎鎮痛薬
	B. 薬物の管理	禁忌 保存・管理方法 薬理効果に影響する要因

必修問題

目標Ⅳ. 看護技術に関する基本的な知識を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
13. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション 面接技法
	B. 看護過程	情報収集、アセスメント 計画立案 実施 評価
	C. フィジカルアセスメント	バイタルサインの観察 意識レベルの評価 呼吸状態の観察 腸蠕動音聴取 運動機能の観察
14. 日常生活援助技術	A. 食事	食事の環境整備、食事介助 誤嚥の予防
	B. 排泄	排泄の援助（床上、トイレ、ポータブルトイレ、おむつ） 導尿 浣腸 摘便 失禁のケア
	C. 活動と休息	体位、体位変換 移動、移送 ボディメカニクス 廃用症候群の予防 睡眠
	D. 清潔	入浴、シャワー浴 清拭 口腔ケア 洗髪 手浴、足浴 陰部洗浄 整容 寝衣交換

必修問題

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
15. 患者の安全・安楽を守る看護技術	A. 療養環境	病室環境 共有スペース 居住スペース
	B. 医療安全対策	転倒・転落の防止 誤薬の防止 患者誤認の防止 誤嚥・窒息の防止 コミュニケーションエラーの防止
	C. 感染防止対策	標準予防策<スタンダードプリコーション> 感染経路別予防策 手指衛生 必要な防護用具(手袋、マスク、ガウン、ゴーグル)の選択・着脱 無菌操作 滅菌と消毒 針刺し・切創の防止 感染性廃棄物の取り扱い
16. 診療に伴う看護技術	A. 栄養法	経管・経腸栄養法 経静脈栄養法
	B. 薬物療法	与薬方法 薬効・副作用(有害事象)の観察
	C. 輸液・輸血管理	刺入部位の観察 点滴静脈内注射 輸血
	D. 採血	刺入部位 採血方法 採血後の観察内容、採血に関連する有害事象
	E. 呼吸管理	酸素療法の原則 酸素ボンベ 酸素流量計 鼻腔カニューラ 酸素マスク ネブライザー 口腔内・鼻腔内吸引 気管内吸引 体位ドレナージ

必修問題

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	F. 救命救急処置	気道の確保 人工呼吸 胸骨圧迫 直流除細動器 自動体外式除細動器<AED> 止血法 トリアージ
	G. 皮膚・創傷の管理	創傷管理 褥瘡の予防・処置

人体の構造と機能

【人体の構造と機能】

目標Ⅰ. 正常な人体の構造と機能について基本的な理解を問う。
 目標Ⅱ. フィジカルアセスメントおよび日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能について基本的な理解を問う。
 目標Ⅲ. 疾病の成り立ちとの関連において、人体の構造と機能について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 細胞と組織	A. 細胞の構造	細胞膜と細胞質 核 細胞小器官と細胞骨格
	B. 遺伝子と遺伝情報	ゲノムと遺伝子 タンパク合成
	C. 細胞分裂	染色体の複製と有糸分裂 減数分裂
	D. 組織	上皮組織 支持組織 筋組織 神経組織
	E. 細胞内情報伝達	イオンチャネル型受容体 代謝調節型受容体 細胞内受容体、核内受容体
2. 生体リズムと内部環境の恒常性	A. 生体リズム	概日リズム<サーカディアンリズム> 体内時計
	B. 内部環境の恒常性維持機構	細胞外液 体温
3. 神経系	A. 神経細胞と神経組織	神経細胞<ニューロン>と情報伝達 神経膠細胞
	B. 中枢神経系の構造と機能	大脳 視床、視床下部 中脳、橋、延髄 小脳 脊髄 反射 髄膜と脳室 脳脊髄液の循環 感覚と運動の伝導路 覚醒と睡眠

人体の構造と機能

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 末梢神経系の構造と機能	脳神経 脊髄神経 体性神経 自律神経
4. 運動器系	A. 骨と骨格	骨の構造と機能 軟骨の構造 全身の骨
	B. 関節の構造と機能	関節の構造と動き 全身の関節
	C. 骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造 筋収縮の機構 全身の骨格筋
5. 感覚器系	A. 体性感覚	刺激と感覚受容 表在感覚 深部感覚
	B. 視覚	眼球と眼球付属器の構造 視力と視野 明暗覚、色覚 視覚の伝導路 眼球運動 眼の反射と調節機能
	C. 聴覚	外耳・中耳・内耳の構造 音の伝播 聴力
	D. 平衡感覚	平衡器官の構造 平衡覚とその伝導路
	E. 味覚	味蕾の構造と機能 味覚の伝導路
	F. 嗅覚	嗅上皮 嗅覚の伝導路
	G. 内臓感覚	内臓感覚の受容器と機能
6. 循環器系	A. 心臓の構造と機能	心臓の構造 刺激伝導系 心周期 心機能の調節

人体の構造と機能

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 血管系の構造と機能	動脈、静脈、毛細血管 血圧と血圧調節 門脈系 肺循環と体循環 冠循環 脳循環 胎児・胎盤の血液循環 末梢循環の調節
	C. リンパ系の構造と機能	リンパ液、リンパ管、リンパ節 胸管
7. 血液	A. 血液の成分と機能	血液の成分（血球、血漿、血清） 赤血球の働き 血液の物理化学的特性 造血と造血因子
	B. 止血機構	血液凝固 線維素溶解
	C. 血液型	ABO式、Rh式
8. 体液	A. 体液の構成	体液の区分 体液の組成
	B. 体液の調節	電解質バランス 酸塩基平衡 浸透圧調節
9. 生体の防御機構	A. 非特異的生体防御機構	皮膚の構造と防御機構 粘膜の構造と防御機構 食細胞とサイトカイン
	B. 特異的生体防御反応（免疫系）	免疫系の細胞 胸腺、脾臓、リンパ組織 抗原と抗体 補体 液性免疫 細胞性免疫 アレルギー反応 組織適合性抗原<HLA>
10. 呼吸器系	A. 気道の構造と機能	鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支 発声
	B. 肺の構造	肺 胸膜

人体の構造と機能

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 縦隔	縦隔の区分 縦隔に含まれる器官
	D. 呼吸	呼吸筋 換気 ガス交換 呼吸運動 呼吸調節
11. 消化器系	A. 咀嚼・嚥下	歯・口腔・唾液腺の構造と機能 咽頭・喉頭の構造と機能 食道の構造と機能 咀嚼 嚥下
	B. 消化と吸収	胃の構造と機能 小腸の構造と機能 大腸の構造と機能 排便反射 肝臓・胆道の構造と機能 膵臓の構造と機能 三大栄養素の消化と吸収 消化管運動と反射 消化管ホルモン
12. 代謝系	A. 栄養とエネルギー代謝	栄養所要量 基礎代謝
	B. 物質代謝	同化作用と異化作用 酵素 栄養素の代謝 ビリルビンの代謝 核酸の代謝
13. 泌尿器系	A. 尿の生成	腎臓の構造 糸球体濾過 尿細管における再吸収と分泌
	B. 体液量の調節	抗利尿ホルモンの作用 レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系
	C. 排尿	尿管と膀胱の構造と機能 尿道の構造と機能 排尿反射

人体の構造と機能

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
14. 体温調節	A. 体温	核心温度と外殻温度
	B. 体温の調節	熱放散と熱産生 体温調節中枢
15. 内分泌系	A. ホルモンの種類	ホルモンの化学的性質 ホルモンの受容体
	B. ホルモン分泌の調節	フィードバック機構
	C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能	視床下部 下垂体 松果体 甲状腺 副甲状腺<上皮小体> 膵島 副腎皮質 副腎髄質 腎臓 性腺
16. 生殖器系	A. 女性の生殖器系の構造と機能	卵巣 卵管、子宮、膣 外陰部・会陰の構造 性周期 妊娠、分娩、産褥 妊娠・分娩に伴う変化 乳房
	B. 男性の生殖器系の構造と機能	精巣と精路 精子の形成 精巣上体、精管、精囊、前立腺、陰茎
	C. 受精と発生	受精 着床 初期発生と器官形成 胎児の発生
17. 成長	A. 成長による変化	成長による組織・臓器の形態的变化 成長による臓器の機能的変化

疾病の成り立ちと回復の促進

【疾病の成り立ちと回復の促進】

目標 I. 健康から疾病を経て回復に至る過程について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 健康の維持増進	A. 疾病の予防・早期発見	健康診断、健康診査、がん検診 予防接種 健康教育
2. 疾病の成立と疾病からの回復	A. 疾病の要因	内因（宿主要因）、外因（環境要因） 生活習慣 ストレス
	B. 回復過程	神経内分泌の反応 免疫系の反応 代謝系の反応 回復に影響する身体・心理・社会的要因

疾病の成り立ちと回復の促進

目標Ⅱ．疾病の要因と生体反応について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 基本的な病因とその成り立ち	A. 細胞の障害	萎縮、変性、肥大 壊死<ネクロシス>とアポトーシス 創傷と治癒
	B. 生体の障害	呼吸障害 循環障害、臓器不全 炎症、損傷 免疫異常、アレルギー 内分泌・代謝異常 廃用症候群 老年症候群 遺伝子異常、先天異常 腫瘍 中毒、放射性障害
	C. 人と病原体の関わり	感染源と感染経路 ウイルス 細菌 真菌 薬剤耐性<AMR> (多剤耐性菌)

と疾病の成り立ち回復の促進

疾病の成り立ちと回復の促進

目標Ⅲ. 疾病に対する診断・治療について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 疾病に対する医療	A. 診断の基本と方法	医療面接（問診）、身体診察（視診、触診、聴診、打診） 検体検査 生体機能検査 画像検査 内視鏡検査 心理・精神機能検査
	B. 薬物の特性	与薬方法 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄） 薬理作用と副作用（有害事象）
	C. 治療方法	手術療法（麻酔を含む） 化学療法 放射線治療 輸血 リハビリテーション、運動療法 食事療法 臓器移植、再生医療 人工臓器・透析 精神療法
	D. 医療による健康被害	薬害 ウイルス性肝炎 院内感染

と疾病の成り立ち
回復の促進

疾病の成り立ちと回復の促進

目標IV. 各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 呼吸機能	A. 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療	炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎） 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患＜COPD＞ 肺循環障害（肺高血圧、肺塞栓症） 肺結核 気胸 腫瘍（肺癌、中皮腫）
6. 循環機能	A. 心臓の疾患の病態と診断・治療	先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、Fallot＜ファロー＞四徴症） 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群） 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症） 心不全（急性心不全、慢性心不全） 心タンポナーデ 不整脈（上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈） 炎症性疾患（感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎） 弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患）
	B. 血管系の疾患の病態と診断・治療	大動脈瘤、大動脈解離 閉塞性動脈硬化症、Buerger＜バージャー＞病、高安動脈炎 挫滅＜圧挫＞症候群＜crush syndrome＞ 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症
	C. 血圧異常の病態と診断・治療	動脈硬化症 本態性高血圧 二次性高血圧 起立性低血圧 迷走神経反射
	D. ショックの病態と診断・治療	心原性ショック 出血性ショック 血流分布異常性ショック 心外閉塞・拘束性ショック
7. 栄養の摂取・消化・吸収・代謝機能	A. 口腔、咽頭の疾患の病態と診断・治療	炎症性疾患（咽頭炎、扁桃炎） う歯、歯周病 腫瘍（舌癌、咽頭癌）

と疾病の成り立ち回復の促進

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 上部消化管の疾患の病態と診断・治療	炎症性疾患（逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症） 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍） 腫瘍（食道癌、胃癌） 食道静脈瘤
	C. 下部消化管の疾患の病態と診断・治療	炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、Crohn<クローン>病、虫垂炎、痔瘻） イレウス 腫瘍（大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌） 慢性便秘症
	D. 肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・治療	炎症性疾患（肝炎、胆管炎、胆嚢炎、膵炎） 肝硬変 腫瘍（肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌） 脂肪肝、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎 胆石症
	E. 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療	鼠径ヘルニア 腹膜炎 横隔膜ヘルニア 腹壁癒痕ヘルニア
8. 内部環境調節機能	A. 内分泌系の疾患の病態と診断・治療	間脳・下垂体疾患 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎） 副甲状腺<上皮小体>疾患 副腎皮質・髄質疾患 腫瘍（下垂体腫瘍、甲状腺癌）
	B. 代謝異常の疾患の病態と診断・治療	メタボリックシンドローム、肥満症 糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症、痛風 ビタミン欠乏症
	C. 体液調節の疾患の病態と診断・治療	水・電解質の異常（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症） 酸塩基平衡の異常（アシドーシス、アルカローシス）

と疾病の成り立ち
回復の促進

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
9. 造血機能	A. 血液・造血器の疾患の病態と診断・治療	貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血） 白血球減少症 出血性疾患（血栓性血小板減少性紫斑病＜TTP＞、免疫性血小板減少性紫斑病＜ITP＞、播種性血管内凝固＜DIC＞） 腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）
10. 全身の感染性疾患	A. 感染性疾患の病態と診断・治療	ウイルスによる感染症（インフルエンザ、流行性耳下腺炎＜ムンプス＞、麻疹、風疹、エボラ出血熱、コロナウイルス感染症、ヒト免疫不全ウイルス＜HIV＞感染症） 細菌による感染症（結核、コレラ、破傷風、梅毒） 敗血症
11. 免疫機能	A. 自己免疫疾患の病態と診断・治療	全身性エリテマトーデス＜SLE＞ 関節リウマチ Sjögren＜シェーグレン＞症候群 全身性強皮症 皮膚筋炎、多発性筋炎 Behçet＜ベーチェット＞病
	B. アレルギー性疾患の病態と診断・治療	花粉症（アレルギー性鼻炎） 蕁麻疹 接触皮膚炎 アナフィラキシーショック
12. 神経機能	A. 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療	脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病） 頭蓋内圧亢進症 変性疾患（Parkinson＜パーキンソン＞病、筋萎縮性側索硬化症＜ALS＞） 脱髄疾患（多発性硬化症） 認知症（Alzheimer＜アルツハイマー＞病、血管性認知症、Lewy＜レビー＞小体型認知症、前頭側頭型認知症） 感染性疾患（脳炎、髄膜炎） 頭部外傷 脊髄損傷 機能性疾患（てんかん） 腫瘍（脳腫瘍）
	B. 末梢神経系の疾患の病態と診断・治療	Guillain-Barré＜ギラン・バレー＞症候群 顔面神経麻痺（Bell＜ベル＞麻痺） 自律神経失調症

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 感覚器系の疾患の病態と診断・治療	視覚障害（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症） 聴覚障害（難聴、Ménière<メニエール>病） 嗅覚・味覚障害
13. 皮膚機能	A. 皮膚の疾患の病態と診断・治療	湿疹、皮膚炎（アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、光線過敏症<慢性光線性皮膚炎>） 蕁麻疹、薬疹 感染性疾患（帯状疱疹、蜂窩織炎、白癬、カンジダ症、疥癬） 腫瘍（色素性母斑、ケロイド、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫） 鶏眼<うおのめ>、胼胝<たこ>
14. 運動機能	A. 運動器系の疾患の病態と診断・治療	骨折、脱臼、捻挫 骨粗鬆症 腫瘍（骨肉腫、軟部組織腫瘍） 変形性関節症 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症） 炎症性疾患（骨炎、骨髄炎、関節炎） 筋ジストロフィー 重症筋無力症
15. 排泄機能	A. 泌尿器系の疾患の病態と診断・治療	腎炎、慢性腎臓病 炎症性疾患（腎盂腎炎、膀胱炎） 腫瘍（腎癌、尿管癌、膀胱癌） 腎・尿路結石 排尿障害（過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症） 腎不全
16. 生殖機能	A. 生殖器系の疾患の病態と診断・治療	女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫） 乳腺の疾患（乳腺炎、乳腺症） 男性生殖器の疾患（前立腺炎、前立腺肥大） 腫瘍（乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、前立腺癌） 生殖機能障害（月経異常、更年期障害）

と疾病の成り立ち回復の促進

疾病の成り立ちと回復の促進

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
17. 精神機能	A. 精神・心身の疾患の病態と診断・治療	<p>せん妄</p> <p>精神作用物質（アルコール、薬物）使用による精神・行動の障害</p> <p>統合失調症</p> <p>気分＜感情＞障害（うつ病、双極性感情障害）</p> <p>神経症性障害、ストレス関連障害（パニック障害、心的外傷後ストレス障害＜PTSD＞、適応障害）</p> <p>生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害）</p>

健康支援と社会保障制度

【健康支援と社会保障制度】

目標 I. 社会生活を視点とした個人・家族・集団の機能や変化について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 社会・家族機能と生活基盤の変化	A. 生活単位の変化	人口構造 家族、世帯
	B. 家族機能の変化	出生、死亡 夫婦、子ども 育児、介護 家事 婚姻、離婚
	C. ライフスタイルの変化	雇用形態 女性の労働 少子化、晩婚化、晩産化
2. 社会の中の集団	A. 地域や職場における機能	ソーシャルサポートネットワーク フォーマルサポート、インフォーマルサポート 地域活動への参加 地域集団<コミュニティ・グループ>
	B. 労働と健康	労働安全衛生法 労働基準法 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法> 就業構造 労働時間

健康支援と社会保障制度

目標Ⅱ．社会保障の理念、社会保険制度および社会福祉に関する法や施策について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 社会保障制度の基本	A. 社会保障の理念	目的と機能 日本国憲法第25条 ノーマライゼーション
	B. 社会保障制度	社会保障給付費 社会保障制度の変遷 地域包括ケアシステム
4. 社会保険制度の基本	A. 社会保険の理念	目的と機能 国民皆保険
	B. 医療保険制度	目的と機能 健康保険法 高齢者医療制度（高齢者の医療の確保に関する法律 <高齢者医療確保法>） 被用者保険、国民健康保険 公費医療制度
	C. 介護保険制度	基本理念 介護保険法 保険者、被保険者 要介護認定と給付の仕組み 地域包括支援センター 介護予防・日常生活支援総合事業
	D. 年金制度	制度の体系 国民皆年金
	E. その他の関係法規	雇用保険法 労働者災害補償保険法
5. 社会福祉の基本	A. 社会福祉制度	目的と機能 社会福祉法
	B. 社会福祉に関わる機関	目的と機能 福祉事務所 児童相談所 更生相談所 社会福祉施設
	C. 社会福祉における民間活動	民生委員、児童委員 社会福祉協議会 ボランティア活動

健康支援と社会保障制度

大 項 目	中 項 目 (出題範囲)	小 項 目 (キーワード)
	D. 生活保護に関する制度	生活保護法 扶助の種類と内容
	E. 障害者（児）に関する制度	障害者基本法 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<障害者総合支援法> 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法> 発達障害者支援法 障害者の雇用の促進等に関する法律<障害者雇用促進法> 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律<障害者差別解消法> 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律<障害者虐待防止法>
	F. 児童に関する制度	児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律<児童虐待防止法> 母子及び父子並びに寡婦福祉法 次世代育成支援、少子化対策
	G. 高齢者に関する制度	老人福祉法 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律<高齢者虐待防止法>
	H. その他の制度	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法> アルコール健康障害対策基本法 ギャンブル等依存症対策基本法 その他の依存症（薬物依存を含む）の対策

健康支援と社会保障制度

目標Ⅲ. 公衆衛生の基本、保健活動の基盤となる法や施策および生活者の健康増進について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
6. 健康と公衆衛生	A. 公衆衛生の理念	目的と機能 地域保健法 ヘルスプロモーション 一次予防、二次予防、三次予防
	B. 公衆衛生の実施機関	保健所 市区町村保健センター
	C. 疫学的方法に基づく公衆衛生	健康被害と母集団 疫学的因果関係の推定 臨床疫学とエビデンス
	D. 健康に関する指標に基づく公衆衛生	国勢調査 人口静態 人口動態 出生 死亡（死産、周産期死亡、乳児死亡を含む）、死因 平均余命、平均寿命 健康寿命 受療状況、有病率、罹患率
7. 公衆衛生における感染症と対策	A. 感染症の基本	感染症の成立と予防 予防接種 院内感染と予防 感染制御 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉
	B. 主要な感染症と動向	結核 新興感染症 再興感染症 薬剤耐性菌感染症 人獣共通感染症 ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症、後天性免疫不全症候群〈AIDS〉

健康支援と社会保障制度

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
8. 公衆衛生における生活環境への対策	A. 地球環境	地球温暖化 アスベスト 放射性物質 水質汚染 大気汚染 土壌汚染
	B. 食品および食の安全	食品衛生法 食中毒の種類と予防 健康食品、特別用途食品
	C. ごみ・廃棄物	一般廃棄物と産業廃棄物 感染性廃棄物
9. 保健活動の基盤と制度	A. 地域保健	地域保健法 健康増進法 健康日本21
	B. 母子保健	母子保健法 健やか親子21 (第2次) 母子健康手帳 保健指導、訪問指導 健康診査、健康教育 母体保護法
	C. 精神保健	精神保健医療福祉の施策 精神障害者(児)の医療と福祉 こころの健康対策、自殺対策 発達障害に関する医療と福祉 自殺対策基本法
	D. 学校保健	学校保健安全法 健康診断、健康相談 感染症対応 学校環境衛生
	E. その他の保健活動の基盤となる法や施策	がん対策基本法 難病の患者に対する医療等に関する法律<難病法>

健康支援と社会保障制度

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
10. 生活者の健康増進	A. 生活習慣病の予防	主な生活習慣病の現状 栄養、運動、休息 喫煙・飲酒対策 健康教育と早期発見 循環器疾患の予防 糖尿病の予防 特定健康診査、特定保健指導
	B. 職場の健康管理	労働安全衛生法 業務上疾病の予防 労働衛生3管理（作業管理、作業環境管理、健康管理） 仕事と家庭の両立支援（ワーク・ライフ・バランス）

健康支援と社会保障制度

目標Ⅳ. 人々の健康を支える職種に関する法や施策およびサービス提供体制について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
11. 人々の健康を支える職種やサービス提供体制に関する法や施策	A. 看護職に関する法	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律
	B. 医療や社会福祉の関連職に関する法	医師法 歯科医師法 薬剤師法 診療放射線技師法 臨床検査技師等に関する法律 理学療法士及び作業療法士法 言語聴覚士法、視能訓練士法 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 栄養士法 歯科衛生士法 救急救命士法
	C. サービスの提供体制	医療法 医療提供施設（病院、診療所、助産所、介護医療院、介護老人保健施設等）の機能 訪問看護ステーション 救急医療 在宅医療
	D. その他の役割	診療記録と情報公開 安全管理<セーフティマネジメント> 医薬品と医療機器の取り扱い

基礎看護学

【基礎看護学】

目標 I. 看護の概念及び展開について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質	看護の定義 役割と機能 看護の変遷
	B. 看護の対象	全体<whole>としての人間 成長・発達する存在 ニーズをもつ存在 生活を営む存在 適応する存在 社会・文化的存在 ライフサイクルと発達課題
	C. 健康と生活	健康のとらえ方 健康のレベル 健康への影響要因 生活習慣とセルフケア QOLの維持と向上 生活の場
	D. 看護における倫理	基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳 倫理原則、職業倫理 患者の権利と擁護 倫理的葛藤と対応
2. 看護の展開	A. 対象との関係の形成	信頼関係 援助関係
	B. 基盤となる思考過程	根拠に基づいた看護<EBN> クリティカル・シンキング 問題解決過程
	C. 看護における連携と協働	看護職間の連携と協働 多職種間の連携と協働 チームでの活動

基礎看護学

目標Ⅱ．基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 看護における基本技術	A. コミュニケーション	コミュニケーションの目的と構成要素 コミュニケーションの基本的な技法 コミュニケーションに障害のある人々への対応
	B. 学習支援	学習に関わる諸理論 学習支援の方法と媒体 学習支援プロセス
	C. 看護過程	情報収集 アセスメント 計画 実施 評価
	D. 看護業務に関する情報	看護業務に関する情報の種類 看護業務に関する情報の記録・報告・共有
	E. フィジカルアセスメント	看護におけるフィジカルアセスメントの意義 問診の基本 身体診察（視診、触診、聴診、打診）の基本 全身の診察（全身の観察、バイタルサイン） 系統別のフィジカルアセスメント
	F. 感染防止対策	感染の成立と予防 標準予防策<スタンダードプリコーション>と感染経路別予防策 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い 感染拡大の防止の対応
	G. 安全管理<セーフティマネジメント>	医療安全の概念 誤薬の予防と対策 転倒・転落の予防と対策 チューブ・ライントラブルの予防と対策 針刺しの予防と対策
	H. 安楽の確保	安楽の概念 ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 安楽な姿勢・体位の保持 安楽を提供するためのケア 安楽を保つための療養環境の調整

基礎看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	I. 終末期のケア	終末期の患者のケア 終末期の家族のケア 死亡後のケア
4. 日常生活援助技術	A. 環境	療養環境のアセスメント 療養環境の調整と整備
	B. 食事と栄養	健康な食生活と食事摂取基準 治療食、療養食 食事と栄養に影響する要因 食事と栄養のアセスメント 食事摂取の自立困難な人への援助 嚥下障害のある人への援助 経管・経腸栄養法 経静脈栄養法
	C. 排泄	排泄に影響する要因 排泄のアセスメント 自然な排泄を促す援助 トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 床上での排泄の援助 自然な排泄が困難な人への援助 尿失禁・便失禁のある人への援助
	D. 活動と運動	活動と運動に影響する要因 活動と運動のアセスメント 活動と運動を促す援助
	E. 休息と睡眠	休息と睡眠に影響する要因 休息と睡眠のアセスメント 休息と睡眠を促す援助
	F. 清潔と衣生活	清潔と衣生活に影響する要因 清潔と衣生活のアセスメント 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助
5. 診療に伴う看護技術	A. 呼吸、循環、体温調整	呼吸・循環・体温調整のアセスメント 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法 血圧・血流を保持する姿勢 酸素吸入の適応と方法 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法 排痰法の適応と方法 体温調整のための方法

基礎看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 皮膚・創傷管理	創傷の治癒過程 創傷のアセスメント 洗浄、保護、包帯法 褥瘡の予防と治癒の促進
	C. 与薬	与薬における看護師の役割 薬剤の種類と取り扱い方法 与薬方法と効果の観察 与薬の副作用（有害事象）の観察
	D. 輸液・輸血管理	輸液・輸血の種類と取り扱い方法 輸液・輸血の管理方法 輸液・輸血の副作用（有害事象）の観察
	E. 救命救急処置	生命の危機的状況のアセスメント 一次救命処置<BLS> 止血法
	F. 生体機能のモニタリング	診察・検査時の看護師の役割 検体検査（血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液） 生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学） 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >の測定、血糖測定 モニタリング機器の取り扱い

基礎看護学

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
6. 看護の役割と機能	A. 看護の場に応じた活動	在宅における看護活動 医療施設における看護活動 保健施設と福祉施設における看護活動
	B. 保健・医療・福祉の連携 と継続看護	保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み 施設内・施設間における継続看護

成人看護学

【成人看護学】

目標 I. 成人各期の健康保持・増進や疾病の予防について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 成人の特徴と生活	A. 成人期の発達の特徴	身体的・心理的・社会的な特徴 発達課題の特徴
	B. 成人の生活	家族形態の変化、家族機能 ライフスタイルの特徴
	C. 成人を取り巻く環境	社会状況の変化 産業構造・労働環境の変化
2. 成人における健康の保持・増進や疾病の予防	A. 生活習慣に関連する健康課題	生活習慣病の要因 健康問題の現状と推移 健康行動、保健行動
	B. 職業に関連する健康課題	就労条件・環境と疾病との関係 職業性疾患、作業関連疾患
	C. ストレスに関連する健康課題	ストレスと健康 ストレスと対処法

成人看護学

目標Ⅱ．急性期にある患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 急性期にある患者と家族の看護	A. 急性期にある患者と家族の特徴	身体的特徴 心理的特徴 社会的特徴
	B. 急性期における看護の基本	危機的状態への支援 治療の緊急度と優先度、治療選択・意思決定への支援 代理意思決定支援
4. 救急看護、クリティカルケア	A. 緊急度と重症度のアセスメント	意識レベル、神経学的所見、全身状態 バイタルサイン
	B. 救急看護・クリティカルケアの基本	心肺停止状態への対応 ショックへの対応 急性症状の応急処置 外傷・熱傷・中毒の応急処置 熱中症・低体温症への応急処置 感染症への対応
5. 周術期にある患者と家族の看護	A. 術前の看護	手術療法の理解を促す援助 手術の意思決定への援助 術後合併症のリスクアセスメントと援助 術前オリエンテーション 不安のアセスメントと援助 ボディイメージ<身体像>の変容への援助
	B. 術中の看護	手術方法による影響と援助 手術体位による影響と援助 麻酔による影響と援助 安全管理<セーフティマネジメント> (患者確認、ガーゼ遺残の防止)
	C. 術後の看護	侵襲に対する生体反応 術後の鎮痛・鎮静管理 創傷管理・処置 ドレーン管理・処置

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 術後合併症と予防	術後出血 深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症 呼吸器合併症 感染症 廃用症候群 消化器合併症
	E. 術後の機能障害や生活制限への看護	ボディイメージ<身体像>の受容への支援 退院調整 機能訓練 セルフケア能力の獲得

成人看護学

目標Ⅲ. 慢性疾患がある患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
6. 慢性疾患がある患者と家族の看護	A. 慢性疾患がある患者と家族の特徴	慢性疾患の特徴、慢性疾患の動向 慢性疾患とともに生きる患者と家族の特徴
	B. 慢性疾患の治療と看護の基本	治療選択・意思決定への支援 症状のマネジメント 治療や療養の継続的な支援と連携
	C. セルフケア・自己管理を促進する看護	セルフケア能力とセルフケア行動のアセスメント、アドヒアランスに影響する要因のアセスメント 自己管理支援、セルフケア支援 自己効力感、エンパワメント
	D. 社会的支援の獲得への援助	患者と家族の相互作用と関係性 退院支援、退院調整 多職種連携 セルフヘルプグループ・サポートグループ・家族会の活用と支援 医療費助成制度の活用

成人看護学

目標Ⅳ. リハビリテーションの特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大 項 目	中 項 目 (出題範囲)	小 項 目 (キーワード)
7. リハビリテーション の特徴と看護	A. リハビリテーションの特 徴	リハビリテーションの定義 リハビリテーションにおける看護の役割 機能障害と分類
	B. 機能障害のアセスメント	生活機能障害と日常生活動作<ADL> 居住環境
	C. 障害に対する受容と適応 への看護	廃用症候群の予防 日常生活動作<ADL>・活動範囲の拡大に向けた援助 補助具・自助具の活用 心理的葛藤への援助
	D. チームアプローチと社会 資源の活用	多職種連携 社会資源の活用
	E. 患者の社会参加への支援	就労条件・環境の調整 社会参加を促す要素と阻害要因

成人看護学

目標Ⅴ. がん患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
8. がん患者と家族への看護	A. がん患者の抱える苦痛	転移・浸潤に伴う身体的苦痛、身体症状に伴う活動制限 がんの診断や再発・転移による心理的苦痛 社会的苦痛 スピリチュアルな苦痛
	B. がん患者の集学的治療と看護	手術療法と看護 薬物療法と看護 放射線療法と看護 造血幹細胞移植と看護 免疫療法と看護
	C. がん患者の社会参加への支援	就労継続・環境の調整 社会参加を促す要素と阻害要因 がんサバイバー、がんサバイバーシップ 社会資源の活用（ピアサポートを含む）
	D. がん患者の家族の特徴と看護	家族が直面する課題 家族への支援

成人看護学

目標VI. 終末期にある患者、および緩和ケアを必要とする患者と家族の特徴を理解し看護を展開するための基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
9. 終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	A. 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	がん患者 慢性心不全患者 慢性呼吸不全患者 難病患者
	B. エンド・オブ・ライフ・ケア < end-of-life care >	症状アセスメントとマネジメント 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 治療中止や療養の場の移行に対する意思決定支援 予期的悲嘆に対するアセスメントとケア アドバンス・ケア・プランニング<ACP> 家族への支援
	C. 臨死期の看護	身体的特徴とケア 精神的特徴とケア 家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援

成人看護学

目標Ⅶ. 各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
10. 呼吸機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	酸素化障害 換気障害 呼吸運動障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	動脈血ガス分析、動脈血酸素飽和度 呼吸機能検査 気管支鏡検査 胸腔穿刺 肺生検 胸部エックス線検査、胸部CT検査 喀痰の吸引、喀痰細胞診、喀痰培養
	C. 治療を受ける患者の看護	酸素療法 侵襲的・非侵襲的陽圧換気 肺切除術、内視鏡的肺切除術 胸腔ドレナージ 吸入による薬物療法 薬物療法（化学療法、抗菌薬）
	D. 病期や機能障害に応じた看護	腫瘍（肺癌、悪性中皮腫） 呼吸器感染症（肺炎、気管支炎、胸膜炎、肺結核、膿胸） 慢性閉塞性肺疾患＜COPD＞、肺気腫 気管支喘息 気胸
11. 循環機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	ポンプ機能障害 刺激伝導障害 血管・リンパ管障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	心電図 心血管超音波 血管造影 心臓カテーテル

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 治療を受ける患者への看護	経皮的冠動脈形成術<PCI> 冠動脈バイパス術<CABG> 弁置換術、弁形成術 大動脈内バルーンパンピング<IABP> ペースメーカー 植込み型除細動器 血栓溶解療法、血栓除去術 心臓リハビリテーション カテーテル治療
	D. 病期や機能障害に応じた看護	心不全 虚血性心疾患 弁膜症 不整脈 動脈系疾患(大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症) 静脈系疾患(深部静脈血栓症、肺塞栓症) 心筋炎、心膜炎
12. 消化・吸収機能障害のある患者への看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	嚥下障害 消化管機能障害 膵液分泌障害 胆汁分泌障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	上部・下部消化管内視鏡検査 超音波内視鏡検査<EUS> 内視鏡的逆行性胆管膵管造影<ERCP> 消化管造影検査 画像検査(CT、MRI) 直腸診
	C. 治療を受ける患者への看護	食道切除術 胃切除術 大腸切除術 内視鏡的粘膜切除術 腹腔鏡下手術 人工肛門造設術 術後ドレナージ 胆管・胆道ドレナージ 経腸栄養法 中心静脈栄養法

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 病期や機能障害に応じた看護	上部消化管腫瘍（食道癌、胃癌） 下部消化管腫瘍（大腸癌、結腸癌） 人工肛門造設後 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、Crohn＜クローン＞病） 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎 胆管炎、胆石症
13. 栄養代謝機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	肝機能障害 代謝機能障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	腹部超音波検査 肝生検 腹腔鏡
	C. 治療を受ける患者への看護	肝庇護療法、栄養指導、生活習慣指導 抗ウイルス療法 内視鏡的静脈瘤結紮術＜EVL＞、内視鏡的静脈瘤硬化療法＜EIS＞ 肝動脈塞栓術 膵頭十二指腸切除術 肝切除術
	D. 病期や機能障害に応じた看護	ウイルス性肝炎 肝硬変 肝癌 膵炎、膵癌 脂質異常症、肥満、高尿酸血症
14. 内部環境（体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	体液量調節機能障害 電解質調節機能障害 酸塩基平衡調節機能障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	腎機能検査（尿、血液） 腎組織検査
	C. 治療を受ける患者への看護	食事療法 急性期持続血液濾過透析 血液透析 腹膜透析＜CAPD＞ 腎移植

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 病期や機能障害に応じた看護	急性腎不全 慢性腎不全 慢性腎臓病 腎移植術後 腎腫瘍、腎癌
15. 内分泌機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	甲状腺機能障害 副腎機能障害 下垂体機能障害 血糖調節機能障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	ホルモン血中・尿中濃度測定 ホルモン負荷試験 糖負荷試験<OGTT> 血糖自己測定<SMBG>
	C. 治療を受ける患者への看護	甲状腺ホルモン療法 甲状腺切除術 インスリン補充療法 糖尿病経口薬による治療 食事療法、運動療法
	D. 病期や機能障害に応じた看護	甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症) 腫瘍(甲状腺癌、下垂体腫瘍) 1型糖尿病 2型糖尿病
16. 身体防御機能の障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	皮膚粘膜障害 免疫機能障害(細胞性免疫、液性免疫、補体) 骨髄機能障害(好中球減少症を含む) 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	プリックテスト、パッチテスト 皮膚粘膜生検 骨髄検査
	C. 治療を受ける患者への看護	減感作療法 免疫抑制薬(ステロイド療法を含む) 造血幹細胞移植 抗ヒト免疫不全ウイルス<HIV>療法

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 病期や機能障害に応じた看護	アレルギー性疾患 自己免疫疾患（膠原病を含む） 血液疾患（造血器腫瘍、貧血、骨髄腫、血小板減少症） ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症
17. 脳・神経機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	生命維持活動調節機能障害 運動・感覚機能障害 言語機能障害 高次脳機能障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	脳波検査 腰椎穿刺 脳血管造影 画像検査（CT、MRI）
	C. 治療を受ける患者への看護	開頭術 穿頭術 血管バイパス術 血管内治療 脳室ドレナージ術 脳室－腹腔<V-P>シャント術 低体温療法
	D. 病期や機能障害に応じた看護	脳血管障害 脳腫瘍 脳炎、髄膜炎 頭部外傷 脊髄損傷 筋萎縮性側索硬化症<ALS>
18. 感覚機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	視覚障害 聴覚障害 嗅覚障害 味覚障害 触覚障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	眼底検査 聴力検査 経鼻内視鏡検査 味覚検査

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 治療を受ける患者への看護	眼底光凝固療法 網膜剥離手術 眼内レンズ挿入術 鼓室形成術
	D. 病期や機能障害に応じた看護	中途視覚障害者 突発性難聴 Ménière<メニエール>病 喉頭癌
19. 運動機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	姿勢機能障害 移動機能障害 作業機能障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	関節可動域<ROM>検査 徒手筋力テスト<MMT> 脊髓造影、椎間板造影 神経ブロック 筋生検
	C. 治療を受ける患者への看護	ギプス固定 牽引法 人工関節置換術 内視鏡下手術
	D. 病期や機能障害に応じた看護	関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断後 変形性膝関節症 骨折
20. 排尿機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	蓄尿・排尿障害 生命・生活への影響
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	尿検査（肉眼検査、試験紙法、尿比重） 尿流動態検査 残尿測定 膀胱組織検査 導尿
	C. 治療を受ける患者への看護	膀胱切除術 前立腺切除術 ホルモン療法

成人看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	D. 病期や機能障害に応じた看護	腎・尿路結石 腫瘍（膀胱癌、前立腺癌） 尿路感染症 尿失禁 前立腺肥大、前立腺炎
21. 性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護	A. 原因と障害の程度のアセスメントと看護	性・生殖機能障害（性ホルモンの異常と症状） 性ホルモン欠落症状
	B. 検査・処置を受ける患者への看護	ヒトパピローマウイルス<HPV>検査 経膈超音波検査、腹部超音波検査 乳房超音波検査 マンモグラフィ
	C. 治療を受ける患者への看護	勃起障害治療 性交障害治療 乳癌手術 女性生殖器手術 男性生殖器手術 ホルモン療法
	D. 病期や機能障害に応じた看護	女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍） 男性生殖器の疾患（勃起障害） 腫瘍（乳癌、子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、精巣腫瘍）

老年看護学

【老年看護学】

目標 I. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 高齢者の理解の基本となる概念	A. 老年期の発達と変化	ライフサイクルからみた高齢者 加齢と老化 老年期の発達課題
	B. 加齢への適応	高齢者にとっての健康と自立 サクセスフルエイジング ノーマライゼーション スピリチュアリティ
	C. 高齢者のいる家族の理解	家族構成とニーズの変化 高齢者のいる家族の発達課題 家族の機能の変化
2. 高齢者の生活	A. 高齢者の機能と評価	高齢者総合機能評価<CGA> 日常生活動作<ADL> 手段的日常生活動作<IADL> 障害高齢者の日常生活自立度<寝たきり度>判定基準 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 要介護・要支援の認定と区分 心理・情緒機能の評価
	B. その人らしい生活の継続	時代背景に関連する人生と経験の多様性、生活史 生活環境 生活習慣 生活リズム 治療・介護の必要度と生活の場 多様な生活の場とリロケーション
3. 高齢者の健康	A. 高齢者の健康と疾病	高齢者の健康の特徴 高齢者の疾病の特徴

老年看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 老年期における身体機能の変化	恒常性（防衛力、予備力、適応力、回復力）の維持 機能の低下 神経系 運動器系 感覚器系 循環器系 血液・造血器系 免疫系 呼吸器系 消化器系 代謝系 泌尿器系 内分泌系 生殖器系
	C. 老年期における認知機能の変化	知能 記憶力、判断力、計算力、遂行力
	D. 老年期における心理・社会的変化と健康への影響	役割と社会活動の変化 余暇活動と生きがい 住宅環境 就労、雇用 収入、生計
4. 老年看護の基本	A. 老年看護に用いられる概念・モデル・理論	エンパワメント ストレングスモデル 国際生活機能分類<ICF>
	B. 老年看護の倫理	高齢者差別（スティグマ、エイジズム） 高齢者虐待 高齢者の権利擁護<アドボカシー> 安全確保と身体拘束
	C. 高齢者の生活を支える制度と施策	高齢者の医療の確保に関する法律<高齢者医療確保法>に基づく制度 介護保険制度 成年後見制度 日常生活自立支援事業 地域包括ケアシステム

老年看護学

目標Ⅱ. さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護についての基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 高齢者の生活を支える看護	A. 高齢者のコミュニケーションの特徴と援助	高齢者のコミュニケーションの特徴 身体機能・認知機能・個性に応じたコミュニケーションの方法
	B. 高齢者の安全な活動への援助	高齢者の歩行、移動、姿勢保持の特徴 活動の縮小の影響(廃用症候群、フレイル、閉じこもり) 高齢者に多い事故(窒息、誤嚥、溺水、転倒・転落) 身体機能・認知機能に応じた安全な活動の維持・拡大の支援 身体機能・認知機能に応じた環境の整備
	C. 高齢者の食事・食生活の特徴と援助	高齢者の食事の特徴 低栄養 摂食・嚥下障害 身体機能・認知機能に応じた食事と食生活の支援
	D. 高齢者の排泄の特徴と援助	高齢者の排泄の特徴 尿失禁 便秘、下痢 身体機能・認知機能に応じた排泄の支援
	E. 高齢者の清潔と衣生活の特徴と援助	高齢者の皮膚機能の特徴 高齢者の清潔と衣生活の特徴 身体機能・認知機能に応じた清潔と衣生活の支援
	F. 高齢者の活動と休息のバランスの特徴と援助	高齢者の睡眠と生活リズムの特徴 身体機能・認知機能に応じた活動と休息の支援
	G. 高齢者における性<セクシュアリティ>	高齢者の性機能の特徴 高齢者にとっての性<セクシュアリティ>の理解と対応
6. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	A. 健康の維持・増進と介護予防	高齢者の保健行動の特徴 高齢者の健康の維持・増進 介護予防
	B. 急性期の高齢者への看護	急性期の高齢者の特徴 急性期における高齢者の看護
	C. 回復期の高齢者への看護	高齢者の疾患からの回復過程の特徴 急性期からの回復過程にある高齢者の看護
	D. 慢性期の高齢者への看護	慢性期の高齢者の特徴 疾患や障害とともに生きる高齢者の看護

老年看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	E. 終末期にある高齢者と家族への看護	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア アドバンス・ケア・プランニング<ACP> 苦痛の緩和と安楽への援助 精神的苦痛や混乱に対する援助 家族の参加と家族への支援
	F. 検査を受ける高齢者の看護	加齢による検査結果への影響 検査を受ける高齢者への身体機能・認知機能に応じた援助
	G. 外来を受診する高齢者の看護	高齢者への医療面接、フィジカルアセスメント 疾患・治療の理解と治療継続への援助
	H. 薬物治療を受ける高齢者の看護	高齢者の薬物動態の特徴 高齢者の服薬行動の特徴 ポリファーマシー 身体機能・認知機能に応じた服薬管理支援
	I. 手術療法を受ける高齢者の看護	高齢者に起こりやすい周手術期の反応と合併症 身体機能・認知機能に応じた周手術期看護
	J. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	リハビリテーションを受ける高齢者の特徴 身体機能・認知機能に応じたリハビリテーションにおける看護

老年看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	※各小項目の共通の中項目 A. 高齢者に特有な疾患・障害の病態と要因 B. 高齢者に特有な疾患・障害のアセスメント C. 高齢者に特有な疾患・障害の治療 D. 高齢者に特有な疾患・障害の予防と看護	脳血管疾患後遺症 慢性閉塞性肺疾患 骨粗鬆症 変形性関節症 骨折 感染症 前立腺肥大症 老人性皮膚掻痒症 気分障害 脱水症 白内障 老年期に特有のその他の疾患や症候
	E. 認知機能が低下した高齢者の看護	認知症の種類 認知症の症状 日常生活への影響 認知症の治療、非薬物療法 認知症の予防 認知症看護の基本的視点 認知症高齢者と家族の支援
8. 治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護	A. 疾患や障害をもつ高齢者の家族への支援	看護の対象としての家族 介護者の健康と社会生活 高齢者と家族の意思決定の支援 介護状況と介護力の評価 高齢者や家族の特徴に応じた家族への支援

目標Ⅲ. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
9. 多様な場で生活する 高齢者を支える看護	A. 医療施設に入院する高齢者の暮らしと看護	医療施設の種類と特徴 入院する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割
	B. 介護保険施設に入所する高齢者の暮らしと看護	介護保険施設の種類と特徴 介護保険施設における健康管理 入所者の暮らしの特徴と看護の役割
	C. 地域でサービスを利用しながら暮らす高齢者の暮らしと看護	地域密着型サービスの種類と特徴 居宅サービスの種類と特徴 福祉用具・介護用品の活用 サービスを利用する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割
	D. 生活の場を変える高齢者への支援	入院時・入所時・サービス利用開始時の援助 退院支援、退所支援 看護職間・他職種間の情報提供、目標の共有と評価
	E. 長期入院・入所高齢者の看護	長期入院・入所高齢者のアセスメント 長期入院・入所高齢者の生活上の課題と援助
	F. 多職種連携、チームアプローチ	介護職員の専門性と役割の共有 多職種の中での専門性の発揮 目標達成に向けた連携の方法
	G. 避難生活を送る高齢者の看護	避難所での生活と健康維持 災害における高齢者の心理的支援

小児看護学

【小児看護学】

目標 I. 子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 子どもと家族を取り巻く環境	A. 小児医療・小児看護の変遷と課題	小児医療の変遷と課題 小児看護の変遷と課題 諸統計からみた子どもと家族の健康課題
	B. 子どもの権利	小児医療における子どもの権利の変遷 小児医療・小児看護における倫理的配慮 子どもの権利擁護<アドボカシー>
	C. 子どもと家族を取り巻く社会資源の活用	母子保健施策の活用 小児保健医療福祉施策の活用 小児慢性特定疾病医療費助成制度
2. 子どもの成長・発達	A. 子どもの成長・発達の原則と影響因子	成長・発達の概念 成長・発達の原則 成長・発達に影響する因子 発達課題と発達理論
	B. 子どもの成長・発達のアセスメント	形態的成長と機能的発達の評価 身体発育の評価 発達検査 心理・社会的発達の評価

小児看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 小児期における成長・発達の特徴	神経系 運動器系 感覚器系 循環器系 免疫系 呼吸器系 消化器系 代謝系 泌尿器系 体温調節 大泉門、小泉門 生歯 認知、思考 社会性、道徳性 コミュニケーション、言語 情緒 アタッチメント、分離不安
3. 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護	A. 栄養と食生活	授乳 離乳 食生活 食育 食生活の乱れ
	B. 生活リズムの確立	睡眠 生活リズム 基本的な生活習慣の確立 ライフスタイル
	C. 遊びと学習	遊びの意義 遊びの分類と発達 運動と遊び 学習の意味
	D. 事故防止と安全教育	事故防止 安全教育 スポーツ外傷の予防
	E. 他者との関係	親子関係の確立 友達関係 社会化

小児看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	F. 感染症と予防	小児期に特徴的な感染症 予防接種 学校感染症
	G. セルフケアと保健教育	う歯の予防 近視の予防 生活習慣病の予防
	H. 問題行動の防止	喫煙・飲酒の防止 不登校の実態 いじめ・校内暴力の防止 自殺の防止 メディア利用の影響
	I. 思春期の成長・発達	第二次性徴 アイデンティティの確立 性<セクシュアリティ>意識の変化と逸脱行動 性への関心

小児看護学

目標Ⅱ．病気や診療・入院が子どもと家族へ与える影響と看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護	A. 病気に対する子どもの理解と説明	病気に対する子どもの理解の特徴 子どもの理解に関係する要因 発達に応じた病気の説明 インフォームド・アセント
	B. プレパレーション	子どもへの説明と同意 家族の準備状態の把握 検査・処置を受ける子どもと家族への支援
	C. 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護	成長・発達に及ぼす影響 病気や診療・入院に伴うストレスと影響要因 子どもの反応とストレス対処行動
	D. 子どもの病気や診療・入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護	子どもの病気や診療・入院に伴うきょうだい・家族のストレス きょうだい・家族のストレスへの支援
	E. 痛みを表現している子どもと家族への看護	子どもの痛みの受け止め方 痛みの表現方法 痛みの客観的評価 痛みの緩和に向けた援助
	F. 活動制限が必要な子どもと家族への看護	活動制限の目的 活動制限の身体的・心理社会的影響 子どもの発達に応じた日常生活への援助
	G. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護	隔離の目的・方法 隔離の身体的・心理社会的影響 子どもの発達に応じた日常生活への援助 家族の面会や付き添いにおける援助
	H. 外来における子どもと家族への看護	外来における緊急度の把握・トリアージ 外来における感染症対策 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 健康診査・育児相談

小児看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護	A. 小児特有の診療（検査、処置）に伴う技術と看護	バイタルサインの測定 身体計測 採血 採尿 骨髄穿刺 腰椎穿刺 与薬 吸入 注射 輸液療法 吸引 酸素療法 経管栄養

小児看護学

目標Ⅲ. 特別な状況にある子どもと家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
6. 特別な状況にある子どもと家族への看護	A. 虐待を受けている子どもと家族への看護	子どもへの虐待の特徴 虐待のリスク要因と虐待の早期発見 虐待の未然防止に向けての支援 多機関・多職種連携・協働
	B. 災害を受けた子どもと家族への看護	災害による子どもへの影響とストレス 災害を受けた子どもと家族への援助 災害時における緊急度の把握・トリアージ

小児看護学

目標Ⅳ. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
7. 急性期にある子どもと家族への看護	A. 急性症状のある子どもと家族への看護	急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 発熱 脱水 下痢、嘔吐 呼吸困難 けいれん
	B. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護	子どもの救急におけるトリアージと対応 子どもの意識レベル 主な誤飲物質と処置 子どもの熱傷の特徴・重症度および処置 溺水と処置 子どもの一次救命処置<BLS> 生命が危険な状況にある子どもと家族への援助
	C. 周手術期における子どもと家族への看護	子どもの手術の特徴 手術を要する健康障害と手術の時期 計画手術、緊急手術 日帰り手術 子どもと家族の術前準備 子どもの安全・安楽への援助 手術中・手術直後の家族への援助 手術後の身体状態のアセスメントと援助 退院に向けての援助
	D. 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護	ハイリスク新生児の特徴 集中治療における援助 親子・家族関係確立への支援
8. 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護	A. 先天性疾患や慢性的な経過をとる疾患をもつ子どもと家族への看護	子どもの疾患に対する家族の受容と援助 疾患による子どもと家族の生活の変化 多職種連携、地域連携 学習支援、復学支援 発達に応じたセルフケア能力の獲得・自立支援 セルフケア能力の獲得のための養育と家族への支援 成人診療科へのスムーズな転科を見据えた移行支援<トランジション>

小児看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 心身障害のある子どもと家族への看護	心身障害の定義と種類 重症心身障害児と家族 発達障害児と家族
	C. 医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護	入院生活から在宅への移行に向けた支援 多職種との連携と社会資源の活用 学校・保育所での支援 子どものセルフケア行動の促進
9. エンド・オブ・ライフ<end-of-life>にある子どもと家族への看護	A. 子どもの死の理解と看護	子どもの死の捉え方 死に対する子どもの反応
	B. 子どもと家族への緩和ケア	エンド・オブ・ライフ<end-of-life>にある子どもの心身の状態と緩和ケア 子どもの死を看取る家族の反応

母性看護学

【母性看護学】

目標 I. 母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象を取り巻く環境について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷	A. 母子を取り巻く環境	女性の就業率 婚姻、離婚 周産期医療のシステム 在留外国人の母子支援
	B. 妊娠期からの切れ目ない支援に関する法や施策	母子保健法 児童福祉法 児童虐待の防止等に関する法律 次世代育成支援対策推進法 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律<成育基本法> 子育て世代包括支援センター<母子健康包括支援センター>
	C. 働く妊産婦への支援に関する法や施策	雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律<男女雇用機会均等法> 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> 労働基準法
	D. 女性の健康支援に関する法や施策	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律<DV防止法> 母体保護法
2. 母性看護の基盤となる概念	A. リプロダクティブ・ヘルスに関する概念	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 性<セクシュアリティ> セックス、ジェンダー 性の多様性
	B. 母性・父性・家族に関する概念	母性、父性、親性 母親役割、父親役割 母子相互作用、愛着形成 家族の発達・機能
	C. 女性や母子へのケアに関する概念	ヘルスプロモーション ウェルネス 女性を中心としたケア<Women-centered care> 家族を中心としたケア<Family-centered care> プレコンセプションケア

母性看護学

目標Ⅱ. 女性のライフサイクル各期に応じた看護の基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 女性のライフサイクル各期における看護	A. 思春期・成熟期女性の健康維持への看護	第二性徴 性意識・性行動の発達 性行動、性反応 性周期（初経、月経）
	B. 思春期・成熟期女性の健康課題	月経異常、月経随伴症状 性感染症＜STI＞ 不妊症（男性不妊症、女性不妊症） 生殖補助医療 性暴力被害 人工妊娠中絶
	C. 更年期・老年期女性の健康と看護	ホルモンの変化

母性看護学

目標Ⅲ. 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 妊娠期の看護	A. 正常な妊娠経過と妊娠期の異常	ヒトの発生・性分化のメカニズム 妊娠期の定義 妊娠の成立 受精、着床 妊娠週数 妊娠の経過と胎児の発育 母体の生理的变化 妊婦と家族の心理・社会的変化 不育症、流産、早産 感染症 常位胎盤早期剥離 前置胎盤 妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病 妊娠貧血 妊娠悪阻 高年妊娠、若年妊娠 胎児機能不全
	B. 妊婦の健康生活とアセスメント	食生活 排泄 活動と休息 清潔 性生活 嗜好品（喫煙、アルコール、カフェイン） 妊娠による不快症状（マイナートラブル）
	C. 妊婦と家族への看護	食生活の教育 健康維持・増進、セルフケアに関する教育 マイナートラブルへの対処 家族の再調整 出産の準備 育児の準備
	D. 妊娠期の健康問題に対する看護	切迫流産、切迫早産 出生前診断

母性看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	E. 妊娠期のケアに必要な技術	Leopold<レオポルド>触診法 子宮底・腹囲の測定 間欠的胎児心拍数聴取 胎児心拍数陣痛図、ノンストレステスト<NST> 胎児の超音波断層法の介助 内診の介助
5. 分娩期の看護	A. 正常な分娩の経過と分娩期の異常	分娩期の定義 分娩の3要素 分娩経過と進行 胎児心拍数 陣痛、産痛、陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛） 破水、前期破水 分娩時異常出血 胎児機能不全
	B. 産婦の健康に関するアセスメント	産婦の基本的ニーズ 産婦の健康状態 産婦の心理・社会的状態
	C. 産婦と家族への看護	産婦の基本的ニーズへの支援 産痛の緩和 産婦と家族の心理への看護
	D. 分娩期の健康問題に対する看護	前期破水 帝王切開術 分娩時異常出血
6. 産褥期の看護	A. 正常な産褥の経過と産褥期の異常	産褥期の定義 産褥期の身体的特徴 全身の変化 生殖器の変化 乳房の変化 子宮復古不全 産褥熱 乳腺炎 マタニティブルーズ 産後うつ病

母性看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 褥婦の健康と生活のアセスメント	全身状態 子宮復古 分娩による損傷の状態 清潔 食事と栄養 排泄 活動と休息 母乳育児の状況、栄養法 児への愛着と育児行動 褥婦の心理・社会的状態
	C. 褥婦と家族への看護	産褥復古に関する支援 母乳育児への支援 褥婦の日常生活とセルフケア 育児技術獲得への支援 親子の愛着形成の支援 家族関係再構築の支援 退院後の生活調整、産後のサポート
	D. 産褥期の健康問題に対する看護	子宮復古不全 産褥熱 乳房トラブル 帝王切開術後

母性看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
7. 早期新生児期の看護	A. 早期新生児の生理的変化と異常	新生児期の定義 循環器系 呼吸器系 消化器系 代謝系 泌尿器系 神経系 運動器系 感覚器系 体温調節 生体の防御機能 新生児仮死 新生児一過性多呼吸<TTN> 呼吸窮迫症候群<RDS> 胎便吸引症候群<MAS> 高ビリルビン血症 新生児ビタミンK欠乏症 低血糖症
	B. 早期新生児期のアセスメント	Apgar<アプガー>スコア 成熟度の評価 外観 バイタルサイン 皮膚、皮膚色 頭部、顔面 体幹、四肢 外性器 神経学的状態 生理的体重減少 生理的黄疸 哺乳状態 排尿、排便 新生児マスキューニング

母性看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 早期新生児とその家族への看護	気道の開通 保温 全身計測 全身の観察 清潔 哺乳 感染予防 事故防止 保育環境
	D. 早期新生児の健康問題への看護	早産児、低出生体重児 高ビリルビン血症 新生児ビタミンK欠乏症 新生児蘇生

精神看護学

【精神看護学】

目標 I. 精神保健の基本と保持・増進に向けた看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 精神保健の基本	A. 精神の健康の概念	精神の健康の定義 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防
	B. 心の機能と発達	精神と情緒の発達 自我の機能 防衛機制 精神力動 転移感情
	C. 精神の健康に関する普及啓発	精神保健医療福祉の改革ビジョン 偏見、差別、スティグマ 自殺対策
	D. 危機<クライシス>	危機<クライシス>の概念 危機<クライシス>の予防 危機介入 ストレスと対処 適応理論
	E. 災害時の精神保健	災害時の精神保健医療活動 災害時の精神保健に関する初期対応 災害派遣精神医療チーム<DPAT> 災害時の精神障害者への治療継続
	F. 精神の健康とマネジメント	心身相関と健康 身体疾患がある者の精神の健康 精神疾患がある者の身体 患者と家族の精神の健康 保健医療福祉に従事する者の精神の健康 トラウマインフォームド・ケア<TIC>、逆境体験 性の健康に関連する状態

精神看護学

目標Ⅱ. 主な精神疾患・障害の特徴と看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
2. 主な精神疾患・障害の特徴と看護	A. 症状性を含む器質性精神障害	※ A～Kの共通の小項目 症状と看護 臨床検査および心理検査と看護 薬物療法と看護
	B. 精神作用物質使用による精神・行動の障害	
	C. 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	
	D. 気分＜感情＞障害	
	E. 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	
	F. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
	G. パーソナリティ障害	
	H. 習慣および衝動の障害	
	I. 知的障害＜精神遅滞＞	
	J. 心理的発達障害	
	K. 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害	

精神看護学

目標Ⅲ. 精神看護の対象の理解と支援のための概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 精神看護の対象の理解と支援のための概念	A. 援助関係の構築	信頼関係の基礎づくり 患者－看護師関係の発展と終結 プロセスレコードの活用 共同意思決定、共同創造<コプロダクション>
	B. セルフケアへの援助	食物・水分の摂取 呼吸 排泄 清潔と身だしなみ 活動と休息 対人関係 安全
	C. 生きる力と強さに着目した援助	レジリエンス リカバリ<回復> ストレングス<強み、力> エンパワメント

精神看護学

目標Ⅳ. 精神疾患・障害がある者の生物・心理・社会的側面に注目した、多角的なアセスメントに基づく看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
4. 精神疾患・障害がある者とその家族への看護	A. 脳の仕組みと精神機能	脳の部位と精神機能 神経伝達物質と精神機能・薬理作用 ストレス脆弱性 脳と免疫機能 睡眠と概日リズム<サーカディアンリズム>
	B. 心理・社会的療法	個人精神療法 集団精神療法、集団力動 心理教育的アプローチ 認知行動療法 生活技能訓練<SST>
	C. B以外の治療法	電気けいれん療法
	D. 身体状態に関する看護	身体合併症のある患者の看護 フィジカルアセスメントとケア
	E. 家族への看護	家族のストレスと健康状態のアセスメント 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント 家族システムのアセスメント 家族への教育的介入と支援 患者-家族関係の調整
	F. 社会復帰・社会参加への支援	リハビリテーションの概念 国際生活機能分類<ICF> 入院患者の退院支援、地域移行・地域定着支援
	G. 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 精神科デイケア、精神科ナイトケア 精神科訪問看護、訪問看護 精神科外来看護 アウトリーチ 行政との連携（保健所、市町村、精神保健福祉センター）

精神看護学

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	H. 社会資源の活用とケアマネジメント	精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 社会資源の活用とソーシャルサポート セルフヘルプグループ、家族会 自立支援医療 居宅介護<ホームヘルプ>、同行援護および行動援護 重度訪問介護 生活介護 短期入所<ショートステイ> 生活訓練 就労移行支援 就労継続支援A型・B型 共同生活援助<グループホーム> 地域生活支援事業 精神障害者保健福祉手帳

精神看護学

目標Ⅴ. 精神疾患・障害がある者の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 安全な治療環境の提供	A. 安全管理<セーフティマネジメント>	病棟環境の整備と行動制限 自傷行為、自殺企図、自殺予防 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム 災害時の精神科病棟の安全の確保
6. 精神保健医療福祉の変遷と法や施策	A. 患者の権利擁護<アドボカシー>	当事者の自己決定の尊重 入院患者の基本的な処遇 精神医療審査会 隔離、身体拘束
	B. 精神保健医療福祉の変遷と看護	諸外国における精神医療の変遷 日本における精神医療の変遷 精神保健医療福祉における看護師の役割
	C. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>の運用	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律<精神保健福祉法>の基本的な考え方 入院形態 精神保健指定医
7. 精神保健医療福祉における多職種連携	A. 多職種連携と看護の役割	連携する他職種（医師、歯科医師、保健師、助産師、精神保健福祉士、作業療法士、介護支援専門員、精神保健福祉相談員、ピアサポーター、薬剤師、公認心理師）の役割 多職種との調整・連携における看護の役割
	B. コンサルテーションと連携	コンサルテーション事例の特徴 コンサルテーションを担う職種の役割 リエゾン精神看護

在宅看護論／地域・在宅看護論

【在宅看護論／地域・在宅看護論】

目標Ⅰ．地域・在宅看護における対象と基盤となる概念、安全と健康危機管理について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 地域・在宅看護の対象	A. 在宅療養者の特徴と健康課題	子どもの在宅療養者 成人の在宅療養者 高齢の在宅療養者 疾病や障害をもつ在宅療養者
	B. 在宅療養者のいる家族の理解と健康課題	家族の定義 家族の機能 キーパーソン 家族発達論 家族システム論 生活様式
2. 地域・在宅看護における基盤となる概念	A. 在宅療養者を取り巻く環境の理解と健康課題	在宅療養者を取り巻く地域の特徴と健康課題 暮らしの場で看護する基本姿勢
	B. 在宅療養者の権利の保障	在宅療養者の権利擁護<アドボカシー> 虐待の防止 個人情報保護と管理 サービス提供者の権利の保護
	C. 在宅療養者の自立支援	価値観の尊重と意思決定支援 QOLの維持・向上 セルフケア 社会参加への援助 閉じこもりの予防
	D. 地域・在宅看護の目的と特徴	パートナーシップ 多職種・多機関の連携によるアプローチ 意思決定支援 自立支援 ケアマネジメント
3. 地域・在宅看護における安全と健康危機管理	A. 在宅療養者の日常生活における安全管理	家屋環境の整備 転倒・転落の防止 誤嚥・窒息の防止 熱傷・凍傷の防止 熱中症の予防

在宅看護論／地域・在宅看護論

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	B. 災害による暮らしへの影響	在宅療養者・家族が行う災害時の備え 発災時の対応と環境の変化
4. 地域・在宅看護実践をめぐり る制度の概要	A. 訪問看護制度の理解	訪問看護の対象と提供方法
	B. 地域・在宅看護におけるサービス体系の理解	訪問系サービス 通所系サービス 施設系サービス（入所、短期入所） 複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護） 在宅看護に関連する法令

在宅看護論／地域・在宅看護論

目標Ⅱ．在宅療養者の病期や症状、暮らし方に応じて展開する在宅看護実践について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
5. 療養の場に応じた地域・在宅看護	A. 病期に応じた在宅療養者への看護	慢性期にある在宅療養者と家族の看護 急性増悪した在宅療養者と家族の看護 終末期にある在宅療養者と家族の看護
	B. 療養の場の移行に伴う看護	入退院支援 退院前カンファレンス 意思決定支援 地域連携クリニカルパス
6. 症状・疾患・治療に応じた地域・在宅看護	A. 主な症状に応じた在宅看護	発熱 消化器症状 疼痛 呼吸困難感
	B. 主な疾患等に応じた在宅看護	医療的ケア児 認知症 精神疾患 難病 がん 脳血管疾患 呼吸器疾患 心不全 糖尿病
	C. 主な治療等に応じた在宅看護	薬物療法 化学療法、放射線療法 酸素療法 人工呼吸療法 人工的水分・栄養補給法<AHN> 褥瘡予防・管理 感染予防対策
7. 在宅療養生活を支える看護	A. 在宅療養者の生活機能のアセスメント	日常生活動作<ADL> 手段的日常生活動作<IADL>
	B. 在宅療養者の食事・栄養を支えるケア	食事摂取能力のアセスメント 食事内容の選択 栄養を補う食品の種類と選択方法 嚥下を促すケア 口腔ケア

在宅看護論／地域・在宅看護論

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
	C. 在宅療養者の排泄を支えるケア	排尿・排便のアセスメント 排泄ケア計画の立案 排泄補助用具の種類と使用 ストーマケア用品の種類と使用 尿道カテーテル管理
	D. 在宅療養者の清潔を支えるケア	清潔のアセスメント 清潔ケア計画の立案 清潔保持のためのケア
	E. 在宅療養者の移動を支えるケア	移動能力のアセスメント ノーリフトケア 移動補助用具の種類と使用 移動時の安全確保
	F. 在宅療養者のコミュニケーションを支えるケア	コミュニケーション能力のアセスメント 対象のコミュニケーション能力に応じた対応 補助機器の種類と使用

在宅看護論／地域・在宅看護論

目標Ⅲ．地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
8. 地域ケアシステムにおける多職種連携	A. 行政との連携	※ A～Fの共通の小項目 機関・職種の役割と機能 双方向で行う連携の目的 ケアマネジメント 看護の役割
	B. 地域包括支援センターとの連携	
	C. 居宅介護支援事業所との連携	
	D. 介護サービス事業所との連携	
	E. 医療機関との連携	
	F. その他の機関や住民との連携	
9. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護	A. 地域包括ケアシステムの概要	目的と考え方 構成要素 介護予防 生活支援 社会参加
	B. 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割	地域の多様な場における看護職の役割 訪問看護の役割

看護の統合と実践

【看護の統合と実践】

目標 I. 看護におけるマネジメントの基本について理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
1. 看護におけるマネジメント	A. 看護におけるマネジメントの目的と方法	看護マネジメントの目的とプロセス 看護組織の構成と職務 看護行政の動向と看護マネジメント
	B. 医療・看護における質の保証と評価、改善の仕組み	医療・看護の質保証と評価 医療・看護の標準化（標準看護計画、クリニカルパス）
	C. 看護業務のマネジメント	看護業務基準、看護手順 看護提供システム 複数の看護業務が同時に発生した場合の判断や対処方法
	D. 看護業務に関する情報に係る技術と取扱い	医療・看護業務に関する情報の活用と保管 診療記録等の電子化と医療情報システム
	E. 医療安全を維持する仕組みと対策	安全管理体制整備、医療安全文化の醸成 医療事故・インシデントレポートの分析と活用
	F. 看護師の働き方のマネジメント	看護師等の労働安全衛生 看護の交代勤務 ワーク・ライフ・バランスを促進する働き方

看護の統合と実践

目標Ⅱ．災害看護の基本的な知識を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
2. 災害と看護	A. 災害時の医療を支えるしくみ	災害に関する法と制度 災害時の医療体制
	B. 災害各期の特徴と看護	災害各期の特徴 災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程 災害時に生じやすい健康被害の特徴 災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護

看護の統合と実践

目標Ⅲ. 諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題について基本的な理解を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	小項目 (キーワード)
3. 国際化と看護	A. グローバル化に伴う世界の健康目標と課題	世界共通の健康目標 人間の安全保障 プライマリ・ヘルス・ケア
	B. グローバルな社会における看護	看護の対象となる人々（在留外国人、在外日本人、帰国日本人、国際協力活動を必要とする人々）の健康課題 多様な文化を考慮した看護

看護の統合と実践

目標Ⅳ. 複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる判断能力を問う。

大項目	中項目 (出題範囲)	
4. 臨床実践場面における統合的な判断や対応	A. 対象や家族に切れ目のない支援を提供するための継続した看護	※A～Eのテーマをもとに、専門分野の各科目で学んだ内容を統合し、臨床実践場面における状況設定問題として出題する。
	B. 複合的な状況にある対象や、複合的に提供されている看護の状況を判断し、危険を回避する取組み	
	C. 看護の提供者が、看護場面において自身の安全を確保するための総合的な判断や対応	
	D. 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	
	E. A～Dを促進するための多職種連携	

看護師国家試験出題基準・索引

1
1 型糖尿病 46

2
2 型糖尿病 46

A
ACP 42, 53
ADL 40, 50, 79
AED 10
AHN 79
AIDS 27
ALS 21, 47
Alzheimer病 21
AMR 17

B
BLS 34, 62
Buerger病 19

C
CAPD 45
CGA 50
COPD 19, 43
Crohn病 20, 45
CT 34, 44, 47

D
DIC 21
DV防止法 26, 64

E
EBN 31

F
Fallot四徴症 19

G
Guillain-Barré症候群 21

H
HIV 21, 27, 46, 47

HPV 49

I
IADL 50, 79
ICF 51, 74

L
Lewy小体型認知症 21

M
Ménière病 22, 48
MMT 48
MRI 34, 44, 47

O
OGTT 46

P
Parkinson病 21
PCI 44
PTSD 23

Q
QOL 3, 31, 77

R
ROM 48

S
SLE 21
SMBG 46
SpO₂ 34
STI 65

T
TTP 21

W
WHO 1

あ
愛着形成 64, 68
アウトリーチ 74

アシドーシス 20
アセスメント8, 32, 33, 34, 37, 39, 40, 42, 55, 56, 62, 68, 69, 74, 79, 80
アタッチメント 57
アドバンス・ケア・プランニング <ACP> 42, 53
アドボカシー 2, 51, 56, 76, 77
アナフィラキシーショック 21
アポトーシス 17
アルカロシス 20
アルコール 23, 66
アルコール性肝炎 20
アルツハイマー病 21
アレルギー 7, 17
アレルギー性疾患 21, 47
安楽 32

い

胃 14
胃潰瘍 20, 45
胃癌 45
育児・介護休業法 24, 64
意識障害 6
意識レベル 8, 37, 62
意思決定支援 42, 77, 79
医師法 30
移送 8
依存症 26
一次救命処置<BLS> 34, 62
遺伝子 11
医療安全 9, 32, 82
医療事故 82
医療的ケア 63
医療的ケア児 79
医療法 30
医療保険 1, 25
医療面接 18, 53
インシデントレポート 82
飲酒 29, 58
院内感染 18, 27
インフォームド・コンセント .. 2
インフルエンザ 21

う

ウイルス 17
 ウイルス性肝炎 18, 45
 ウェルネス 1
 う歯 19
 うつ病 23
 運動麻痺 6

え

栄養 14
 栄養所要量 14
 壊死<ネクロシス> 17
 エックス線撮影 34
 エネルギー代謝 14
 嚥下 14
 嚥下障害 6, 33, 44, 52
 炎症 17
 エンド・オブ・ライフ 63
 エンド・オブ・ライフ・ケア 42,
 53
 エンパワメント 39, 51, 73

お

横隔膜ヘルニア 20
 応急処置 37
 黄疸 6
 嘔吐 62

か

介護保険 2, 25, 51
 介護保険施設 55
 介護保険法 25
 介護予防 52, 81
 概日リズム<サーカディアンリズム> 11, 74
 回復期 52
 潰瘍性大腸炎 20, 45
 化学療法 18, 43, 79
 過活動膀胱 22
 隔離 59, 76
 下垂体 15
 家族機能 24
 家族形態 3, 36
 家族システム 74, 77
 学校 4, 63
 学校保健 28
 加齢 50

がん 6, 79
 肝炎 20
 肝臓 20, 45
 がん患者 41, 42
 肝機能障害 45
 がん検診 16
 肝硬変 20, 45
 看護過程 8, 32
 看護師等の人材確保の促進に関する法律 2, 30
 関節 12
 関節可動域<ROM>検査 48
 関節リウマチ 48
 感染経路別予防策 32
 感染症 6, 27, 28, 37, 38, 54,
 58, 66
 感染症法 27
 感染性廃棄物 32
 肝臓 14
 がん対策基本法 28
 カンファレンス 79
 緩和ケア 42

き

キーパーソン 77
 気管支炎 19, 43
 気管支喘息 19, 43
 基礎代謝 3, 14
 喫煙 1, 29, 58, 66
 気道 13
 基本的人権 2, 31
 基本的欲求 3
 虐待 61, 77
 逆流性食道炎 20
 吸引 9, 33, 43, 60
 嗅覚 12
 救急救命処置 62
 急性期 37, 52, 62
 急性腎不全 46
 吸入 43, 60
 救命救急処置 34
 胸骨圧迫 10
 狭心症 19
 虚血性心疾患 19, 44
 ギラン・バレー症候群 21
 切れ目のない支援 85
 筋萎縮性側索硬化症<ALS> 21,
 47

筋ジストロフィー 22

く

くも膜下出血 21
 クリニカルパス 82
 クリティカルケア 37
 クリティカル・シンキング 31
 クロウン病 20, 45

け

ケアマネジメント 75, 77, 81
 鶏眼 22
 経管栄養 60
 経管栄養法 9, 33
 経腸栄養法 9, 33, 44
 経皮的冠脈形成術<PCI> 44
 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO₂>
 34
 けいれん 6, 62
 下剤 7
 血圧 13, 33
 血液 13
 血液学検査 6
 血液型 13
 血液凝固 13
 血液生化学検査 6
 血液透析 45
 結核 21, 27
 血管造影 43
 月経異常 22, 65
 血小板減少症 47
 血栓性血小板減少性紫斑病
 <TTP> 21
 血糖自己測定<SMBG> 46
 下痢 6, 52, 62
 健康寿命 1, 27
 健康診査 28, 59
 健康診断 16, 28
 健康増進法 28
 健康日本21 28
 健康保険法 25
 言語障害 6
 言語的コミュニケーション 8
 権利擁護<アドボカシー> 2, 51,
 56, 76, 77

こ

降圧薬 7

抗がん薬 7
 高血圧 19
 抗血栓薬 7
 膠原病 47
 公衆衛生 27, 28
 恒常性 5
 甲状腺 15
 甲状腺機能亢進症 20
 甲状腺機能障害 46
 後天性免疫不全症候群<AIDS> 27
 高尿酸血症 20
 更年期 65
 更年期障害 22
 高ビリルビン血症 70
 高齢者医療確保法 25, 51
 高齢者医療制度 1
 高齢者総合機能評価<CGA> .. 50
 誤嚥 8, 9, 52, 77
 呼吸 14
 呼吸困難 6, 62
 呼吸障害 17
 国際化 84
 国際生活機能分類<ICF> 51, 74
 国民医療費 1
 国民皆年金 25
 国民健康保険 25
 個人情報 77
 子育て世代包括支援センター .64
 骨格 12
 骨格筋 12
 骨髄穿刺 60
 骨折 22, 48, 54
 骨粗鬆症 22, 54
 コミュニケーション 32, 52, 57, 80
 コミュニティ・グループ 24
 誤薬 9, 32
 雇用保険法 25
 コンサルテーション 76

ナ

サーカディアンリズム ... 11, 74
 災害 55, 61, 78, 83
 災害時 71
 細菌 17
 採血 9, 60
 再興感染症 27
 剤耐性菌 17

在宅療養者 77, 79, 80
 細胞 11
 細胞性免疫 46
 在留外国人 84
 産褥期 67
 酸素吸入 33
 酸素マスク 9
 酸素療法 9, 43, 60, 79
 三大栄養素 14

シ

死因 1, 27
 視覚 12
 子宮 15
 子宮筋腫 22, 49
 市区町村保健センター 27
 止血法 10, 34
 嗜好品 1
 自己免疫疾患 21, 47
 自殺 28, 58, 71, 76
 脂質異常症 20, 45
 歯周病 19
 思春期 58, 65
 視診 18, 32
 市町村 4
 失禁 8
 児童相談所 25
 自動体外式除細動器<AED> .. 10
 児童福祉法 26
 死の三徴候 5
 社会参加 40, 41
 社会的欲求 3
 社会保障制度 25
 周手術期 62
 周術期 37
 重症筋無力症 22
 重症心身障害児 63
 十二指腸潰瘍 20, 45
 終末期 33, 42, 79
 手術療法 18, 37, 41, 53
 受精 15, 66
 手段の日常生活動作<IADL> 50, 79
 術後合併症 37
 腫瘍 17, 19, 20, 21, 43
 循環障害 17
 昇圧薬 7

障害高齢者の日常生活自立度<寝たきり度>判定基準 50
 障害者基本法 26
 障害者総合支援法 26
 少子化 24, 26
 小腸 14
 小脳 11
 静脈 13
 食事療法 18, 45
 触診 18, 32
 褥瘡 10, 79
 食道 14
 食道癌 45
 助産所 4, 30
 ショック 6, 19, 37
 自律神経失調症 21
 腎移植 45
 腎盂腎炎 22
 腎炎 22
 腎癌 22
 心機能 12
 真菌 17
 心筋炎 19, 44
 心筋症 19
 神経 12
 神経細胞<ニューロン> 11
 新興感染症 27
 人口構造 24
 人工肛門 45
 人工呼吸 10
 人工呼吸療法 79
 人工的水分・栄養補給法<AHN> 79
 人工妊娠中絶 65
 侵襲的陽圧換 43
 新生児 69
 腎臓 14, 15
 陣痛 67
 心的外傷後ストレス障害<PTSD> 23
 心電図 34, 43
 深部静脈血栓症 19, 38, 44
 心不全 19, 44, 79
 腎不全 22
 心房中隔欠損症 19
 蕁麻疹 22
 診療所 4, 30

す

脾臓 14
 睡眠障害 6
 健やか親子21 (第2次) 28
 スタンダードプリコーション . 9,
 32
 ステロイド療法 46
 ストーマ 80
 ストレス1, 16, 36, 59, 61, 71,
 72

せ

成育基本法 64
 生活習慣 16
 生活習慣病 6, 29, 36, 58
 生活保護法 26
 性感染症<STI> 65
 性行動 65
 清拭 8
 性周期 15, 65
 精神作用物質 23, 72
 精神疾患 6, 71, 79
 精神保健 28
 精神保健福祉法 26, 76
 精巣 15
 セーフティマネジメント 32, 37,
 76
 世界保健機関<WHO> 1
 脊髄 11
 セクシュアリティ ... 52, 58, 64
 赤血球 13
 摂食障害 23
 セルフケア 31, 38, 39, 58, 62,
 63, 66, 73, 77
 セルフヘルプグループ 75
 染色体 11
 全身性エリテマトーデス<SLE>
 21
 先天異常 17
 先天性疾患 62
 先天性心疾患 19
 洗髪 8
 せん妄 23
 前立腺 15
 前立腺炎 22, 49
 前立腺癌 22, 49
 前立腺肥大 22, 49

そ

臓器移植 18
 臓器不全 17
 創傷 10, 17, 34, 37
 ソーシャルサポート . 24, 74, 75
 鼠径ヘルニア 20

た

体位ドレナージ 9
 体位変換 8
 退院支援 39, 55, 74
 退院調整 4, 38, 39
 体液 13
 体温 15
 代謝機能障害 45
 帯状疱疹 22
 大腸 14
 大腸癌 45
 大腸ポリープ 20
 大動脈解離 19
 大動脈瘤 44
 第二次性徴 3, 58, 65
 大脳 11
 胎盤 13
 代理意思決定支援 37, 42
 多職種連携 39, 40, 55, 62, 76,
 81, 85
 打診 18, 32
 脱水 6, 20, 62
 脱水症 54
 胆管炎 20
 男女雇用機会均等法 24, 64

ち

チアノーゼ 6
 地域ケアシステム 81
 地域包括ケアシステム .. 25, 51,
 74, 81
 地域包括支援センター 4, 25, 81
 地域保健 28
 地域保健法 27, 28
 地域密着型サービス 55
 チーム医療 4
 窒息 9
 知的障害 72
 乳房 15
 中心静脈栄養法 44

虫垂炎 20
 超音波 34, 49
 聴覚 12
 聴診 18, 32
 腸蠕動音 8

つ

椎間板ヘルニア 22, 48

て

適応障害 23
 転移 41
 電解質 45
 電解質バランス 13
 てんかん 21
 点滴静脈内注射 9
 転倒 9, 32, 52, 77
 転落 9, 32, 52, 77

と

統合失調症 23, 72
 導尿 8, 48
 糖尿病 7, 20, 29, 79
 糖負荷試験<OGTT> 46
 動脈 13
 特定健康診査 29
 特定保健指導 29
 徒手筋力テスト<MMT> 48
 トランジション 62
 トリアージ 10, 59, 61, 62
 ドレーン管理 37

な

内視鏡 18, 34
 難聴 22
 難病 42, 79
 難病法 28

に

日常生活援助 8
 日常生活援助技術 33
 日常生活動作<ADL> 40, 50, 79
 乳癌 22, 49
 乳腺炎 22
 入退院支援 79
 ニューロン 11
 尿管 14

尿検査 6
 尿失禁 33, 49, 52
 尿道カテーテル 80
 尿路感染症 49
 妊娠期 66
 妊娠経過 66
 認知症 21, 54, 79
 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 50

ね

ネクロシス 17
 熱傷 37, 62, 77
 熱中症 37, 77
 ネブライザー 9

の

脳血管疾患 79
 脳血管障害 21, 47
 脳梗塞 21
 脳腫瘍 47
 ノーマライゼーション 2, 25, 50

は

パーキンソン病 21
 バージャー病 19
 パーソナリティ障害 72
 肺 13
 肺炎 19, 43
 肺癌 19, 43
 敗血症 21
 肺血栓塞栓症 38
 排泄 33
 肺塞栓症 19, 44
 バイタルサイン .8, 32, 37, 60, 69
 排痰法 33
 排尿障害 22
 廃用症候群 .8, 17, 38, 40, 52
 白内障 22, 54
 麻疹 21
 播種性血管内凝固<DIC> 21
 発達課題 31, 36, 50, 56
 発達障害児 63
 パニック障害 23
 針刺し 32

ひ

非言語的コミュニケーション .8
 鼻腔カニューラ 9
 非侵襲的陽圧換気 43
 悲嘆 42
 ヒトパピローマウイルス<HPV>
 検査 49
 ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感
 染症 21, 27, 47
 皮膚炎 22
 肥満 45
 肥満症 20
 病院 4, 30
 病原体 17
 標準予防策<スタンダードプリ
 コーション> 9, 32
 ビリルビン 14
 貧血 6, 21, 47

ふ

ファロー四徴症 19
 フィジカルアセスメント .8, 32, 53, 74
 風疹 21
 副作用 (有害事象) 7, 9, 18, 34
 副腎皮質ステロイド薬 7
 腹膜透析<CAPD> 45
 浮腫 20
 扶助 26
 不整脈 6, 19, 44
 不妊症 65
 プライマリ・ヘルス・ケア ... 84
 フレイル 52
 プレコンセプションケア 64
 プレパレーション 59
 分娩 67
 分娩期 67

へ

平均寿命 1, 27
 平均余命 1, 27
 平衡感覚 12
 ペースメーカー 44
 ヘルスプロモーション ... 27, 64
 変形性関節症 22, 54
 変形性膝関節症 48
 便失禁 33

膀胱 22
 便秘 6, 52
 弁膜症 19

ほ

保育所 63
 防御機構 13
 膀胱 14
 膀胱炎 22
 放射線治療 18
 放射線療法 41, 79
 包帯法 34
 訪問看護 78, 81
 訪問看護ステーション ... 4, 30
 保健師助産師看護師法 ... 2, 30
 保健所 27, 74
 母子健康手帳 28
 母子保健 28, 56
 母子保健法 64
 母体保護法 64
 ボディイメージ 37, 38
 ボディメカニクス 8, 32
 母乳育児 68
 ポリファーマシー 53
 ホルモン 15
 ホルモン療法 48

ま

麻酔 18, 37
 マネジメント 82
 麻薬 7
 慢性期 52, 79
 慢性呼吸不全 42
 慢性疾患 39
 慢性腎臓病 22, 46
 慢性心不全 42
 慢性腎不全 46
 慢性閉塞性肺疾患<COPD>19, 43
 マンモグラフィー 49

み

味覚 12
 民生委員 25

め

迷走神経反射 19
 メタボリックシンドローム ... 20

滅菌 9
 メニエール病 22, 48
 免疫異常 17
 免疫血清学検査 6

も

毛細血管 13
 モニタリング 34
 問診 18, 32

や

薬害 18
 薬剤耐性<AMR> 17
 薬疹 22
 薬物 7, 18, 23
 薬物依存 26
 薬物治療 53
 薬物動態 18, 53
 薬物療法 9, 41, 43, 79
 薬理作用 18
 薬効 9

ゆ

有害事象 7, 9, 18, 34

有訴者 1
 有病率 1, 27
 輸液 9, 34
 輸液療法 60
 輸血 9, 18, 34

よ

要介護 2, 50
 要介護認定 25
 要支援 2, 50
 腰椎穿刺 60
 予防接種 16, 27, 58
 与薬 9, 34, 60

ら

ライフサイクル 31, 50, 65
 ライフスタイル 24, 36, 57
 卵巣 15

り

罹患率 1, 27
 リスクアセスメント 37
 利尿薬 7

リハビリテーション 18, 40, 53, 74
 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 64
 流行性耳下腺炎 21
 療養環境 32, 33
 緑内障 22
 臨死期 42
 リンパ液 13
 リンパ節 13
 倫理原則 2

れ

レビー小体型認知症 21

ろ

労働安全衛生法 24, 29
 労働基準法 24, 64
 老年症候群 17

わ

ワーク・ライフ・バランス¹, 29, 82

医道審議会保健師助産師看護師分科会

保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会
報告書

令和3年3月31日

**医道審議会保健師助産師看護師分科会
保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書**

目次

I. はじめに.....	1
II. 改善すべき事項.....	1
1. 保健師助産師看護師国家試験問題について.....	1
1) 出題内容について.....	1
2) 状況設定問題について.....	2
3) 出題数等について.....	3
4) 試験時間について.....	3
5) 既出問題について.....	3
6) 出題形式について.....	3
7) 評価領域分類 (Taxonomy) について.....	4
8) 視覚素材について.....	4
2. 保健師助産師看護師国家試験の合格基準について.....	4
3. 保健師助産師看護師国家試験問題の公募について.....	4
4. 保健師助産師看護師国家試験出題基準について.....	5
1) 改善事項について.....	5
2) 出題基準の適用時期について.....	5
III. ICTの進展等の近年の社会的状況や「新しい生活様式」及び災害等の非常時への対応を 踏まえた保健師助産師看護師国家試験のあり方について.....	5
IV. おわりに.....	6
保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会委員.....	8

I. はじめに

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験（以下「保健師助産師看護師国家試験」という。）は、保健師助産師看護師法第17条に基づき、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識及び技能を評価するものであり、社会の変化や看護を取り巻く環境の変化に合わせ、定期的に改善を行ってきている。最近では、平成28年2月にとりまとめられた「保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書」（以下「前回の報告書」という。）に基づき、長い状況文を付した単問の状況設定問題の導入や出題内容の見直し等の改善がなされたところである。

また、看護基礎教育について、令和元年10月にとりまとめられた看護基礎教育検討会報告書を踏まえ、保健師助産師看護師学校養成所指定規則を一部改正し、令和3年4月に施行することとしている。

こうした状況の中、保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会では、前回の報告書を踏まえて近年の保健師助産師看護師国家試験の評価を行い、保健師助産師看護師国家試験における諸課題及び改善すべき事項について、令和2年11月より5回にわたって議論を重ね、検討を行った。今般、保健師助産師看護師国家試験制度の改善に関する基本的な方向性等について、意見を取りまとめたので、ここに報告する。

II. 改善すべき事項

1. 保健師助産師看護師国家試験問題について

1) 出題内容について

前回の報告書に示された保健師助産師看護師国家試験の出題内容についての改善すべき事項は、平成30年版保健師助産師看護師国家試験出題基準に反映され、近年の国家試験ではこれに沿って出題されており、これまでの出題内容は概ね妥当である。

保健師助産師看護師国家試験においては、看護を取り巻く状況の変化及び教育実態を踏まえ、看護基礎教育を修了した時点で備えているべき基本的な事項かつ全ての保健師助産師看護師学校養成所で教育されているべき標準的な教育内容から出題することに引き続き留意する必要がある。

また、保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴い、令和4年度入学生から適用となる看護基礎教育カリキュラムの改正内容や看護基礎教育検討会報告書を踏まえた出題内容の見直しが必要である。

※参照：5頁 4-1)

① 看護に求められる判断プロセスに係る出題について

前回の報告書を踏まえ、出題の意図に応じて看護に求められる判断プロセスを問う問題が出題されるよう内容別類型*1を選択し問題の作成が行われてい

る。また、出題内容に合わせて、i) 判断プロセスについて問う、ii) 判断そのものを問う、iii) 判断するために必要な情報は何かを問う、iv) 情報を列記した中で優先度を問う、v) 介入の結果から判断の根拠を問うなどの内容を出題することとしている。保健師助産師看護師それぞれの実践場面において、介入を通して直接得る多様な情報を判断し看護を決定していくプロセスを問うことは重要であるため、出題の意図に応じた判断プロセスを問う問題積極的に出題していく必要がある。

② 保健師助産師看護師国家試験で問う知識の新しさについて

保健師助産師看護師国家試験で問う知識の新しさについては、前回の報告書を受け、近年の統計データや改正された法令等について出題されており、最新の知識を問う内容となっている。引き続き、この方針で出題することとするが、受験生の習熟度に留意して出題することが望ましい。

2) 状況設定問題について

① 出題の意図の明確化について

前回の報告書を受け、問題作成の際に、内容別類型*1を用いて出題の意図を類型化することにより意図の明確化を図っている。状況設定問題における出題の意図の明確化の重要性に鑑み、引き続き、出題の意図を明確化することが求められる。

② 状況設定問題における出題内容

保健師国家試験においては、保健師に必要な地域診断等の判断力を問う出題の必要性があることを踏まえ、データ化された情報を活用した状況設定問題が近年出題されている。また、助産師国家試験においては、正常からの逸脱を予測・判断して対応するといった実践能力を問う必要があることから、正常からの逸脱に関する臨床に即した状況設定問題が出題されている。看護師国家試験においては、根拠に基づいたアセスメントや計画立案に基づく看護実践における思考や判断プロセスを問う問題が出題されている。これらは、前回の報告書で指摘された内容であり、看護基礎教育修了時に求められる知識・技能を評価することを踏まえた出題がされている。引き続き、保健師助産師看護師国家試験においてこの方針で出題することが望ましい。

③ 長い状況文を付した単問について

平成29年の保健師助産師看護師国家試験より、多くの情報の中から必要な情報を取捨選択する能力や根拠に基づいて状況を判断する能力を問うため、長い状況文を付した単問の状況設定問題が導入されているが、正解率及び識別指数が低い傾向にある。また、長い状況文を付した単問の状況設定問題が導入された趣旨が反映されていない問題もみられ、配点が異なる一般問題の短い状況設定を付した問題との違いが不明瞭な状況となっている。このため、長い状況文を付した単問の状況設定問題を導入した趣旨を踏まえた出題の徹底及び出題の意図の明確化を行い、思考プロセスを問う出題となるよう改善が必要であ

る。また、一般問題の短い状況設定を付した問題との差別化のため、長い状況文を付した単問の状況設定問題については評価領域分類（Taxonomy）^{*2}Ⅲ型を中心に出题することが望ましい。

3) 出題数等について

平成27年度の保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会において、保健師助産師看護師国家試験の出題数についての妥当性の検証が行われており、それ以降、保健師助産師看護師国家試験の構成に変更がないことから、引き続き、現行の出題数を維持することが妥当である。

一般問題における短い状況設定を付した問題や状況設定問題における長い状況文を付した単問については、試験時間の制限があることや、これまでの出題状況を踏まえ出題する必要がある。また、試験問題の設問文等の総文字数が問題の難易度に影響しうることや、試験時間の制限や受験生への負荷に配慮する観点から、設問文等の総文字数に留意して問題を作成することが望ましい。

4) 試験時間について

一般問題においては、評価領域分類（Taxonomy）Ⅰ型もしくはⅡ型を中心に出题すること（※）、また、今後も短い状況設定を付した一般問題を出题する方針である。状況設定問題においては、長い状況文を付した単問を今後も出题していく方針である。このような出题方針の下、出題数を維持しつつ十分な試験時間を確保するため、現行の試験時間を踏まえ、保健師国家試験及び助産師国家試験においては試験時間を延長することが望ましい。看護師国家試験においては現状維持とする。

（※） 7) 評価領域分類（Taxonomy）において後述

5) 既出問題について

既出問題の活用は、難易度の安定化の観点からも有用であり、引き続き活用する。

看護師国家試験における必修問題は、看護師にとって特に重要な基本的事項を問うものであることから、限られた範囲の中で繰り返し問うことが妥当であると考えられる。そのため、重要な基本的事項を繰り返し出題するなど、必修問題においてはより積極的に既出問題を活用していく。

また、保健師助産師看護師国家試験の一般問題及び状況設定問題において既出問題を活用する際には、活用する既出問題の正解率等をよく吟味した上で選択し、表現や選択肢を変更する際には、難易度への影響に留意し検討することが必要である。

6) 出題形式について

現行の保健師助産師看護師国家試験においては、4肢Aタイプ^{*3}、5肢Aタイプ及び5肢X2タイプ^{*4}の出題形式が用いられている。近年の保健師助産師看護師国家試験における出題形式別の出題割合や正解率等に大きな偏りはなく妥当である。引き続き、出題の意図や出題内容などに適した肢数や形式で出

題することが望ましい。

非選択式の計算問題は、近年、状況設定問題においても出題され、計算問題の正解率及び識別指数からみても妥当な出題となっている。引き続き、出題の意図を明確にした上で、非選択式の計算問題を出題することが望ましい。

7) 評価領域分類 (Taxonomy) について

看護師国家試験の必修問題は評価領域分類 (Taxonomy) I 型で出題されており、必修問題の趣旨からすると妥当である。状況設定問題は概ね II 型及び III 型で出題されている。状況設定問題においては、教育で培われた状況判断や実践能力を問う必要があることから、引き続き、II 型及び III 型で出題することが望ましい。また、一般問題については、引き続き I 型もしくは II 型を中心に出題することが望ましい。

8) 視覚素材について

試験問題に写真やカラーのイラスト・図表等の視覚素材を用いることでより具体的に問うことができるため、保健師助産師看護師国家試験において視覚素材を活用した問題が一定数出題されている。保健師国家試験及び看護師国家試験では、図表等のデータをもとに情報を理解・解釈して必要な介入を判断するような問題、助産師国家試験では超音波画像や胎児心拍数陣痛図等の診断に関する問題、さらに看護師国家試験では画像を活用した問題が出題されており、視覚素材が有効に活用されている。引き続き、視覚素材を活用して出題することが望ましい。

2. 保健師助産師看護師国家試験の合格基準について

保健師助産師看護師国家試験の合格基準については、経年的な合格状況や得点状況を踏まえ、現状維持とすることが望ましい。

3. 保健師助産師看護師国家試験問題の公募について

試験問題の公募については、平成 30 年度より協力依頼を行う団体を増やし、また公募に必要な登録が円滑に行えるようシステムの ID 等を事前に付与する等の対応を行ってきている。しかしながら、公募問題および状況設定問題の素材となる情報や視覚素材の登録数が少ない状況がある。そのため、問題の素材となる情報を含め更なる公募促進の工夫を行っていく。例えば、団体等への公募問題の登録に関する協力依頼時に、問題作成のプロセスを教員を含む看護職員の継続教育の一環として活用し、作成した問題を公募問題として登録する等、具体的な促進方法を提案することなどが考えられる。

4. 保健師助産師看護師国家試験出題基準について

1) 改善事項について

保健師助産師看護師国家試験出題基準においては、看護基礎教育が修了した時点で備えているべき基本的な事項を問うために保健師助産師看護師のそれぞれの特徴を反映して出題されるよう、教育内容を踏まえ、改めて出題基準の体系や項目の見直しを行う。また、小項目の表現が限定的な内容となり過ぎている項目については抽象度を見直し、また、小項目は中項目に関する内容をわかりやすくするために示したキーワードであることが明確となるよう見直しを行う必要がある。

看護師国家試験出題基準において「看護の統合と実践」については、前回の報告書を踏まえ、複合的な事象においてより臨床実践に近い形で知識・技能を統合して判断する能力を問う出題内容となるよう大・中・小項目を新たに作成し、見直したが、実際の試験問題の作成過程において難易度が上がりやすい等の課題があった。このため、教育内容としての「看護の統合と実践」の導入の趣旨をふまえ、看護基礎教育を修了した時点で備えているべき基本的な事項として問う内容が明確となるよう項目を整理することが望ましい。

※参照：1頁 1-1)

2) 出題基準の適用時期について

改定された出題基準の適用時期については、出題基準の改定に関する今後の検討及び周知期間を勘案し、令和5年実施の第109回保健師国家試験、第106回助産師国家試験、第112回看護師国家試験から適用することが望ましい。

その際、令和5年実施の保健師助産師看護師国家試験から数年間は改正前のカリキュラムで学んだ受験者と改正後のカリキュラムで学んだ受験者が混在することから、当該国家試験の受験に際して、両者ともに不利益を被ることがないよう、特段の配慮が必要である。

また、看護師国家試験の試験科目を改正する省令（保健師助産師看護師法施行規則の一部を改正する省令）が施行されるまでの間、出題基準に「在宅看護論」を併記することが必要である。

Ⅲ. ICTの進展等の近年の社会的状況や「新しい生活様式」及び災害等の非常時への対応を踏まえた保健師助産師看護師国家試験のあり方について

保健師助産師看護師国家試験は医療提供体制を支える人材を確保する上で重要であり、近年の自然災害の多発や、今般の新型コロナウイルス感染症の発生等を踏まえ、危機管理の観点から対策を検討する必要がある。また、近年のICTの進展等を踏まえ、保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用についても積極的に検討を行っていく必要がある。

危機管理の観点からの対応として、令和3年の医療関係職種の世界国家試験においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、感染予防対策を取り

入れた国家試験の運用が行われ、また、看護師国家試験においては試験日前日の深夜に発生した地震の影響を踏まえ、試験開始時刻を遅らせることで試験が実施された。今後、保健師助産師看護師国家試験の実施に影響を与える危機発生時においても国家試験への影響をできるだけ少なくするため、これまでの経験を踏まえ、対応策の早急な整理・検討が必要である。

保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用については、画像や音声等のマルチメディアを活用した出題等が可能となるなど、より臨床状況に即した内容を問うことが期待できる。また、保健師助産師看護師に求められる判断プロセスに関連する知識や技能をより深く問うことが期待される。さらに、実施方法によっては、異なる日時においても受験が可能となることも考えられる。一方で、実施方法、出題手法、合格基準、IT環境の整備、諸経費等の検討課題が挙げられ、さらに看護基礎教育課程におけるICT等の活用状況についても考慮する必要がある。また、実施方法によっては試験問題のプール制や非公開化などの検討も求められる。保健師助産師看護師国家試験におけるコンピュータの活用については、医師をはじめとする他職種の国家試験における検討状況等も参考にしつつ、まずは検討に必要な情報の整理を行っていく必要がある。さらに、コンピュータ活用の目的及び課題の明確化を行い、多様な手法の中から実効性と目的に合致した手法を選択し段階的に取り入れる等、着実に検討を進める必要がある。

IV. おわりに

人口及び疾病構造の変化が一層進む中、多様な場で看護を提供することが求められており、こうしたニーズに即した看護職の養成に対する期待が高まっている。このような状況の中、本部会では、国家試験が保健師、助産師及び看護師としての資質を適正に問うことができているかについて検討し、看護を取り巻く状況の変化及び教育実態を踏まえ、引き続き、看護基礎教育を修了した時点で備えているべき基本的な事項を問うことの重要性を再確認した上で、見直しの方向性を示した。

保健師助産師看護師国家試験制度については、急速に変化する社会情勢の中で求められる看護の質を保証していく上で重要であり、看護関係者全体で本制度のより良いあり方に向けて取り組み続けるためにも、今後も定期的に議論を継続していくことが重要である。

以上

【注釈】

* 1 内容別類型

出題の意図を、①経時的に変化する状況の中で展開する看護活動等を問う問題、②看護における思考や判断プロセスを問う問題、③個人・家族・集団・地域など、多様な対象や状況に対して展開する看護活動を問う問題、④これらが複合している問題に分類すること。

* 2 評価領域分類 (Taxonomy)

教育目標毎に問題の解答に要する知的能力のレベルを分類したもので、一般には認知領域ではⅠ・Ⅱ・Ⅲ型に分類される。Ⅰ型は単純な知識の想起によって解答できる問題であり、Ⅱ型は与えられた情報を理解・解釈してその結果に基づいて解答する問題であり、Ⅲ型は設問文の状況を理解・解釈した上で、各選択肢の持つ意味を解釈して具体的な問題解決を求める問題である。

* 3 Aタイプ

複数の選択肢から1つの正解肢を選ぶ出題形式。

* 4 X2タイプ

複数の選択肢から2つの正解肢を選ぶ出題形式。

【参考】

1. 保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書(平成28年2月)
2. 保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成30年版

医道審議会保健師助産師看護師分科会
保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会委員

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 朝倉 京子 | 東北大学大学院医学系研究科教授 |
| 池西 静江 | 日本看護学校協議会会長 |
| 伊藤 圭 | 独立行政法人大学入試センター試験基盤設計研究部門准教授 |
| 宇佐美 慧 | 東京大学高大接続研究開発センター准教授 |
| 釜薙 敏 | 公益社団法人日本医師会常任理事 |
| ◎萱間 真美 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 |
| 岸 恵美子 | 全国保健師教育機関協議会会長 |
| 佐々木 幾美 | 日本赤十字看護大学看護学部長／教授 |
| 島田 真理恵 | 日本助産師会会長 |
| 鈴木 良美 | 東京医科大学医学部看護学科教授 |
| 高田 昌代 | 神戸市看護大学教授 |
| 滝口 裕一 | 千葉大学大学院医学研究院教授 |
| ○春山 早苗 | 自治医科大学看護学部長／教授 |
| 林 直子 | 聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 |
| 福井 トシ子 | 公益社団法人日本看護協会会長 |
| 村上 明美 | 全国助産師教育協議会会長 |
| 森 真喜子 | 国立看護大学校看護学部教授 |
| 吉沢 豊予子 | 日本看護系大学協議会理事 |
| 吉田 知可 | 全国保健師長会常任理事 |
| 米山 万里枝 | 東京医療保健大学医療保健学部看護学科教授 |

(敬称略、五十音順)

◎は部会長

○は部会長代理